

# 大阪市立自然史博物館館報

42

(平成 28 年度)



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成 29 年 6 月 1 日発行

# 目 次

---

巻頭言	1
「大阪市立自然史博物館の運営に携わるものの行動規範」について	2
調査研究事業	4
資料収集保管事業	19
展覧事業	28
普及教育事業	33
広報事業	43
刊行物・情報システム	46
連携（ネットワーク）	48
庶務	50

---

# 巻 頭 言

主任学芸員 波戸岡 清 峰\*

平成12年から14年にかけて、文部科学省委嘱事業として、当博物館を中心に環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会（以下、環瀬戸ネット）が結成され、瀬戸内海を囲む地域の自然史系博物館の連携による、地域の自然の紹介や普及活動事業が行われた。瀬戸内ネットの事業を継続・発展させるために、平成16年には、特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク（以下、西日本ネット）が立ち上げられた。西日本ネットでは、環瀬戸ネットの参加館に加え、西日本を中心とした全国規模の博物館連携ネットワークが構築されている。予算の縮小や人員の減少により単独館では解決の難しい問題や、地域横断的なイベントの開催において、西日本ネットは大きな役割を果たしている。そして、西日本ネットをはじめとした博物館間の連携活動は、当館の重要な事業の一つとして位置づけられている。

当館ではこのような博物館同士の連携を活かし、平成24年4月から5年間、「瀬戸内海の自然探究」をテーマとした調査研究・標本収集、市民参加型の観察会および、その成果を基にした特別展示・講演会を実施した（JSPS科研費、基盤研究A 課題番号JP24240113「自然史系博物館等の広域連携による『瀬戸内海の自然探究』事業の実践と連携効果の実証」（研究代表者：波戸岡清峰））。この科研費による研究は、10年以上当館が積極的に進めてきた博物館連携が、地域の自然資料の収集や展示会の開催、普及教育にどれだけ寄与するかを改めて実証する機会となった。

**調査研究・標本収集：**動物、昆虫、植物、地学のそれぞれの分野の学芸員により、海産無脊椎動物、魚類、鳥類、海浜性昆虫、海浜性植物、地質や海岸の砂などの分布調査や標本収集が行われた。沿岸域は干潟を中心に調査がなされたが、沖合のものについては、大学実習船への乗船や、各地域の漁業組合などの協力によった。もちろん、調査にあたっては地元の博物館など連携・協力があつたことは言うまでもない。特に魚類調査については、今回の標本採集および当館の収蔵標本に基づき、瀬戸内海の魚類研究の基礎的資料になる「瀬戸内海産魚類目録」（46ページ参照）として結実した。

**市民参加型の観察会：**地域の人々に身近な自然についてより深く知って頂くため、調査と平行して地域の博物館等との合同による観察会を実施した（岡山県高梁川河口や笠岡の干潟、別府湾沿岸の干潟、大阪府泉佐野漁港、山口県宇部岬漁港、愛媛県桜井漁港）。漁港での観察会では、地域博物館等と漁業者の方々の普段からの交流が、行事の円滑な運営、他地域博物館学芸員の現地調査に役立つことが実証された。

**展示：**瀬戸内海の自然に関する特別展の先駆けとして特別展「いきものいっぱい大阪湾～フナムシからクラマまで～」を平成25年に開催した。その後、瀬戸内海地形模型、アリジゴク等の拡大模型、サワラ等のレプリカ、展示パネルを作製して巡回キットとし、「イチ押し！瀬戸内海の自然トピックス」というタイトルのもと、岡山県倉敷市（平成28年8月）を皮切りに、大阪府岸和田市、山口県下関市、香川県高松市、大分市（平成29年3月）で順次、巡回展を行った。



図1



図2



図3



図4

- 図1. 広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」公開A6航海でのドレッジ資料収集（2014年11月4日～6日）  
図2. 倉敷市立自然史博物館友の会と合同で開催した高梁川河口干潟観察会（2015年5月4日）  
図3. 下関市立しものせき水族館（海響館）と合同で開催した宇部岬漁港の底曳き網漁獲物観察会（2015年9月12日）  
図4. 巡回展示「イチ押し！瀬戸内海の自然トピックス」（写真は瀬戸内海歴史民俗資料館、2017年1月14日～2月5日）

今回の事業のまとめとして平成29年2月に事業参加館や西日本ネット参加館による研究会を実施し、博物館連携の有用性が確認された。ちなみに、巡回展でおこなったアンケートの、地元以外の地域の自然を知ることの有用性や、博物館連携の有効性に関する質問では、3/4以上の方から有効であるとの回答をいただいた。そして、今回の事業の最後の締めくくりとして、2017年度の特別展「瀬戸内海の自然を楽しむ－生きものにぎわいとその恵み」が開催予定である。瀬戸内地域に立地する当館が、瀬戸内海の自然を扱う特別展を開催するのは必然性があるが、広範な瀬戸内地域を当館のみで調査・資料収集するのは困難である。巡回展の成功とこの夏の特別展の開催は、これまで培ってきた西日本ネットをはじめとした博物館連携のたまものである。今回の研究・事業がその実証となり、今後の博物館活動の指針になることを期待している。

\*平成29年3月31日退職

---

## 「大阪市立自然史博物館の運営に携わる者の行動規範」について

平成28（2016）年4月、大阪市立自然史博物館は科学研究費の取扱規程などの上位規程として、行動規範を制定した。これらは<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2about/code/fuseiboshi.html>に掲載しているが、改めて本誌に収録しておく。

### 前文

大阪市立自然史博物館は「自然史に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与すること」（大阪市立自然史博物館条例 第2条）を目的として設立された。この目的を現在の社会的な要請のもとに、いかに実現させるべきか、という観点のもとに、博物館職員による検討を行い、平成17年「大阪市立自然史博物館のミッションと中期的目標」として公開してきたところである。そこには、自然史博物館を社会の中で重要な機関として機能発揮させるための様々な目標が書かれている。

こうした活動を行う上で、博物館は社会の中の存在であり、行政機関や利用者、学术界、地域、さらには子どもたちなど「未来の世代」といった様々なステークホルダーとの信頼や支援に基づいて活動していることを忘れてはいけない。博物館が社会から信頼され、理解されてはじめて支援を受け、重要視される存在となり得る。

自然史博物館には様々な側面がある。第一に公的機関として、法令遵守を求められる機関である。第二に研究者を擁し科学的な研究を行う機関として、その研究活動の公正性・透明性を求められる。第三に自然史資料を扱う機関として、資料収集の上での自然保護や生命倫理への配慮、そして未来へと資料を引き継ぐことを求められる。第四に様々な人々が集い、自然史科学と文化の普及教育を行う博物館として、教育的・文化的・社会的側面から配慮することが求められる。

世界の博物館は、社会からの信任を得るために、こうした様々な博物館の側面に理解を得るべく「ミッション（使命書）」と「行動規範」を策定してきた。博物館のミッション（使命）は博物館が目指す方向を示すものであり、一方で行動規範はどのようにその道を辿っていくか、その足取りの正当性を示すものである。両者は対となって博物館の理解を形成するためのツールと言える。

こうしたことから自然史博物館は、行動規範を新たに策定し、公開することとした。

この行動規範は、日本博物館協会が制定した「博物館関係者の行動規範」を基礎としている。

同規範が前提としている「博物館の原則」を同様に前提としており、国際博物館会議が定めた「イコム職業倫理規程」に準拠するものである。また、日本学術会議による「科学者の行動規範 改訂版」や「自然史系博物館のためのイコム博物館倫理規定」などは相互に補完する関連規定として参照して運用に当たるべきものである。また、ここに定められていないことや運用については館内の各種委員会に別々に検討して解決に務めることとする。

この行動規範は、博物館の学芸課・総務課を含む全ての職員・外来研究員・関連業者スタッフ・アルバイト・ボランティアなど博物館と連携して事業を行うすべての人を対象としている。この行動規範を参照し、尊重して活動することで、自然史博物館の社会からの信頼をとともに高めていきたい。

### 【参考】

「博物館の原則・博物館関係者の行動規範」<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/2012.7koudoukihan.pdf>

「イコム職業倫理規程」[http://icom.museum/fileadmin/user\\_upload/pdf/Codes/japanese.pdf](http://icom.museum/fileadmin/user_upload/pdf/Codes/japanese.pdf)

（原文：<http://icom.museum/who-we-are/the-vision/code-of-ethics.html>）

「自然史系博物館のためのイコム博物館倫理規定」[http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/icomnathist\\_codeofethics\\_jpn.pdf](http://www.mus-nh.city.osaka.jp/sakuma/icomnathist_codeofethics_jpn.pdf)

(原文： [http://icomnatistethics.files.wordpress.com/2013/09/nathcode\\_ethics\\_en2.pdf](http://icomnatistethics.files.wordpress.com/2013/09/nathcode_ethics_en2.pdf))  
「科学者の行動規範 改訂版」 <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-s168-1.pdf>  
「大阪市立自然史博物館のミッションと中期目標・大阪市立自然史博物館の課題」  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/2about/foreword.html>

## 大阪市立自然史博物館の運営に携わる者の行動規範

平成28（2016）年4月1日 制定

### 行動規範1. 地域社会と自然史科学への貢献

自然史博物館に携わる者は、博物館の公益性と未来への責任を自覚して、自然史科学と文化の継承と創造のために活動し、大阪を中心とする地域社会に対して普及教育および学術的・社会的活動を通して貢献する。

### 行動規範2. 組織

自然史博物館の館長は、自然史博物館の使命を達成し公益性を高めるよう、財源を確保し人的措置や施設の整備など博物館活動の基盤を構築する責任を負う。また、博物館にかかわる人と収蔵資料の安全確保の責務を有する。館長はそのための組織を編成する。

### 行動規範3. 経営

自然史博物館に携わる者は、博物館の運営の透明性を確保し、公平と公正を原則としつつ、自然史博物館の使命達成のために最適かつ最大限の努力を行う。また、その評価に参画することで、継続的な改善に努める。

### 行動規範4. 収集・保存

自然史博物館に携わる者は、資料を過去から現在、未来へ橋渡しをすることを社会から託された責務と自覚し、その収集と保存に取り組む。また、自然環境や文化財の保全に配慮し、博物館の定める収集方針や計画に従い、正当な手続きによって、体系的にコレクションを形成する。資料は保存と活用のバランスに配慮して公開に務める。

### 行動規範5. 生命と文化への敬意

自然史博物館に携わる者は、資料にかかわる多面的な価値を尊重し、生命や歴史への敬意をもって資料を扱い、これを維持する。また、資料や自然史科学に関係する人々の多様な価値観や権利に配慮して活動する。

### 行動規範6. 調査研究

自然史博物館に携わる者は、博物館の方針および「科学者の行動規範」に基づき、専門領域および博物館に関する諸領域の調査研究を行い、その成果を活動に反映するとともに、積極的に公表して学術的な貢献を行うよう努める。

### 行動規範7. 展示・教育普及

自然史博物館に携わる者は、博物館が蓄積した資料や情報、知見を市民の共有の財産として、展示や教育普及活動など様々な機会をとらえて地域、そして広く社会の人々とわかちあう。

### 行動規範8. 研鑽

自然史博物館に携わる者は、教育・研修などの機会を通じて専門的な知識や能力、技術の維持向上に努め、業務の遂行において最善を尽くす。また、自らの知識や経験、培った能力、技術を他の関係者と共有し、相互に評価して博物館活動を高めるよう努める。

### 行動規範9. 対話への責任

自然史博物館に携わる者は、博物館の運営に関する決定やその背景について、利用者や博物館活動に参画する人々、社会に対して開示し、説明し、対話をするよう努める。

### 行動規範10. 自律

自然史博物館に携わる者は、この行動規範に基づき活動する。関連法規を理解し、遵守するとともに、国際博物館会議の倫理規程の原則や関連する学問分野の倫理や規範を尊重する。未知の事態についても自らの原則と規範に照らして真摯に検討し、関係者とともに解決を図る。

# 調査研究事業

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 谷田 一三 (Kazumi TANIDA)

動物研究室 波戸岡 清峰 (Kiyotaka HATOOKA) 主任学芸員  
和田 岳 (Takeshi WADA) 主任学芸員  
石田 惣 (So ISHIDA) 学芸員

昆虫研究室 金沢 至 (Itaru KANAZAWA) 学芸課長代理  
初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE) 主任学芸員  
松本 吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO) 学芸員

植物研究室 佐久間 大輔 (Daisuke SAKUMA) 主任学芸員  
長谷川 匡弘 (Masahiro HASEGAWA) 学芸員  
横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA) 学芸員

地史研究室 川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA) 学芸課長  
塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI) 主任学芸員  
林 昭次 (Shoji HAYASHI) 学芸員

第四紀研究室 石井 陽子 (Yoko ISHII) 学芸員  
中条 武司 (Takeshi NAKAJO) 主任学芸員

平成29年3月31日現在  
この他、釋知恵子（教育スタッフ：総務課所属）および、外部研究者（14ページ）が当館の研究を担っている。

## II. 研究テーマ

### ■谷田 一三（館長）

- (1) 東アジア産トビケラ目などの水生昆虫の分類学的研究
- (2) 河川生態系の保全及び応用生態学的研究
- (3) 水生昆虫類の生態毒性学的研究
- (4) ダム湖生態系、とくにエコトーンの生態学的研究

### ■波戸岡 清峰（動物研究室）

- (1) ウナギ目魚類各科の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の魚類相の調査

### ■和田 岳（動物研究室）

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究

- (2) 大阪の鳥類及び哺乳類・両生爬虫類の分布調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 瀬戸内海岸の水鳥の分布調査
- (5) キンバトの食性などに関する研究
- (6) 大阪府を中心とする外来鳥類の生息状況調査

### ■石田 惣（動物研究室）

- (1) 自然史映像のアーカイビングとその活用
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の無脊椎動物相
- (3) 大阪近郊における外来無脊椎動物の分布と生態
- (4) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (5) 博物館標本から推定する生物相の変遷

### ■金沢 至（昆虫研究室）

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) アサギマダラの移動の調査
- (3) ゴケゲモ類の分布拡大の研究
- (4) 近畿地方の蛾類記録の整理

### ■初宿 成彦（昆虫研究室）

- (1) 新生代の昆虫化石（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミの分布と生態
- (4) カサアブラムシの虫えい形態と天敵相

### ■松本 吏樹郎（昆虫研究室）

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査
- (4) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタの分布拡大と在来種への影響に関する研究
- (5) ウスバカゲロウ科の分類、生活史に関する研究

### ■佐久間 大輔（植物研究室）

- (1) 本郷次雄菌類関連資料及びアマチュアによる菌類資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- (5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

### ■長谷川 匡弘（植物研究室）

- (1) 顕花植物の花形態とポリネーターの共進化に関する研究
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

### ■横川 昌史（植物研究室）

- (1) 日本産ハナシノブ属の遺伝構造と集団動態
- (2) 絶滅危惧種の保全遺伝生態学
- (3) 半自然草原の植生の動態
- (4) 海岸植物の分布と生態

### ■川端 清司（地史研究室）

- (1) 津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究

- (2) 白亜紀・古第三紀放射虫化石に関する研究
- (3) 遺跡から出土する石製品の石材に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■塚腰 実 (地史研究室)

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バショウ科果実化石の分類学的研究
- (4) 愛媛県久万層群産果実化石の分類学的研究
- (5) 現生メタセコイアとイチヨウの生態学的研究

■林 昭次 (地史研究室)

- (1) 恐竜の生理学・生態学
- (2) 恐竜の外皮の機能と進化
- (3) 四足動物の二次的水生適応
- (4) 脊椎動物の巨大化と小型化

■石井 陽子 (第四紀研究室)

- (1) 大阪平野の第四系の地質層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究

■中条 武司 (第四紀研究室)

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
- (3) 瀬戸内海地域の海浜環境に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館研究者が研究代表者となったもの

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
海生爬虫類の水生適応：組織学的アプローチから復元する首長竜類の遊泳能力の進化	林 昭次

(3年間継続の3年目) (課題番号：26800270)

今年度の概要：これまで得られたデータをまとめた後、足りないデータを採取・分析し、論文投稿の準備を行った。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
絶滅が危惧される日本産ハナシノブ属植物の集団動態および局所適応メカニズムの解明	横川 昌史

(3年間継続の3年目) (課題番号：26830147)

- DNA解析用のサンプリングを行った。
- 国内のいくつかの植物標本庫においてハナシノブ属植物の標本調査を行った
- サンプリングしたハナシノブ属について、葉緑体DNAの塩基配列の解読、MIG-seq法による一塩基多型の解析を行った。
- 研究成果を植物分類学会京都大会で発表した。

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者
自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海 of 自然探求」事業の実践と連携効果の実証	波戸岡 清峰

(5年間継続の5年目) (課題番号：24240113)

- 自然史系博物館等の広域連携の集大成として平成29年度に予定されている大阪市立自然史博物館の瀬戸内海の自然に関する特別展の前段階として、平成27年度に作製した巡回展キットをもとに、岡山県倉敷市 (共催：倉敷市立自然史博物館・同友の会、平成28年8月)、大阪府岸和田市 (共催：下関市立しものせき水族館、平成28年12月～平成29年1月)、香川県高松市 (共催：香川県立ミュージアム・瀬戸内海歴史民俗資料館、平成29年1月～2月)、大分県大分市 (共催：大分マリンパレス水族館、平成29年2月～3月) で巡回展を行った。また、連携の成果を問うアンケート調査を行った。いずれの会場でも好評であり、成果のあることが分かった。

- 連携研究者の協力のもと、岡山から広島にかけての備讃瀬戸から安芸灘、大分県の沿岸で広く瀬戸内海の生物相調査を行うとともに、標本資料収集と登録作業を行った。

- 今回の研究の大きな成果のひとつである博物館に収蔵されている魚類標本に基づく瀬戸内海産魚類目録を作成した。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者
動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備	石田 惣

(3年間継続の2年目) (課題番号：15H02955)

- 動画を一次データとして用いる生物学研究者を対象に、動画の保有状況、著作権に関する留保権利や利用許諾条件、動画の利用価値、必要とする動画のメタデータなどを尋ねるアンケート調査を行い、その集計と解析を行った。

## 調査研究事業

- 動画のアーカイブの実務や、研究データとしての動画利用に関する課題を抽出するため、海洋研究開発機構と千葉県立中央博物館を訪問し、収蔵担当者や研究者にヒアリングを行った。
- 市民から博物館に寄贈された映像資料のデジタル化を行い、メタデータを付与する作業を行った。
- 動画標本として収蔵することを目的として、自然史に関連するテーマでの映像撮影と編集を行った。
- 動画・音声データのアーカイブ事例紹介、意義と課題の整理、アーカイブに際しての映像認識技術の適用可能性等を議論する公開シンポジウム「生物学における動画・音声データのアーカイブ - その意義と課題」を開催した。

### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
生物標本作製作業への市民参加が生物多様性の意義理解を促進する効果の測定	和田 岳
(3年間継続の3年目)	(課題番号: 26350265)

- 日本各地の博物館施設などにおいて、標本作製を行っているサークル・個人が一堂に会するイベント「ホネホネサミット2017」を開催した。
- 大阪市立自然史博物館に蓄積している鳥類死体を対象に、市民参加での標本化作業を実施。参加者等に対して生物多様性理解についてのアンケート調査を、イベントなどでも実施した。
- 日本各地の自然史系博物館など鳥類標本を所蔵する施設に対して、鳥類標本の所蔵状況、その材料となる鳥類死体の蓄積状況、その標本化作業の実態のアンケート調査をまとめ、イベントなどで発表した。

### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
市民が形成した重要菌類資料の研究 - 市民科学者育成・支援機関としての自然史博物館論	佐久間 大輔
(3年間継続の2年目)	(課題番号: 15K01157)

- 青木実菌類資料、及び吉見昭一副菌類資料について、資料の整理・解析及び、一部図版のデジタル化をさらに勧めた。
- これらを元に、アマチュア向け普及教育を進め、2017年1月には「菌類学講座2017 ナショナルとローカル: 菌類ハーバリウム体系の理想を考え、現状を語る」を開催、約100人の参加を得て今後に向けた課題の整理を行った。
- 日本菌学会において、アマチュアの菌類学習の課題、本

郷資料について講演を行った。

### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
アカハネオンブバツタの移入・拡散の実態と在来オンブバツタに与える影響の解明	松本 吏樹郎
(4年間継続の3年目)	(課題番号: 26430209)

- 近畿地方および徳島県鳴門市でアカハネオンブバツタとオンブバツタの分布調査を行った。
- 得られたサンプルからDNAを抽出し、COI、ITS2領域の塩基配列を部分的に決定した。
- 市民と共同での分布調査を行い、滋賀県大津市、奈良盆地南部、和歌山市南部、明石市西部まで分布が拡大していることを明らかにした。
- 得られた分布情報はweb上の調査ページ (<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=zZcKFWqC2Reg.kat0QoCtgpdw>) で公表するとともに、日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会(ポスター)、日本直翅類学会大会(口頭)において発表を行った。

### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
博物館に保管されたボーリング標本で展開する大都市地域における地学・防災総合教育	石井 陽子
(4年間継続の1年目)	(課題番号: 16K01055)

- 博物館所蔵のボーリング標本調査を行い、大阪平野地下に分布する第四系の層序と地質構造を検討した。その成果にもとづき、ボーリング標本を用いた博物館普及行事の実施、学校向け貸し出し教材の開発・運用を行った。
- ボーリング標本を中心とした貸し出し教材の開発・運用や、小学校を対象とした地学教育支援の実践について、日本地学教育学会と全国科学博物館協議会研究発表会で報告を行った。また、日本地質学会において、地学教育についての情報収集、他地域の第四系の研究の動向についての情報収集、関東平野の第四系の比較試料の採取を行った。
- 全国小学校理科研究発表大会にブース出展し、ボーリング標本を中心とした学校向け貸し出し教材について紹介した。また、公開授業を行った大阪市立中大江小学校のボーリング標本の調査、及び周辺地域の地質データの解析を事前に行い、教員に情報を提供した。



■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
幼児と教員のミュージアム・リテラシーを育てる学習支援ツールの開発とその効果の検証	釋 知恵子
(3年間継続の1年目)	(課題番号: 16K01208)

- 遠足等で来館する幼稚園・保育所・子ども園と小学校(1・2年生)に、博物館利用のアンケート調査を行い、行動観察をするなどして、博物館利用の現状を調査した。
- 全国科学系博物館協議会加盟館211館に対して、幼児教育との連携事例アンケート調査を実施し、また、幼児向け体験プログラムの先進的な事例のある3つの博物館への視察・聞き取り調査を行い、他の博物館の幼児教育についての対応状況を調査した。
- 幼稚園・保育所・子ども園で来館する幼児と比較するため、博物館の一般来館者向けイベント参加者に対して、博物館利用のアンケート調査を実施した。
- 学習支援ツールの企画委員会を立ち上げ、2回検討会議を実施した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
「対話と連携の博物館」の実践的総括に基づく博物館運営の新たな指針の構築に向けて	山西 良平
(3年間継続の3年目)	(課題番号: 26350396)

- 研究内容に関する総括を勧め「日本の博物館のこれから - 『対話と連携』の深化と多様化する博物館運営 -」を刊行した。
- この報告書は[https://omnh.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=34](https://omnh.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=34)からダウンロードできる。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
地球温暖化に伴う住環境の好温性真菌相の変化とそれに対応した住まいの創造	濱田 信夫
(4年間継続の2年目)	(課題番号: 15K00774)

- 住環境中に生育するアスペルギルス症の原因菌であると言われている好温性カビ*Aspergillus fumigatus*の生態を調査している。好温性カビは、室内塵中だけでなく、エアコ

ンにも見られることが分かってきた。とりわけフィルター部分や送風ファンの部分に多く見られた。それらの部分にホコリが溜まるとその保水性が高まり、好温性カビの生育が助長されることが分かってきた。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
分布域が北上したダンダラテントウの遺伝的集団構造の解明	河上 康子
(3年間継続の1年目)	(課題番号: 16K07500)

- 愛媛県松山市、香川県高松市、香川県小豆島町、福岡県福岡市、茨城県水戸市・大洗町・鹿嶋市、沖縄県宮古島市・那覇市において、ダンダラテントウ成虫サンプルの採集および発生消長、寄主利用、成虫斑紋型の調査を行った。また得られたサンプルからDNAを抽出し、COI領域の塩基配列を部分的に決定した。
- 九州大学総合研究博物館において収蔵標本の調査をおこない、本種の遺伝的集団構造に関連する斑紋多型の地理的変異について検討した。
- 日本甲虫学会第7回大会、日本昆虫学会近畿支部会2016年度大会において、本種大阪個体群の季節消長と寄主利用について発表した。
- これまでに得られた本種の生態的知見について2本の論文を執筆した。1本は印刷中(J. Nat. His.)、1本は投稿中である。

■挑戦的萌芽研究

研究課題	研究代表者
「津波被災した地質標本の修復に関する予察的・実験的研究 次」の南海トラフ地震に備える」	川端 清司
(3年間継続の2年目)	(課題番号: 15K12450)

- 岸和田市に分布する更新統大阪層群の地質試料を実験用の試料として採集した。
- 日本地質学会桜上水大会(東京、日本大学)に参加して、関連情報の収集を行った。
- 宮城県南三陸町、石巻市において地質試料を採集。
- 研究協力者である大阪市立大学益田晴恵教授とともに、大学院修士課程院生の研究指導を行い、学会発表を行った。

## 調査研究事業

### 2. 当館研究者が研究分担者となったもの

#### ■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
「草山」はいつどのようにして里山林となったか ー里山の今を理解し管理する視座として	大住 克博 佐久間 大輔 横川 昌史	

(3年間継続の2年目) (課題番号: 15H02855)

○熊本県、栃木県において草原植生の野外調査を行った。  
○研究成果を植生学会大阪大会、日本生態学会東京大会で発表した。

#### ■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
中国ヒマラヤ地域における昆虫類の系統分類と有用生物資源種の探索	広渡 俊哉 松本 吏樹郎	

(3年間継続の1年目) (課題番号: 6H05766)

○8月22日～9月3日の13日間、中華人民共和国四川省において、現地調査を行った。主にハチ目昆虫の資料を収集し、現地研究者との交流を行った。

#### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元：組織培養法の確立と普及	志賀 隆 長谷川 匡弘	

(3年間継続の3年目) (課題番号: 26350387)

○博物館標本にある生存種子を探索し、その組織より絶滅植物の植物体を得て野生復帰を行うための技術、方法論を確立するための研究。長谷川はこのうち博物館標本の種子収集及び展示を担当した。

#### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
高齢者の熱中症予防に向けた住まい方スキルの形成に関する研究	東 実千代 濱田 信夫	

(3年間継続の2年目) (課題番号: 15K00769)

○今日ではエアコンは夏期の熱中症対策の必需品といえる。しかし冷房時は結露により内部で真菌汚染が起きる。エアコンの使用状況、設置室の温熱環境との関係を調べた。エアコンの使用時間が長いほど内部の真菌数が多い傾向が見られた。一方で、設置室の環境条件も真菌汚染に関係し、夏季の未使用時に30℃を超える時間が少なく、真菌の生育範囲の環境条件の時間の多い場合に真菌数の多い傾向が見られた。

#### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
地域博物館の有する骨格標本を3Dプリンターを用いて活用する手法の開発と実践	吉田 雅則 和田 岳 西澤 真樹子	

(3年間継続の1年目) (課題番号: 16K00731)

○3Dスキャン用にライオン前肢を提供した。

## IV. 財団等の助成を受けて行った研究

### ■(一財) 水源地環境センター 水源地生態研究会

研究課題	研究代表者
ダム湖生態系に関する研究	谷田 一三

○三春ダム湖を中心にダム湖生態系に関する研究、とくにエコトーンにおいて無脊椎動物を中心に季節的遷移をピットホールトラップ、マレーゼトラップなどで調査した。

○ダム湖水の成層構造の観測と分析を行った。自然湖沼とは異なる成層構造とその季節的変化が確認されている。

### ■(一財) 水源地環境センター 水源地生態研究会

研究課題	研究代表者	当館分担者
ダム下流河川に関する研究	辻本 哲郎 谷田 一三	

○矢作川を中心に、連鎖するダム湖と接続河道が流下POM(粒状有機物)の及ぼす影響の分析を行った。河道の生物群集によって生産されるPOMの量が大きいことが確認された。

### ■(公財) 河川財団 河川整備基金

研究課題	研究代表者
透過型堰堤の河川環境と生態系への影響評価	谷田 一三

○白山地域を中心に透過型砂防堰堤の河川環境と底生動物群集に与える影響を調査・分析した。

**■琉球大学熱帯生物圏研究センター 平成28年度共同利用研究公募**

研究課題	研究代表者
西表島の石灰岩地における希少植物 ホットスポットと人間活動の関係	横川 昌史

○西表島の石灰岩地の過去の空中写真から伐採履歴を推定した。

○西表島の石灰岩地において、伐採履歴が異なる場所で植生調査を行った。

**■平成28年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助研究**

研究課題	研究代表者
厚岸町におけるセイヨウオオマルハナバチの訪花量の把握と開花植物・在来マルハナバチ類への影響	長谷川 匡弘

○セイヨウオオマルハナバチの侵入初期段階と考えられる厚岸町内で、様々な環境におけるマルハナバチの生息密度をルートセンサスにより、可能な限り量的に評価した。

**■公益財団法人 屋久島環境文化財団 平成28年度屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業**

研究課題	研究代表者
屋久島高地における開花植物 -訪花昆虫ネットワークの解明	長谷川 匡弘

○平成28年度調査は、晩夏（8月30日～9月9日）及び、秋季（9月30日～10月7日）に調査を実施し、開花植物-訪花昆虫のネットワークの概要を明らかにした。

**■平成28年度笹川科学研究助成**

研究課題	研究代表者
自然史博物館の専門性を活かした 教員研修による持続可能な 開発のための教育（ESD）支援	釋 知恵子

○遠足等の下見に来館する小学校教員対象に、理科単元の苦手調査を行い、その結果を企画に活かし、8月3日に「教員のための博物館の日」を実施した。

○「教員のための博物館の日」に参加した教員対象に、12月～2017年1月に事後アンケートを実施し、「教員のための博物館の日」の効果を検証した。

○「教員のための博物館の日」に行ったプログラムを深めるフォローアップ研修として、11月16日「平野の地下の地層の調べ方」、2017年1月15日「裸子植物」を実施した。

## V. 海外派遣

**■科研費（若手研究B）による出張**

氏名：林 昭次  
日程：2016年6月28日～7月4日  
出張先：アメリカ・ワシントンDC  
目的：研究成果の発表のため

**■科研費（若手研究B）による出張**

氏名：横川昌史  
日程：2016年4月19日～4月22日  
出張先：大韓民国・大邱  
目的：東アジア生態学会連合・大会での発表のため

**■科研費（基盤研究B）による出張**

氏名：松本吏樹郎  
日程：2016年8月23～30日（13日間）  
出張先：中華人民共和国四川省  
目的：ハチ目昆虫の調査。

**■ロシア国極東連邦大学の招へいによる派遣**

氏名：谷田一三  
日程：2016年8月23日～9月1日  
出張先：ロシア沿海州ウラジオストク  
目的：第3回アジアベントス学会参加、講演、研究討論  
若手淡水生態学の学校における講師

**■文部科学省平成28年度「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」による出張**

氏名：石田 惣  
日程：2016年11月20日～11月28日（9日間）  
出張先：ドイツ（ベルリン）、オランダ（ライデン）、デンマーク（コペンハーゲン）  
目的：収蔵庫の価値を発信するための収蔵庫の「見える化」を中心とする、ヨーロッパの自然史系博物館の先進事例の視察（同行者：三重県立総合博物館北村淳一氏）。

**■国際共同研究による台湾への出張**

氏名：金沢 至  
日程：2017年1月4～9日（6日間）  
出張先：台湾高雄・茂林・墾丁公園など  
目的：高雄の義守大学との共同研究により、国際会議に参加して、茂林・墾丁公園などで移動昆虫の調査を行った。

## VI. 委託調査

業務名：平成28年度大阪市立自然史博物館植物DNA解析業務委託

期間：2017年1月25日～2017年3月31日  
内容：日本産ママコナ属を中心とする植物種のDNA解析をサンガー法により実施した

## Ⅶ. 著作活動

### ■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館職員以外の著者には氏名に\*を付した。また、館内の複数の職員が関わった著作は筆頭著者または先にくる著者の研究室の項にのみ記した。また館出版物記事は刊行物（ページ）の項参照。

### 【館長】

谷田一三（2016.6）大阪市立自然史博物館と友の会－連携と協働。地域自然史と保全. 18：1-3.

谷田一三（2016.5）生きもの日誌<37>トビケラー網を張る川虫。グリーン・エージ. 2016（5）：34-35.

Tanida, K.（2016.8）Riverine monitoring in Japan, an introduction of the present situation. The 3rd International Symposium of Benthological Society of Asia（Abstract）：124（O56）.

谷田一三・鳥居高明\*・山室真澄\*（2016.11）琉球列島の陸水ベントス。日本陸水学会陸水底生動物同定会（2016.11.3 沖縄県立博物館）資料. 49pp.

谷田一三（2016.11）川虫の学名<小難しい学芸員のやさしい小咄>. ns. 62（11）：146-147.

谷田一三 2016. 11 生きもの日誌<41>カワゲラと河川環境。グリーン・エージ 2016（11）：42-43.

一柳英隆\*・天野邦彦\*・谷田一三・江崎保男\*（2016.11）水源地生態研究会の2015年度成果。水源地環境技術研究所所報. 平成27年度：63-70.

Inada, K.\*, Kusakari, K.\* and Tanida, K.（2017.1）Some collection of winter stoneflies from Japan 1. Capniidae. Biology of Inland Waters, 31：45-51.

谷田一三（2017.1）新刊書の紹介 原色川虫図鑑<成虫編>. 陸水生物学報, 31：10.

谷田一三（2017.1）服部壽夫さんと氏のナガレトビケラーとの出会い。陸水生物学報, 31：54-56.

谷田一三（2017.3）底生動物を中心とした河川生物モニタリングの課題と展望。Riverfront, 84：8-11.

谷田一三（2017.3）トビケラー類の変りもの、マルバネトビケラーとキタガミトビケラー <小難しい学芸員のやさしい小咄>. ns. 63（3）：6.

Fujitani, T.\*, Kobayashi, N.\*, Hirowatari, T.\* and Tanida, K.（2017）Morphological description of four species belonging to the genus *Nigrobaetis* (Ephemeroptera: Baetidae) from Japan. Limnology, DOI 10.1007/s1 0201-016-0509-4.

### 【動物研究室】

波戸岡清峰（2016.9）瀬戸内海で採集されたクズアナゴ科イトアナゴ属魚類の葉形仔魚および同属魚類の分類学的現況。2016年度日本魚類学会講演要旨. p.45.

波戸岡清峰・花崎勝司（2017.3）大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第48集 瀬戸内海産魚類標本目録。大阪市立自然史博物館, 大阪, 204pp.

波戸岡清峰（2017.3）兵庫県明石で見つかったクズアナゴ類の葉形仔魚. ns. 63（3）：2-4.

大澤剛士\*・和田 岳（2016.4）市民参加による広域を対象とした生物調査の可能性 近畿2府4県における駅のツバメ営巣調査結果およびデータ公開. Bird Research 12：R1-R8.

和田 岳（2016.4）カラスの枝落とし行動のひろがり。都市鳥ニュース,（20）：5-7.

和田 岳（2016.4）使える！役立つ！生きもの本 近頃野外に持っていった図鑑と云えば。ブンイチ, 1：56-57.

和田 岳・佐久間大輔・谷田一三・石田惣・他（2016.4）大阪の生物多様性ホットスポット 多様な生き物たちに見える場所。大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課、大阪. 60pp.（分担執筆）

和田 岳（2016.5）身近な鳥から鳥類学 第32回 広がるチョウゲンボウ。むくどり通信,（243）：11.

和田 岳（2016.8）ムクドリの集団ねぐら観察のススメ。むくどり通信,（244）：6.

和田 岳（2016.8）身近な鳥から鳥類学 第33回カワラヒワの夏から秋の集団ねぐら。むくどり通信,（244）：9.

和田 岳（2016.11）身近な鳥から鳥類学 第34回 リュウキュウサンショウクイの東征。むくどり通信,（245）：9.

和田 岳（2016.12）都市の外來鳥類はどうして少ないのだろうか？. Urban Birds, 33：1.

和田 岳（2017.1）身近な鳥から鳥類学 第35回 カラ類の混群に混じる鳥。むくどり通信,（246）：9.

和田 岳（2017.3）身近な鳥から鳥類学 第36回 コゲラのいる都市公園。むくどり通信,（247）：9.

和田 岳・佐久間大輔（2017.3）ミュージアムショップは売店でよいか？。「日本の博物館のこれから 「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営」p.27-35.

和田 岳（2017.3）大阪府の鳥類の概況。「大阪府鳥類目録2016」p.4-12.

石田 惣（2016.4）瀬戸内海の「絶滅危惧」貝漁。日本貝類学会平成28年度大会研究発表要旨集. p.26.

石田 惣・中田兼介\*・西 浩孝\*・藪田慎司\*（2016.11）「動画像標本」の運用に伴ういくつかの課題 - 研究者アンケートから。日本動物行動学会第35回大会講演要旨集. p.48.

石田 惣・釋知恵子（2016.12）博物館における学校教育支援のあり方 - 大阪市立自然史博物館における教材作成・活用の事例から。日本生態学会誌, 66（3）：649-658.

石田 惣・中田兼介\*・西 浩孝\*・藪田慎司\*（2017.3）「動画像標本」の運用に伴ういくつかの課題 - 研究者アンケートから。日本生態学会第64回全国大会講演要旨P2-H-260.

### 【昆虫研究室】

金沢 至・松田真平\*（2016.5）バタフライガーデンの開創効果とミニガイドの出版. ns.62（5）：4-5.

金沢 至（2016.5）アサギマダラの種分化仮説 - 中国広西桂林・香港における調査。日本鱗翅学会近畿支部第153回例会講演要旨：3.

松田真平\*・金沢 至（2016.5）長居植物園のバタフライガーデンで見られるチョウ。日本鱗翅学会近畿支部第153回例

- 会講演要旨：4.
- 金沢 至 (2016.6) アサギマダラの移動と種分化. 亞洲東岸青斑蝶標放国際研討會：13
- 金沢 至 (2016.10) 2015～2016年のアサギマダラの調査結果. 日本鱗翅学会第63回大会講演要旨：35.
- 清水裕行\*・金沢 至 (2016.12) セアカゴケグモなどのゴケグモ類の分布拡大. 日本昆虫学会近畿支部第53回大会・日本鱗翅学会近畿支部第154回例会講演要旨：10.
- 松田真平\*・金沢 至 (2016.12) 紫外線斑紋撮影による *Pieris napi* 種群の分類. 日本昆虫学会近畿支部第53回大会・日本鱗翅学会近畿支部第154回例会講演要旨：10.
- Kanazawa, I. (2017.1) The Creation and Ecotourism of Chestnut Tiger Butterfly Reserves in Japan. International symposium of Danaine Butterfly Ecological Research and Sustainable Tourism Development：20-22.
- 金沢 至・松田真平\* (2017.1) アサギマダラと紫外線. 小難しい学芸員のやさしい小咄. ns.63 (1)：7.
- 松田真平\*・金沢至 (2017.2) 竹内栖鳳の描いた昆虫 (2). ns.63 (2)：2-4, 16.
- 金沢 至・金田 忍\*・田口 誠\*・藤野適宏\*・渡辺康之 (2017.3) 知ってる？アサギマダラー旅をするチョウ. 現代デザイン研究所. 48p.
- Havill, N.P.\*, Shiyake, S., Lamb Galloway, A.\*, Foottit, R.G.\*, Yu, G.\*, Paradis, A., Elkinton, J., Montgomery, M.E.\*, Sano, M.\* and Caccone, A.\* (2016.5) Ancient and modern colonization of North America by hemlock woolly adelgid, *Adelges tsugae* (Hemiptera: Adelgidae), an invasive insect from East Asia. *Molecular Ecology* 25, 2065-2080.
- 初宿成彦 (2016.9) 氷期-間氷期サイクルと昆虫の分布. ns. 62 (9)：2-4.
- 初宿成彦 (2016.9) [O-07] 晩氷期の北海道から産出した高緯度・高山帯の昆虫. 日本第四紀学会講演要旨集46：45. 千葉大学西千葉キャンパス.
- Shiyake, S. (2016.9) Announcements: Special Exhibition 'Ice Age' - Climatic History and Fossil Records in Japan. *Quaternary Entomology Dispatch*, 15th September 2016 edition：9.
- 初宿成彦 (2016.9) 吾輩は47円である. LOUPE. シニア自然大学校.
- 初宿成彦 (2016.11) 奈良県南部・瀨峡のヒメハルゼミ. ならがしわ (161) ならむしの会.
- 初宿成彦・後川恵太郎\* (2016.11) 讚良郡条理遺跡11-1・13-1の昆虫遺体. 大阪文化財研究 (49)：31-34.
- 初宿成彦 (2016.11) 滋賀県南部のエゾゼミ分布調査2016. *Came虫* (188)：8. AWF滋賀むしの会.
- 初宿成彦 (2016.11) [P-1] 近畿における 2016 年までのヒラズゲンセイの分布. 日本甲虫学会第7回大会講演要旨集：17.
- 安井 通宏\*・初宿 成彦・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ甲虫班\* (2016.11) [P-3] 淀川汽水域におけるミズギワゴミムシ類の生息環境と発生量について. 日本甲虫学会第7回大会講演要旨集：17.
- 日本甲虫学会大阪大会事務局 (編) (2016.11) 関西甲虫研究史. 74pp. [関西甲虫學會／城北昆虫館／大阪市立自然科学博物館／Nature Studyを担当]
- 初宿成彦 (2016.12) 大阪府のミカドテントウ追加記録. ns. 62 (12)：2.
- 初宿成彦 (2017.2) 湖北と若狭でヒメハルゼミ探し. *Came虫* (189)：7. AWF滋賀むしの会.
- Matsumoto, R. (2016) Molecular phylogeny and systematics of the *Polysphincta* group of genera (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae). *Systematic Entomology* 41 (4)：854-864.
- Matsumoto, R., Kikuta, Y.\* and Yoshitomi, H.\* (2016) Larvae of three species of Japanese Myrmeleontidae (Neuroptera). *Japanese Journal of Systematic Entomology* 22 (1)：101-108.
- 奈良県 (2017.3) 奈良県レッドデータブック2016改訂版. 789 pp. 一部 (ハチ目、ハエ目、アミメカゲロウ目) 執筆.
- 奈良県 (2017.3) 奈良県野生生物目録 422 pp. 一部執筆.
- 松本吏樹郎・松本舞子\* (2016.3) 岡山県におけるヒメウスバカゲロウの最近の記録. 倉敷市立自然史博物館研究報告 31：35-36.
- 松本吏樹郎 (2016.5) 大阪市内の注目すべき直翅目の記録. ns. 62 (6)：15.
- 松本吏樹郎 (2016.10) 新発見のアリジゴク. ns. 62 (10)：7.
- 松本吏樹郎 (2016.3) 移入アカハネオンブバッタの分布拡大と在来種への影響. 日本昆虫学会台76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会
- 松本吏樹郎・赤い翅のオンブバッタを調べる会 (2016.5) 移入種アカハネオンブバッタの2015年の分布状況および発生消長. 日本直翅類学会2016年大会
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔 (2016.4) 絡み合う文化多様性と生物多様性. 『営みの基盤 -生態学からの文化的景観再考- 文化的景観スタディーズ02』奈良文化財研究所：10-15.
- 佐久間大輔 (2016.5) 大阪府南部のクモタケ. ns. 62 (5)
- 佐久間大輔 (2016.7) 大阪市立自然史博物館の児童・学生向け菌類プログラム. 日本菌学会ニュースレター 2016年7月：3-4.
- 佐久間大輔 (2016.7) 共有財産としての博物館資料・博物館コンテンツ (特集 デジタルアーカイブと社会教育施設). 社会教育 71 (9), 20-25.
- 佐久間大輔 (2016.9) 暗峠のくらがりととは? 近畿植物同好会会報123：28-29.
- 佐久間大輔 (2016.9) 最終氷期の植生図から考える大阪の自然. ns. 62 (9)：4.
- 佐久間大輔 (2016.11) 木へんの漢字 ns. 62 (11)：3-6.
- 佐久間大輔 (2016.11) 天王山と若山神社のキノコ. 島本・緑と水を守る会緑のニュースレター 217：2-3.
- 佐久間大輔 (2016.12) 本当のアウエイに生態学を届けるた

- めには、日本生態学会誌66 (3) : 671-672.
- 佐久間大輔 (2017.3) ユーザーを育て博物館コミュニティを築く - 博物館を社会の中で活かすしかけとしての人材養成プログラム - 2015 (平成27) 年度博学連携シンポジウム『大学の"学芸員養成"教育と博物館~文化の裾野を広げるために~』記録集 6-18,39-48.
- 佐久間大輔・横川昌史・釋知恵子・山中亜希子\* (2017.2) 「自然史系博物館における子どもワークショップの展開と課題」『子ども博物館楽校』7 : 18-25.
- 佐久間大輔 (2017.3) 博物館の市民対話と協働 成長のための今後の課題『日本の博物館のこれから - 「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営 -』9-17.
- 佐久間大輔・大原昌宏\* (2017.3) 資料管理と保全をめぐる対話と連携 - 市民参加型のバックヤードマネジメント - 『日本の博物館のこれから - 「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営 -』37-42.
- 佐久間大輔 (2017.3) 博物館総合調査から見た直営館と自治体出資法人指定管理館の現状と課題 - 運営の継続に向けた課題を中心に - 『日本の博物館のこれから - 「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営 -』59-65.
- 土屋和三\*・森本繁雄\*他・佐久間大輔 (2017.3) 龍谷大学自然誌研究報告 : 第1報「龍谷の森」の菌類相目録1. 龍谷紀要 38 (2) 171-188.
- 長谷川匡弘 (2016.6) 小難しい学芸員のやさしい小咄 地味だけど昆虫がよく集まる花. ns. 62 (6) : 5.
- 長谷川匡弘 (2016.6) 住吉大社の「森」の紹介 住吉っさん 26 : 9-10.
- 長谷川匡弘 (2016.7) かくれひつつきむし 福井市自然史博物館 博物館だより370.
- 志賀 隆\*・平澤優輝\*・長谷川匡弘 (2016.6) 博物館に収蔵されているカヤツリグサ科植物種子の発芽可能性. すげの会第27回全国大会.
- Hirasawa, Y.\*, Hasegawa, M. and Shiga, T.\* (2016.8) Herbarium specimens' seeds still alive : germinability tests of herbarium seeds. East Asian Plant Diversity and Conservation 2016.
- 長谷川匡弘 (2016.11) 屋久島高地の固有変種ヤクシマママコナの特異な送粉様式 屋久島学ソサエティ第4回大会
- 長谷川匡弘 (2016.12) ママコナ属でみられるポリネーターシフトを伴う花形態の多様化. 第48回 種生物学シンポジウム.
- 長谷川匡弘 (2017.2) 長居植物園でタケ (マダケ属) が開花しました! N.S. 63 (2) : 6.
- 西浦心太郎\*・岡崎純子\*・長谷川匡弘 (2017.3) 夜間に蜜を分泌する雄性先熟植物サイヨウシャジン (キキョウ科) の訪花昆虫相と訪花効率. 日本植物分類学会第16回大会.
- Shiga, T.\*, Yokogawa, M., Kaneko, S.\* and Isagi, Y.\* (2017.1) Genetic diversity and population structure of *Nuphar submersa* (Nymphaeaceae), an endangered aquatic plant endemic to Japan, and the implications of its conservation. Journal of Plant Research 130 (1) : 83-93.
- Fujii, N.\*, Takasawa, S.\*, Yokogawa, M., Yamasaki, T.\*, Harada, K.\*, Kaneko, S.\* and Isagi, Y.\* (2016.12) Novel nuclear microsatellite markers reveal genetic diversity and structure of *Veronicastrum sibiricum* var. *zuccarinii* (Plantaginaceae) in the Aso Region, Kyushu, Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 62 (2) : 69-82.
- Isagi, Y.\*, Oda, T.\*, Fukushima, K.\*, Lian, C.\*, Yokogawa, M. and Kaneko, S. (2016.1) Predominance of a single clone of the most widely distributed bamboo species *Phyllostachys edulis* in East Asia. Journal of Plant Research 129 (1) : 21-27.
- 横川昌史 (2016.7) 草原再生が半自然草原の植生と土壌に与える影響の検証 (続報). 平成27年度タカラ・ハーモニストファンド研究助成報告書 155-169.
- 指村奈穂子\*・池田明彦\*・池田史枝\*・大谷雅人\*・澤田佳宏\*・須貝杏子\*・内貴章世\*・古本良\*・横川昌史 (2016.7) 絶滅危惧種クロボウモドキの保全を目指した個体群構造・分布様式・遺伝構造の研究. 自然保護助成基金成果報告書 24 : 49-65.
- 小柳知代\*・赤坂宗光\*・小熊宏之\*・富松裕\*・瀬井純雄\*・横川昌史 (2016.7) 半自然草地に生育する絶滅危惧植物マツモトセンノウ (*Lychnis sieboldii*) の遺伝的多様性の保全. 自然保護助成基金成果報告書 24 : 11-20.
- 横川昌史 (2016.4) 枚岡神社のそばのココモメヅルは里草地の生き証人?. ns. 62 (4) : 8-9.
- 横川昌史 (2017) 野焼き支援ボランティアさんと植生調査をして考えたこと. 全国草原再生ネットワーク ニュースレター 29 : 10-11.
- 横川昌史 (2017) 第11回全国草原サミット・シンポジウム報告 第三分科会に参加して. 全国草原再生ネットワーク ニュースレター 29 : 5.
- 横川昌史 (2016.11) 清水尾根のツキノワグマ. ns. 62 (11) : 1, 12.
- 横川昌史・澤田佳宏\* (2016.9) ハマボウフウの根. ns. 62(9) : 7-8.
- 横川昌史 (2016.7) クシロハナシノブ. ns. 62 (7) : 1, 11.
- 横川昌史 (2016.7) 氷期の遺存種. ns. 62 (7) : 5.
- 横川昌史・増井太樹\*・飯村孝文\* (2017.3) 栃木県日光市土呂部における半自然草原の管理放棄に伴う植物種ごとの欠落パターン. 第64回日本生態学会要旨.
- 増井太樹\*・横川昌史・高橋佳孝\*・津田智\* (2017.3) 熊本県阿蘇地域における斜面崩壊後の草原植生の回復. 第64回日本生態学会要旨.
- 横川昌史・綱本良啓\*・陶山佳久\* (2017.3) Mig-seqを用いた日本産ハナシノブ属の遺伝的類縁関係の推定. 第16回日本植物分類学会大会要旨.
- 横川昌史・長谷川匡弘・平軍二\*・尾方義雄\* (2016.10) 大阪府千里ニュータウンに残っていた小っちゃい半自然草原の植生. 植生学会第21回大会要旨.
- 楠瀬雄三\*・長谷川匡弘・横川昌史・村上健太郎\* (2016.10) 大阪府の海浜・河口における海岸植物の出現状況と大阪

府RLとの対応関係. 植生学会第21回大会要旨.

#### 【地史研究室】

- 近岡史絵\*・益田晴恵\*・川端清司 (2016.9) 軟岩の浸水被害に対する変化過程の観察. 日本地球科学学会年会 (大阪市立大学) 講演要旨集.
- 川端清司 (2016.11) 遺跡から出土する石製品の原産地はむつかしい. 「大阪の歴史を掘る2016」講演会資料集, 9-11.
- 川端清司 (2016.4) 特別展「生命大躍進 - 脊椎動物のたどった道 -」では、ここに注目して欲しい. ns.62 (4) : 2-3.
- 塚腰 実・岡野 浩\* (2016.6) メタセコイアの本性を探る - 植物の多面的観察 -. 地学教育と科学運動, 76 : 33-42.
- 塚腰 実 (2016.9) メタセコイアの発見と普及 - 三木 茂博士の発見から75年 -. 化石, 100 : 1-2.
- Tsutsumi, C. \*, Uemura, K. \*, Yatabe-Kakugawa, Y. \*, Tsukagoshi, M. and Kato, M. \*. (2016) A comparative morphological study of Pinnules in the Cenozoic *Osmunda* subgenus *Osmunda* (Osmundaceae) : mplications for its historical biogeography and phylogeny. International Journal of Plant Sciences, 177 (5) : 449-457.
- 塚腰 実・三井聖子 (2016.9) メタセコイアの発見・普及と文化創造 - 三木 茂博士の発見から75年 -. 大阪市立大学・都市研究プラザ10周年国際シンポジウム「復元力のある都市」要旨集, 58-59.
- 塚腰 実 (2016.10) メタセコイアの発見と普及 - 三木 茂博士の発見から75年、現生種の生存発表から70年 -. ns. 62 (10) : 10-12.
- 塚腰 実・三井聖子\* (2016.11) 現生メタセコイアの生態 - 発芽・実生・海水耐性・挿し木の特性. 第31回日本植生史学会、講演要旨P-09.
- 塚腰 実 (2017.2) 日本地形学連合の「地形の辞典 (朝倉書店)」に「示準化石」他14項目を分担執筆.
- 西内 李佳\*・百原 新\*・塚腰 実 (2017.2) 三木茂標本の大型植物化石と花粉化石から復元した最終氷期最寒冷期の中国地方北西部の針葉樹林. 植生史研究, 26 (1) : 41-52.
- 林 昭次 (2016.5) 大阪市立自然史博物館 特別展「生命大躍進」では、ここに注目してほしい2. ns.62 (5) : 2.
- Hayashi, S., Kubo, M. \*, Fujita, M. \*, Taruno, H. and Oshiro, I. \* (2016. 6) . Insular dwarfism and the distinct physiology in island deer : bone histology of Japanese extinct island cervids indicates interrupted growth. Abstract book of the 11th International Congress of Vertebrate Morphology, Washington, DC, USA.
- Sander, M. \*, Wintrich, T. \*, Hayashi, S., Houssaye, A. \*, Nakajima, Y. \* and Sato, T. \* (2016.7) The evolution of a unique body plan : new evidence from a Triassic plesiosaur skeleton and long bone histology Abstract book of the 14th Annual Meeting of the European Association of Vertebrate Palaeontologists, Haarlem, Netherlands.
- 林 昭次 (2016.8) 最終氷期の日本の陸生哺乳類. ns. 62 (8) :

2-3.

- 林 昭次・中村晃輔\*・野村秀彦\* (2016.9) 薄片観察が解明する絶滅動物の生理と生態. 薄片研磨片技術討論会第59回要旨集.
- 中村晃輔\*・林 昭次 (2016.9) 骨化石の薄片作成について : シカ化石を例として. 薄片研磨片技術討論会第59回要旨集.
- 林 昭次・中島保寿\*・佐藤たまき\*・疋田吉識\*・Martin Sander\* (2017.1) カナダDinosaur Park Formationの非海成層から産出する首長竜類の骨組織 : その古生態に関する考察. 日本古生物学会第166回例会要旨集 : 14.
- Stein, K. H. W. \*, Bolotski, Y. \*, Bolotski, I. \*, Snoeck, C. \*, Hayashi, S., Tsogtbaatar, K. \*, Barsbold, R. \*, Ishigaki, S. \*, Godefroit, P. \* and Claeys, P. \* (2017.1) 白亜紀最末期の極東ロシアにおけるハドロサウルス類の骨組織. 日本古生物学会第166回例会要旨集 : 15.
- 林 昭次・小林快次\*・真鍋 真\*・川端清司・塚腰 実・金澤芳廣\* (2017.1) 香川県さぬき市の上部白亜系和泉層群から産出した恐竜類の椎体. 日本古生物学会第166回例会要旨集 : 49.

#### 【第四紀研究室】

- 石井陽子 (2016.6) 氷河時代の気候変動と大阪の地層. ns.62 (6) : 70-72.
- 石井陽子 (2016.12) 入戸火砕流堆積物. ns.62 (12) : 153,168.
- 石井陽子・櫻井佳余子\*・植原宏仁\*・国吉孝\* (2016.10) 博学連携によるポーリングデータを用いた授業づくりの実践. 平成28年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第70回全国大会徳島大会講演要旨集, 149-150.
- 中条武司 (2016.7) 「氷期」の名残を探して旅する北海道. ns. 62 (7) : 86-88,96.
- 中条武司 (2016.12) ミニチュアの段丘. ns. 62 (12) : 164.

## VIII. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録した。

### 谷田

- 日本陸水学会企画委員  
Landscape and Ecological Engineering Chief Editor  
陸水生物学報 陸水生物研究会代表・編集委員  
日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員会委員  
水源生態研究会委員長 (水圏分野)  
同 ダム湖生態系研究グループグループ長  
大阪生物多様性保全ネットワーク構成員  
紀伊半島研究会運営委員  
日本水大賞委員会 日本S J W P 審査部会委員長  
河川水辺の国勢調査 スクリーニング委員会委員長  
同 底生動物スクリーニンググループ座長  
日本陸水学会第81回大会 (沖縄大会) 陸水底生動物同定会の企画・指導  
大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」

## 調査研究事業

### 波戸岡

日本魚類学会評議員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

### 和田

日本鳥学会広報委員会委員  
日本生態学会関西地区会自然保護専門委員会委員  
関西広域連合残したい自然エリア検討委員会委員  
新名神大阪西自然環境保全検討委員会委員  
京都府外来生物実態調査専門委員会鳥類分科会委員  
講演 市街地で繁殖する鳥。(2016.5大阪自然環境保全協会  
自然環境市民大学)  
講演 果実食鳥類の冬の暮らし 鳥と樹木の不思議な関係。  
(2016.7シニア自然大学)  
講演 冬の果実と鳥の関係(2017.1シニア自然大学)  
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

### 石田

日本貝類学会評議員・研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事  
日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員  
日本生態学会近畿地区委員  
軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員  
環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員(磯分科会  
代表)  
講演 香川里海大学(2017.1高松)

### 金沢

日本環境動物昆虫学会評議員  
日本鱗翅学会評議員  
アサギマダラの会副会長  
渡りチョウを調べる会HP・編集担当  
大阪市立大学非常勤講師「博物館学資料保存論」  
講演 ベトナム・台湾・大山などの遠征結果とアサギマダ  
ラ類の紫外線反射。(2016.12愛知アサギマダラの会)  
講演 アサギマダラなどの移動昆虫の調査の過去と未来。  
(2017.3アサギマダラの会・特別講演)

### 初宿

日本甲虫学会評議員・HP担当  
日本第四紀学会評議員  
日本環境動物昆虫学会 生物保護とアセスメント手法研究部  
会 運営委員  
滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会

### 松本

日本昆虫学会評議員  
日本昆虫学会近畿支部幹事  
大阪市立大学非常勤講師「生物学実験」

### 佐久間

日本菌学会評議員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」  
全国科学系博物館協議会編集委員  
岸和田市環境審議会委員  
吹田市文化財審議会委員  
吹田市立博物館協議会委員  
文化遺産推進ネットワーク有識者会議

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員  
講演 毒きのこの誤解と勘違い - よりよい理解形成で事  
故を防止するために - 地方衛生研究所近畿支部自然毒  
部会研究会教育講演(11月大津)  
講演 すいた環境連続セミナー「地域で閉じない里山を考  
える」(11月吹田)  
講演 生物多様性協働フォーラム「生物多様性のためのソー  
シャルデザイン」コーディネーター(12月大阪)

### 長谷川

大阪府レッドリスト改訂検討委員会委員  
環境省レッドリスト大阪府主任調査員  
大阪ふれあいの水辺 環境評価部会委員

### 横川

講演 半自然草原ってな～に? : 日本のいろんな草原と吹  
田市の小っちゃい草原。(2017.2 島本・緑と水を守る会  
総会講演会)

### 川端

日本地質学会理事、日本地質学会が選ぶ「県の石」選定委  
員会委員長  
日本地質学会大122年学術大会夜間小集会「博物館の展示リ  
ニューアル:地学系展示で何をどのようにつたえていく  
か」日本大学(東京都)を主催  
地学団体研究会大阪支部運営委員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

### 塚腰

地学団体研究会大阪支部運営委員  
大阪市立大学非常勤講師「大阪の自然」  
愛媛大学農学部非常勤講師「博物館資料論」

### 林

大阪大学大学院工学研究科招聘研究員  
講演 古生物学会解剖学ワークショップ(2017.3)  
講演 特別展「メガ恐竜展」記念講演会(2016.8豊橋市自然  
史博物館)

### 中条

日本地質学会行事委員(堆積地質部会)(~2016.9)  
地学団体研究会大阪支部委員  
2016年度日本堆積学会選挙管理委員委員長  
大阪府環境審議会温泉部会専門委員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」  
講演 たかつき市民環境大学(2016.11)

## Ⅷ. 外部研究者の受け入れ

### ■外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成28年度  
に受け入れた外部研究者を表1に示す。

表1

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
秋山 彰子	外来研究員	本人	波戸岡清峰
有山 啓之	外来研究員	本人	石田 惣



安藤 清志	外来研究員	本人	初宿 成彦	三井 聖子	研究生	本人	塚腰 実
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司	森本 繁雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣	山住 一郎	外来研究員	本人	長谷川匡弘
市毛 勝義	外来研究員	本人	石田 惣	山西 良平	外来研究員	本人	石田 惣
乾 公正	外来研究員	本人	松本吏樹郎	山本 睦徳	外来研究員	本人	川端 清司
乾 美浪	外来研究員	本人	和田 岳	山本 好和	外来研究員	本人	佐久間大輔
今村 彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔	吉田 浩史	外来研究員	本人	松本吏樹郎
宇都宮 聡	外来研究員	鹿児島大学大学院 教授 仲谷 英夫	林 昭次	米澤 里美	外来研究員	本人	和田 岳
大石 久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎	渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣
大古場 正	外来研究員	本人	石田 惣				
大谷 道夫	外来研究員	本人	石田 惣				
柿沼 進	外来研究員	本人	松本吏樹郎				
梶原 秀高	外来研究員	本人	長谷川匡弘				
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔				
川上 誠太	外来研究員	本人	石田 惣				
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎				
熊澤 辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎				
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司				
清水 裕行	外来研究員	本人	川端 清司				
下野 義人	外来研究員	本人	金沢 至				
鈴木 寿之	外来研究員	本人	佐久間大輔				
瀬戸 剛	外来研究員	本人	波戸岡清峰				
平 祥和	外来研究員	本人	長谷川匡弘				
高萩 敏和	外来研究員	本人	谷田 一三				
谷本 正浩	外来研究員	本人	佐久間大輔				
田村美美子	外来研究員	本人	林 昭次				
樽野 博幸	外来研究員	本人	金沢 至				
天満 和久	外来研究員	本人	林 昭次				
中川亜希子	外来研究員	本人	金沢 至				
長江真紀子	外来研究員	本人	横川 昌史				
名部みち代	外来研究員	本人	石田 惣				
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	佐久間大輔				
西澤真樹子	外来研究員	本人	長谷川匡弘				
花崎 勝司	外来研究員	本人	和田 岳				
濱田 信夫	外来研究員	本人	波戸岡清峰				
林 寿一	外来研究員	本人	佐久間大輔				
坂東 誠	外来研究員	本人	金沢 至				
弘岡 拓人	外来研究員	本人	佐久間大輔				
藤江 隼平	外来研究員	本人	松本吏樹郎				
別所 孝範	外来研究員	本人	松本吏樹郎				
松浦 宜弘	外来研究員	本人	中条 武司				
松江実千代	外来研究員	本人	和田 岳				
松田 真平	外来研究員	本人	塚腰 実				
松橋 義隆	外来研究員	本人	金沢 至				
丸井 英幹	外来研究員	本人	塚腰 実				
道盛 正樹	外来研究員	本人	林 昭次				
			長谷川匡弘				
			佐久間大輔				

期間内に外部研究者が公表した業績は以下の通り（前年度までの館報に掲載できなかった業績も一部含む）。なお、外部研究者を\*、館外研究者を#で示す（学芸員は印なし）。

Ando, K. \* and Bosuang, S. # (2016) A new species of the Genus *Camarimena* Motschulsky (Coleoptera, Tenebrionidae) from Borneo. *Elytra*, Tokyo, (n. ser.) , 6 (1) : 65-67.

Ando, K. \* (2016) New records of *Cenoscelis pulla* from Japan (Coleoptera, Tenebrionidae) . *Elytra*, Tokyo, (n. ser.) , 6 (1) : 68.

Ando, K. \* (2016) A Revision of the *Phaedeucyrtus* group of the genus *Phaedis Pascoe* (Coleoptera, Tenebrionidae, Cnodalonini) . *Elytra*, Tokyo, (n. ser.) , 6 (1) : 69-96.

安藤清志\*・大澤省三# (2016) ゴミムシダマシの遺伝子解析序説. 昆虫DNA研究会ニュースレター、25 : 4-13.

Ando, K. \* and Ruzzier, E. # (2016) New species of Tenebrionidae Latreille, 1802 (Coleoptera : Tenebrionidae) from the Philippines. *Zootaxa*, 4175 (5) : 480-486.

安藤清志\* (2016) ジョージ・ルイスと近畿での足跡. 関西甲虫研究史、日本甲虫学会 : 15-16.

安藤清志\* (2016) ジョージ・ルイス採集標本をもとに記載された近畿の甲虫. 関西甲虫研究史、日本甲虫学会 : 44-63.

Ando, K. \*, Itioka, T. # and Kishimoto-Yamada, K. # (2017) Record of phototactic Tenebrionidae (Coleoptera) from Lambir Hills, Borneo, with description of a new genus and twelve new species. *Contribution from the Biological Laboratory, Kyoto University*, 30 (3) : 127-171.

Ariyama, H. \* (2016) Five species of the family Cyproideidae (Crustacea : Amphipoda) from Japan, with the description of a new genus and two new species. *Zootaxa* 4097 (3) : 301-331.

Ariyama, H. \* (2016) Two new species of eyeless amphipods from a coastal area in Japan (Crustacea : Amphipoda : Hadziidae, Melitidae) , with reinstatement of the genus *Paraniphargus* Tattersall, 1925. *Journal of Natural History* 50 (35/36) : 2277-2297.

Ariyama, H. \*, Saito, N. # and Shimomura, M. # (2016.7) *Heterophryxus pacificus*, a new species of dajid isopod from the central North Pacific. *Crustacean Research* (45) : 29-35.

有山啓之\* (2016) ヨコエビとはどんな動物か? - 形態・色

- 彩・生態について-。Cancer (25) : 121-126.
- 有山啓之\* (2017) 大阪湾南東部岩礁域で採集された“インテッポウエビ”について。大阪市立自然史博物館研究報告 (71) : 1-9.
- Belokobylskij, S. A. # and Fujie, S. \* (2017) Helconoine genus of the tribe Diospilini (Hymenoptera : Braconidae : Helconinae) from Japan with key to the Holarctic genera of the tribe. Annales Zoologici, 67 (1) : 21-28.
- 別所孝範\* (2016) 紀伊半島累帯牟婁付加シークエンスの後背地についての一考察。日本堆積学会2016年福岡大会講演要旨集 : 37-38.
- Bogorodsky, S. V. #, Suzuki T. \* and Mal A. O. # (2016) Description of a new species of *Priolepis* (Perciformes : Gobiidae) from the Red Sea, a new record of *Priolepis compita*, and a distributional range extension of *Trimma fishelsoni*. Zootaxa, 4150 (2) : 168-184.
- 古川 茜#・鈴木寿之\*・甲斐義晃# (2016) 日本海におけるオキカサゴの分布の再検討。魚類学雑誌, 63 (1) : 52-54.
- Greenfield, D. W. # and Suzuki, T. \* (2016) *Eviota bilunula*, a new dwarfgoby species from Fiji, with a redescription of *Eviota flebilis* (Teleostei : Gobiidae) . Journal of the Ocean Science Foundation, 24 : 1-9.
- 濱田信夫\* (2016) エアコンにおける好温性カビ汚染に影響する要因とその対策。日本防菌防学会誌 44 : 349-356.
- 濱田信夫\*・阿部仁一郎# (2016) 今日のエアコンにおける好温性カビの汚染状況。44 : 395-402.
- 花崎勝司\*・豊田正樹# (2016) 芥川水系下流域 (大阪府高槻市) におけるオオクチバスの食性。南紀生物. 58 (2) : 172-177.
- 波戸岡清峰・花崎勝司\* (2017) 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第48集 瀬戸内海産魚類標本目録。大阪市立自然史博物館 : 204pp.
- 林 寿一\* (2016) ミンドロ島のトシコツメアシフタオシジミ♂の斑紋異常型。やどりが (249) : 33-34.
- 林 公義#・鈴木寿之\* (2016) インタビュー 先達に聞く。魚類学雑誌, 63 (1) : 56-60.
- 今原幸光# (編著)・有山啓之\*・石田 惣・伊藤勝敏#・大谷道夫\*・竹之内孝一#・鍋島靖信#・波戸岡清峰・花岡皆子#・山西良平\* (2016) 新装改訂 フィールド版 写真でわかる磯の生き物図鑑。トンボ出版、大阪、279pp.
- Inui, K. \*, Nishizawa, M. \*, Yonezawa, S. \*, Wada, T. and Naniwa Hone-Hone Dan, Osaka Museum of Natural History (2016) Continuous activity of Naniwa Hone-Hone Dan in Osaka Museum of Natural History. The 9th International Meeting of Asian Society of Conservation Medicine in Taipei, 講演要旨
- Ivanov, S. N. #, Ando, K. \* and Nabozhenko, M. V. # (2017) Contribution to the knowledge of the genus *Platydesma* Laporte et Brullé, 1831 (Coleoptera, Tenebrionidae) from the Russian Far East. Far Eastern Entomologist, 2017, N 329 : 13-16.
- 柿沼 進\*・大石久志\*・倉橋 弘# (2016) 本邦新記録の *Lispe chui* オランピカトリバエ (双翅目、イエバエ科) と日本産カトリバエ属の雄の種までの検索表第2版。ハナアブ (41) : 8-15.
- 金沢 至・松田真平\* (2016) バタフライガーデンの開設効果とミニガイドの出版。ns 62 (5) : 4-5.
- 金沢 至・松田真平\* (2017) アサギマダラと紫外線。ns 63 (1) : 7.
- Kano, Y. #, Musikasinthorn, P. #, Iwata, A. #, Tun, S. #, Yun, L. K. C.#, Win, S. S. #, Matsui, S. \*, Tabata, R. #, Yamasaki, T. # and Watanabe, K. # (2016) A dataset of fishes in and around Inle Lake, an ancient lake of Myanmar, with DNA barcoding, photo images and CT/3D models. Biodiversity Data Journal4 : e10539.
- 柏尾 翔#・花崎勝司\*・児島 格#・山田浩二#・大島麻里#・大古場正\*・松岡 悠#・大谷道夫\* (2016) 岸和田市阪南2区人工干潟における魚類および貝類、甲殻類相について (2009年度~2014年度の調査記録)。きしわだ自然資料館研究報告 (4) : 1-13.
- 河上康子\*・山崎一夫#・大橋和典# (2015) ダンダラテントウの分布北上と斑紋型・体サイズの変化。昆虫と自然 50 (12) : 25-28.
- Kawakami, Y.\*, Yamazaki, K. # and Ohashi, K. # (2016) Population dynamics, seasonality and aphid prey of *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera : Coccinellidae) in an urban park in central Japan. European Journal of Entomology 113 : 192-199.
- 河上康子\*・平田慎一郎# (2016) 岸和田市阪南2区人工干潟の昆虫類およびクモ類。きしわだ自然資料館研究報告 (4) : 15-24.
- 河上康子\*・山崎一夫#・大橋和典# (2016) ダンダラテントウ大阪個体群の季節消長と寄主利用。日本甲虫学会第7回大会講演要旨集 : 9.
- 河上康子\*・山崎一夫#・大橋和典# (2016) ダンダラテントウ大阪個体群の季節消長と寄主利用。日本昆虫学会近畿支部会2016年度大会講演要旨集 : 3.
- 貴志 学#・弘岡拓人\* (2017) 和歌山県におけるツヤアオカメムシの化性。第61回日本応用動物昆虫学会大会合同大会。
- 熊澤辰徳\* (編) (2016) 趣味からはじめる昆虫学。オーム社、東京。160 pp.
- 熊澤辰徳\* (2016) ミクロの自然を閉じ込めて楽しむ、簡単コケ瓶の作り方。ニッチェ・ライフ (4) : 11-14.
- 松田真平\*・金沢 至 (2016) 長居公園でホシミスジを捕獲。ns 62 (3) : 9.
- 松田真平\* (2016) 山形県米沢・赤湯付近のM.A.フェントンが歩いた道の探索。やどりが250 : 23-34.
- 松田真平\*・金沢 至 (2017) 竹内栖鳳が描いた京都の昆虫 (2)。ns 63 (2) : 2-4,16.
- 松田真平\* (2017) 北海道北部士別町産スジグロシロチョウを飼育。大昆Crude61 : 42-47.

- 松田真平\* (2017) 兵庫県猪名川町でクロモンシタバを採集. 大昆Crude61 : 18.
- 道盛正樹\* (2013) NPO法人大阪自然史センターのスタッフキャリアについて. Musa博物館学芸員課程年報 (追手門学院大学) 27 : 7-11.
- 道盛正樹\* (2015) 堀田満先生を偲んで: 友の会活動への貢献. ns 61 (10) : 9-10.
- 道盛正樹\* (2016) 「苔こけコケ展2015」への軌跡. 蘚苔類研究 11 (6) :
- 森本繁雄\* (2017) 「龍谷の森」の菌類相目録 1. 龍谷紀要 38 (2) : 171-188.
- 中川亜希子\*・中川 功# (2017) 奈良県内における環境要因によるため池環境 (ため池の生物多様性にとっての環境) の評価方法の構築. 地域自然史と保全研究発表会2017 ポスター発表.
- 鳴橋直弘\* (2016) ユリ科ミノコバイモのレクトタイプ. 植物地理・分類研究 64 (1) : 25-26.
- 鳴橋直弘\* (2017) ヘビイチゴを調べる. 大阪自然史センター、大阪. 230pp.
- Naruhashi, N. \* (2017) The entity of *Rubus japonicus tricolor* (Rosaceae). The Journal of Japanese Botany 92 (1) : 44-46.
- Negrobov, O. P. #, Kumazawa, T. \*, Tago, T. # and Sato, M. # (2016) New species of *Hercostomus* Loew, 1857 (Dolichopodidae, Diptera) from Japan. Zootaxa 4158(1) : 65-80.
- Negrobov, O. P. #, Kumazawa, T. \*, Tago, T. # and Fursov, V. N. # (2016) Species of the genus *Chrysotus* Meigen, 1824 (Diptera : Dolichopodidae) from Japan, with descriptions of two new species. European Journal of Taxonomy 197 : 1-15.
- 大阪府 (2016) 大阪の生物多様性ホットスポットー多様な生きものたちに会える場所ー 金剛山. (道盛正樹\* 分担執筆)
- Saitō, M. # and Ando, K. \* (2016) Description of a new species of *Arthromacra* (Coleoptera, Tenebrionidae, Lagriinae) from Taiwan. Elytra, Tokyo, (n. ser.) , 6 (1) : 97-100.
- 佐藤隆春\* (2016) 鍋山の安山岩は岩頸か、溶岩か. きしわだ自然友の会 Mélange 15 (1/2) : 2-4.
- 佐藤隆春\*・石井陽子\*・小西哲夫#・坂本隆彦#・竹内靖夫#・濱塚 博#・別所孝範\*・森山義博#・山本睦徳\* (2016) ピンク火山灰層に含まれる火山豆石の産状とその起源. 第70回地学団体研究会総会 (小川町) 講演要旨集・巡検案内書 : 102.
- 清水裕行\*・金沢 至 (2016) セアカゴケグモなどのゴケグモ類の分布拡大. 日本昆虫学会近畿支部2016年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第154回例会講演要旨.
- 下野義人\*・大藪崇司#・北出雄生#・折原貴道#・杉山賢子#・堀井雅人#・三井崇史#・岩瀬剛二# (2015) いのちの森 No.20 20周年記念号 「きのこ」分野の調査報告 p22-35.
- 下野義人\*・大藪崇司#・北出雄生#・岩瀬剛二# (2016) 「いのちの森」におけるTuber sp.の発生活長、発生分布、および分類学的検討. 日本菌学会京都大会講演要旨集.
- 下野義人\* (2017) 2016年9月にオスロの菌類観察会で採集されたペニタケ科 (Per Marstad氏による同定). 関西菌類談話会講演要旨集.
- 鈴木寿之\*・森 誠一# (2016) 西表島浦内川の魚類. 魚類学雑誌, 63 (1) : 39-43.
- 鈴木寿之\*・森 誠一# (2016) 西表島浦内川における取水問題. 魚類学雑誌, 63 (1) : 43-46.
- Suzuki, T. \*, Senou, H. # and Randall, J. E. # (2016) *Valenciennea yanoi*, a new gobiid fish from the Ryukyu Islands, Japan (Teleostei : Gobiidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 21 : 1-9.
- Suzuki, T. \*, Shibukawa, K. # and Aizawa, M. # (2017) *Rhinogobius mizunoi*, a new species of freshwater goby (Teleostei : Gobiidae) from Japan. Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.) , (46) : 79-95.
- 高田みちよ#・道盛正樹\* (2017) NPOによる地域博物館の運営ー高槻の自然がわかるみんなの博物館を目指してー. 山西良平・佐久間大輔 (編) 「日本の博物館のこれから〜「対話と連携」の深化と多様化する博物館運営〜」 : 47-54.
- Tanimoto, M. \*, Shinzyo, T. #, Sato, M. #, Hamazuka, H. # and Konishi, T. # (2016) A potential halisaurine (Mosasauridae : Halisaurinae) tooth from the Izumi Group of southwest Japan. 5th Triennial Mosasaur Meeting - a global perspective on Mesozoic marine amniotes abstracts and Program : 45.
- 谷本正浩\* (2017) 香川県で見つかった和泉層群産モササウルス類化石KSNHM-F6-2の産出層. Melange 16-1 : 2-4.
- 谷本正浩\* (2017) 瀬戸内海で見つかったスイギユウ化石. 第15回メランジェゼミ発表要旨 : 頁表記無し.
- 谷本正浩\*・北田 稔# (2017) ヨウスコウアリゲーターの歯冠形態と歯冠装飾 : 遊離歯の化石調査のために. 第32回地学研究発表会講演要旨集 : 3.
- 塚腰 実・三井聖子\* (2016) 現生メタセコイアの生態ー発芽・実生・海水耐性・挿し木の特性. 第31回日本植生史学会大会創立30周年記念大会要旨集 : 52-53.
- 塚腰 実・三井聖子\* (2016) メタセコイアの発見・普及と文化創造 : 三木茂博士の発見から75年. 大阪市立大学都市研究プラザ10周年記念国際シンポジウム要旨集 : 58-59.
- 樽野博幸\*・河村善也#・石田 克#・奥村 潔# (2017) 岐阜県熊石洞産の後期更新世のヤベオオツノジカとヘラジカの化石 (その2) 体骨. 大阪市立自然史博物館研究報告 (71) : 17-143.
- 宇都宮聡\*・仲谷英夫# (2017) 鹿児島県長島町獅子島の上部白亜系御所浦層群から産出したエラスモサウルス科 (長頸竜目). 日本古生物学会第166回例会講演要旨集 : 48.
- 渡辺勝敏#・プラチヤームシカシントーン#・鹿野雄一#・馬淵浩司#・松井彰子\*・田畑諒一#・岩田明久# (2016) ミヤンマー・インレー湖の固有魚類相の起源と現状. 2016年

- 度日本魚類学会 (岐阜). 講演要旨.  
 渡部哲也\*・成瀬 貫#・為後智康#・川淵千尋#・花野晃一#  
 (2016) 大阪湾南部成ヶ島沖で得られたイリオモテメナ  
 ガオサガニ. 南紀生物. 58 (2) : 197-198.
- Yamamoto, M. \* (2017) Explosive eruption which blew out  
 molten sulfur at the Crater I on Volcano Shiretokoiozan.  
 Bulletin of the Shiretoko Museum (39) : 1-20.
- 山本好和\*・溝口恵敬#・高萩敏和\*・坂東 誠\* (2016) 紀伊  
 半島産の興味ある地衣類 VI. 南紀生物 58 : 201-204.
- 山本好和\*・溝口恵敬#・高萩敏和\*・土永浩史#・坂東 誠\*・  
 川上寛子# (2016) 和歌山県田辺市奇絶峡の地衣類, 南紀  
 生物 58 : 37-40.
- 山本好和\*・高萩敏和\*・坂東 誠\*・川上寛子# (2017) 大阪  
 府地衣類資料 I. 長居公園 (大阪市) の地衣類相および  
 日本新産種を含む興味深い4種について, 大阪市立自然史  
 博物館研究報告 (71) : 11-16.
- 山本好和\*・高萩敏和\*・坂東 誠\*・川上寛子# (2016) 兵庫  
 県川西市と大阪府豊能郡に跨がる妙見山の地衣類, 南紀生  
 物 58 : 128-132.
- 山西良平\* (2016) 大阪湾の環境と生物相. 都市と自然 (485) :  
 4-7
- 山西良平\*・佐久間大輔 (編) (2017) 「日本の博物館のこれ  
 から - 『対話と連携』の深化と多様化する博物館運営」  
 平成26~28年度日本学術振興会による科学研究費助成事  
 業研究成果報告書, 基盤研究 (C) 課題番号 J P 26350396,  
 研究代表者 山西良平 : 116pp.
- 山西良平\* (2017) 公立博物館の地方独立行政法人化の展望.  
 山西良平・佐久間大輔 (編) 「日本の博物館のこれから -  
 『対話と連携』の深化と多様化する博物館運営」 : 71-75.
- Yata, N. # and Hayashi, H. \* (2016) A gynandromorph  
 specimen of *Papilio hermeli* Nuyda, 1992 (Lepidoptera,  
 Papilionidae) from Mindoro Is., Philippines. Butterfly  
 Science (6) : 29-36.
- 米山団体研究グループ (佐藤隆春\*・徳間正一#・大野隆一郎#・  
 黒金道雄#・仙田幸造#・寺崎紘一#)・相澤正隆# (2016) 新  
 潟県米山北部の中ノ岳複合貫入岩の産状. 第70回地学団体  
 研究会総会 (小川町) 講演要旨集・巡検案内書 : 103.
- 末次 健司・福永 裕一 (2016) ムロトムヨウラン (ラン科)  
 を屋久島に記録する. 分類16 (2) : 207-209
- 富士田 裕子・加川 敬祐・東 隆行 (2016) 日本におけるチョ  
 ウジソウ *Amsonia elliptica* (キョウチクトウ科) の産地と  
 その現況. 保全生態学研究21 (1) : 77-92
- 小林 禱樹・黒崎 史平・丸岡 道行・坂田 成孝 (2016) 中国  
 山地 (鳥取・兵庫県境の氷ノ山山域) でみつかったウラ  
 ジロウコギ (ウコギ科) 分類16 (2) : 189-195
- 渡邊-東馬 加奈・大井-東馬 哲雄 (2016) 日本産オオバウマ  
 ノスズクサ群の分類学史およびオオバウマノスズクサとア  
 リマウマノスズクサの混同について. 分類16 (2) : 131-151
- Fujii, N. (2016) A new variety of *Cyperus pacificus* (Ohwi)  
 Ohwi (Cyperaceae). Acta Phytotax. Geobot. 67 (2) :  
 123-126.
- Qi, Z. C., Shen, C., Han, Y., Wang, R. H., Liu, R. Z., Naiki, A.  
 and Li, P. (2016) A new species of *Smilax* (Smilacaceae)  
 from southern islands of Kagoshima prefecture, Japan.  
 Phytotaxa 269 (2) : 128-130
- Yamashiro, T., Yamashiro, A., Inoue, M. and Maki, M. (2016)  
 Genetic diversity and divergence in populations of the  
 threatened grassland perennial *Vincetoxicum atratum*  
 (Apocynaceae- Asclepiadoideae) in Japan. Journal of  
 Heredity 107 (5) : 455-462
- 海老原 淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑1. 学研, 東京.

## X. 収蔵資料を利用した研究

- 植物標本庫 (OSA) の収蔵標本を研究材料として利用し、  
 2016年度に寄贈された文献のリストは次の通りである (学  
 芸員・外来研究員の業績としてあげたものを除く)。  
 狩野登之助・佐治まゆみ (2016) イボヒシヤクゴケは徳島  
 県にも産す. 蘚苔類研究11 (7) : 219
- 保田謙太郎・中山祐一郎 (2016) タイヌビエの小穂 C 型お  
 よび F 型の日本国内での地理的分布. 雑草研究61 (1) :  
 9-16
- 高野 温子・黒崎 史平・植村 修二 (2016) ナデシコ科の日  
 本新産帰化植物, ハナイトツメクサ (新称). 分類16 (1) :  
 59-62

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。28年度に寄贈を受けた主なコレクションは次の通りである。日本各地の魚類（鈴木コレクション）(11,614点)、2016年大阪湾一斉調査において採集された大阪湾沿岸の魚類(31点)、ライオン・ダチョウなどの飼育哺乳類(天王寺動物園、12点)、台湾産などハネカクシ模式標本(6点)、日本産昆虫(藤江コレクション)(8,000点)、国内外産昆虫(北川コレクション)(2,952点)、近畿産蘚苔類標本(200点)、日本産菌類標本(上田コレクション)(180点)、大阪府産菌類標本及び写真約300点)、上町断層調査ボーリング資料(一式)。

平成28年度末の総資料数は1,679,487点である(昨年度末比 34,854点の増加)。

## I. 寄贈および交換標本

### ■動物研究室

三重県のスズガモ・コサギ	2点	宮越 和美氏
能勢町のタヌキ	1点	上條 健一氏
能勢町のアライグマ	1点	南 信夫氏
和歌山県のノウサギ	1点	矢田部典子氏
滋賀県のニホンジカ他	6点	
		小林 智・小林 温氏
長居公園のヤブサメ	1点	鳥山 知子氏
奈良県のネコ	1点	井藤 竜大氏
中央区のセンダイムシクイ	1点	鳥山 寛氏
兵庫県のハシブトガラス	1点	阿久津淳子氏
住吉区のハシブトガラス	1点	瀬崎 千晶氏
三重県のスズガモ他	12点	宮越 和美氏
五月山動物園のアライグマ	1点	五月山動物園
天王寺動物園のライオン・ダチョウ他	12点	天王寺動物園
河内長野市のヒミズ	1点	佐藤 隆春氏
滋賀県の哺乳類他	40点	阿部 勇治氏
ポーリッシュ	2点	浜口 美幸氏
滋賀県のアナグマ	1点	藤本 貴司氏
沖縄県のシロハラクイナ他	7点	古本 良氏
三重県のハシボソミズナギドリ	23点	宮越 和美氏
三重県のカモ類	4点	宮越 和美氏
門真市のハシボソガラス	1点	植本 拓治氏
鹿児島県のハシボソガラス	1点	
		川上 幸江・西澤真樹子氏
奈良県のハクビシン他	3点	中山 知洋氏
奈良県のキツネ	1点	河原 和子氏
宮城県のタヌキ	1点	

五月山動物園のカイウサギ	1点	五月山動物園
岐阜県のイタチ	1点	西澤真樹子氏
能勢町のアナグマ	1点	南 信夫氏
奈良県のタヌキ	1点	井藤 竜大氏
箕面市のイノシシ	1点	植本 拓治氏
河内長野市のテン	1点	横山 太氏
堺市のイタチ	1点	小牧 由雅氏
堺市のイタチ	1点	中山 能成氏
堺市のイタチ	1点	木村 寛氏
兵庫県のイタチ	1点	阿久津淳子氏
住吉区のドバト	1点	大矢 樹氏
門真市のアオバト	1点	山中 昌樹氏
北区のアオバト	1点	室戸 美紀氏
和歌山県のミズゴイ	1点	矢田部典子氏
沖縄県のイソヒヨドリ他	5点	鐘ヶ江 光氏
富山県のカヤクグリ	1点	酒井 友子氏
枚方市のソウシチョウ	1点	古園 由香氏
池田市のアカネズミ他	2点	山本 花菜氏
石垣島のキジ・オオコウモリ他	9点	酒田千佳子氏
北海道のイワツバメ他	3点	中村真樹子氏
和歌山県日高町の無脊椎動物	20点	
		大阪湾海岸生物研究会
日本平動物園のレッサーパンダ	1点	
		静岡市立日本平動物園
滋賀県のツキノワグマ他	5点	池田 武治氏
福岡県のアナグマ	1点	荒巻 孝平氏
滋賀県のハクビシン	1点	小田 隆氏
岸和田市のスズメ他	3点	小牧 由雅氏
此花区のハシブトガラス	1点	丹生 利博氏
兵庫県のハシブトガラス	1点	運天 政元氏
北区のハシブトガラス	1点	久保 ユカ氏
東住吉区のハシブトガラス	1点	鎌田 智也氏
大牟田市動物園のフランソワルトン	1点	
		大牟田市動物園
三重県のカワウ他	5点	宮越 和美氏
和歌山公園動物園のボリビアリスザル	1点	
		和歌山公園動物園
和歌山県のカワリシロハラミズナギドリ	1点	
		和歌山城整備企画課
堺市のイタチ	1点	
		酒井 和子・井上 采子氏
鹿児島県のクロトウゾクカモメ	1点	川上 幸恵氏
京都府のキジ	1点	福田 和夫氏
三重県のチュウサギ	1点	多賀 大輔氏
千葉県のカムリカイツブリ他	2点	古屋 直子氏
沖縄県のアカショウビン他	3点	古本 良氏
沖縄県のオサハシブトガラス	1点	酒田千佳子氏
阪南市のトラツグミ	1点	河越 恵美氏
長野県のヨタカ	1点	金子 昌代氏
兵庫県のクロハラアジサシ	1点	井上 拓海氏

資料収集保管事業

奈良県のアオゲラ・キビタキ	2点	木村 全邦氏	京都府のハイタカ・シロハラ	2点	小川 周吉氏
岩手県のハクビシン	1点	西澤真樹子氏	此花区のホシハジロ	1点	Y.Sakamoto氏
能勢町のハクビシン	1点	南 信夫氏	都島区のコサメビタキ他	2点	宮崎 智美氏
堺市のタヌキ	1点	佐藤 寿哲氏	岩手県のツキノワグマ・タヌキ	2点	
河内長野市のアライグマ	1点	横山 太氏			鈴木 弘文・山住 一郎氏
奈良県のイノシシ	1点	河原 和子氏	大分県のニホンジカ	1点	前畑 眞悟氏
アクア・トトぎふのカピバラ	1点		奈良県のカモシカ	1点	前畑 眞悟氏
		アクア・トトぎふ	豊能町のニホンジカ	1点	奥田 幸男氏
新潟県のハクビシン	1点	西澤真樹子氏	愛知県のニホンジカ	1点	安達 直孝氏
河南町のノウサギ	1点	森 ひとみ氏	住吉区のネコ他	2点	瀬崎 千晶氏
和歌山県のノウサギ	1点	矢田部典子氏	岩手県のツキノワグマ	1点	鈴木 弘文氏
奈良県のノウサギ	1点	河原 和子氏	貝塚市のハツカネズミ他	2点	岩崎 拓氏
柏原市のイタチ他	3点	木下 進氏	和歌山県友ヶ島のシカ	1点	
堺市のタヌキ・シロハラ	2点	浦野 信孝氏			浦野 信孝・坂本 潤二氏
沖縄県のオサハシブトガラス	1点	酒田千佳子氏	大阪狭山市のタヌキ	1点	浦野 信孝氏
天王寺区のキジバト	1点	河合 正人氏	長居公園のネコ	1点	
天王寺区のキジバト	1点	浜口 美幸氏			山口 稜介・宮田 京平・山本 涼仁氏
埼玉県のドバト	1点	石井 克彦氏	福井県のイノシシ	1点	石井 久夫氏
鹿児島県のシロハラ	1点		大分県のイノシシ・シカ	2点	丹生 忠嗣氏
		川上 幸恵・植村 恭子氏	兵庫県のタヌキ	1点	米澤 里美氏
岬町のトラツグミ	1点	桂 淑子氏	対馬のコウライキジ	1点	浅野 昌広氏
住吉区のアオバト	1点	野村 典子氏	山口県のシロエリオオハム	1点	沖田 絵麻氏
三重県のスズメ	1点	宮越 和美氏	沖縄県のクマネズミ他	4点	酒田千佳子氏
高槻市のアオジ	1点	岡本龍太郎氏	松原市のハシブトガラス	1点	大古場 正氏
三重県のアライグマ他	3点	宮越 和美氏	枚方市のツグミ	1点	大空 晴美氏
三重県のタヌキ	1点	宮越 和美氏	箕面市のヒヨドリ	1点	佐藤 雅史氏
奈良県のアライグマ	1点	河原 和子氏	奈良県のホオジロ	1点	河原 和子氏
能勢町のイタチ	1点	南 信夫氏	奈良県のウグイス	1点	中山 知洋氏
和歌山県のイタチ	1点	矢田部典子氏	千葉県のシジュウカラ	1点	岩佐 果林氏
西成区のイタチ	1点	山中 綾香氏	三重県のシカ	1点	
能勢町のイタチ	1点	南 信夫氏			山内 テリ・井上不二子氏
岸和田市のイタチ	1点	田中 氏	西成区のネコ	1点	吉村 美紀氏
豊中市のイタチ	1点	植本 拓治氏	和歌山県のタヌキ・アナグマ	2点	矢田部典子氏
能勢町のイタチ	1点	上條 健一氏	奈良県のタヌキ	1点	河原 和子氏
貝塚市のイタチ	1点	岩崎 拓氏	千早赤阪村のイタチ	1点	森 ひとみ氏
和歌山県のイタチ	1点	西澤真樹子氏	八尾市のイタチ	1点	奥田 幸男氏
和歌山県のイタチ	1点	小山 栄氏	東住吉区のイタチ	1点	鳥山 知子氏
五島列島沖のゴカクヒトデ類	4点	木暮 陽一氏	西成区のイタチ	1点	浜口 美幸氏
大阪湾のエビヤドリムシ	3点	有山 啓之氏	西山動物園のフランソワルトン	1点	
大阪湾のイソテッポウエビ類	27点	有山 啓之氏			鯖江市立西山動物園
和歌山県のカキ類	20点	浜口 昌巳氏	愛媛県のアミメウツボ	1点	清水 孝昭氏
奈良県のハクビシン	1点	井藤 竜大氏	神戸市須磨沖の魚類	4点	
千葉県のセグロカモメ他	9点	宮越 和美氏			須磨海岸生物調査研究所
北海道のオオアカゲラ	1点	小山 栄氏	大阪湾のカタボシイワシ・ツキノワガレイ属他魚類		
青森県のノスリ	1点	平田 和彦氏			5点 大阪府立環境農林水産総合研究所
北区のジョウビタキ	1点		大阪湾沿岸の魚類	31点	
		積水ハウス環境推進部			2016年大阪湾一斉調査参加者
奈良県のキツネ・アナグマ	2点	丸山健一郎氏	貝塚市のウスバハギ	1点	山田 浩二氏
三重県のタヌキ	1点	宮越 和美氏	羽曳野市のナマズ他	2点	井関 浩光氏
静岡県のカキ類	2点	柚原 剛氏	兵庫県浜坂町のリュウグウノツカイ	1点	川口 雅秀氏
沖縄県のシロハラクイナ	1点	酒田千佳子氏	神戸沖のメイタガレイ他	3点	柴田 保彦氏

日本各地のハゼ類他	118点	松井 彰子・乾 隆帝氏
淀川のスジシマドジョウ類	3点	萩野 哲氏
日本各地の魚類	11,614点	鈴木 寿之氏
大阪市立大学の鳥類・哺乳類	61点	高木 昌興・岩崎 哲也氏

## ■昆虫研究室

日本産ハネカクシ模式標本	4点	林 靖彦氏
台湾産ハネカクシ模式標本	2点	林 靖彦氏
南大東島産テントウムシ	1点	北村 颯氏
日本産チョウ	11点	松田 真平氏
日本産昆虫	8,000点	藤江 隼平氏
海外産ハサミムシ	17点	上村 佳孝氏
近畿地方の昆虫	213点	大宮 文彦氏
ケニアのセミの抜け殻	1点	沼田 英治氏
和歌山県産ヒメハルゼミ	2点	衣奈八幡神社
海外産昆虫	76点	吉良 竜夫氏
北川正三コレクション	2,952点	北川 正三氏
北欧産昆虫	11点	Johannes Bergstew氏

日本産昆虫	87点	井藤 竜大氏
日本産コガネムシ科模式標本	10点	越智 輝男氏
日本産昆虫	230点	春沢圭太郎氏
国内外産昆虫	733点	春沢圭太郎氏
元あやめ池遊園地自然博物館昆虫類	1,726点	河合 正人氏
スズカクチキウマのホロタイプなど	2点	石川 均氏
追手門学院大学生物学研究室昆虫類	17,984点	西川 喜朗氏
大阪市産クロマダラソテツジミ	1点	藤井 俊夫氏
クロマダラソテツジミ	28点	飯島 昌氏

## ■植物研究室

アラスカ産種子植物標本	15点	初宿 成彦氏
オオツメクサ	1点	吉田ミドリ氏
ハカマカズラ	1点	渡邊 淳一氏
近畿地方産植物	348点	藤井 俊夫氏
近畿産蘚苔類	200点	

大阪教育大学	哇 浩二氏	
日本産ベニタケ属標本	3点	下野 義人氏
泉南市産フトヒルムシロ	1点	和田 岳氏
教材用標本	一式	

相愛中学校高等学校	谷村 泰行氏	
カナリアマツ	1点	山脇 和也氏
万博公園等のラン科標本(キンラン、シロバナキンラン、ギンラン等)	9点	尾方 義雄氏
外来植物標本	10点	植村 修二氏
普通植物図解	1点	大塚主基子氏
Lecanochis	2点	福永 祐一氏
菌寄生植物標本	7点	末次 健司氏
ヒメモダマ果実	1点	渡邊 淳一氏
植物関係スライド	一式	北川 治氏
外来植物標本	2点	平野 弘二氏
近畿地方産植物標本	126点	小林 禎樹氏

日本産ベニタケ属標本	32点	下野 義人氏
日本産菌類標本	180点	上田 俊穂氏
大阪府産菌類標本及び写真	300点	荒尾 瀧男氏
日本産菌類標本	300点	関西菌類談話会

## ■地史研究室

三葉虫化石	1点	雲雀 和夫氏
エピオルニス卵殻片	1点	吉田 彰氏
富田林市産 ミツガシワ種子化石	1点	樽野 博幸氏

## ■第四紀研究室

火山灰(セントヘレンズ火山)	吉田小恵子氏
有珠山の火山灰層はぎとり標本	大西 清美氏
神戸市の地形・地質模型	

大阪芸術大学 ハーヴィ・シャピロ氏  
上町断層調査ボーリング資料

一般財団法人地域地盤環境研究所  
大阪市内ボーリング資料

大阪市内ボーリング資料	16件	大阪市都市整備局
海浜砂	2点	大江 彩佳氏
海浜砂	3点	小沢 利幸氏
海浜砂	1点	北田 華氏
海浜砂	1点	下村 晴美氏
海浜砂	1点	鳥山 寛氏
海浜砂	1点	鳥山 優氏
海浜砂	12点	中尾 茂氏
海浜砂	1点	藤田 芙美氏
海浜砂	44点	古谷亜矢子氏
海浜砂	5点	増田 静子氏
海浜砂	8点	横山 康子氏
海浜砂	5点	米澤 里美氏
海浜砂	2点	Sven Martin Ehrlich 氏

## II. 館員による資料収集

## ■館長(谷田一三)

5月7-8日	奈良県東吉野村で河川昆虫の採集
5月31-6月2日	福島県三春ダムにてエコトーンの無脊椎動物の採集
7月2-3日	兵庫県猪名川町にて河川昆虫の採集
7月18-19日	奈良県東吉野村にて河川昆虫などの採集
8月8-9日	奈良県東吉野村にて河川昆虫などの採集
8月18-20日	福島県三春ダムにてエコトーンの無脊椎動物の採集
10月2-4日	石川県白山市尾添川水系蛇谷川にて河川生物の採集
10月11-13日	福島県三春ダムにてエコトーンの無脊椎動物の採集
1月14日	静岡県清水町柿田川に羽化トラップの設置
3月18日	奈良県東吉野村にて河川昆虫などの採集

## ■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、石田…Iと略記する。  
和歌山県和歌山市で魚類を採集 (4月、5月、H)

## 資料収集保管事業

大阪府岬町で魚類を採集	(5月、H)	6月6日	箕面市箕面	昆虫全般 (M)	
瀬戸内海西部周防灘沿岸で魚類を採集	(9月、H)	6月7・9日	京都府八幡市	昆虫一般 (S)	
大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集	(4~7、9月、12月、I)	6月7-9日	青森県弘前市白神山地	昆虫全般 (M)	
広島県福山市、竹原市、呉市で海産無脊椎動物を採集	(4月、I)	6月11~14日	伊豆半島・伊豆大島	甲虫 (S)	
大分県杵築市、国東町、日出町で海産無脊椎動物を採集	(6、9月、I)	6月13日	高槻市三島江	昆虫全般 (M)	
和歌山県日高町で海産無脊椎動物を採集	(7~8月、I)	6月15日	兵庫県宍粟市赤西溪谷	昆虫全般 (M)	
大分県国東半島沿岸で海産無脊椎動物を採集	(8~9月、I)	6月15日	京都府八幡市三川合流	昆虫全般 (M)	
大阪府で淡水貝類を採集	(6月、I)	6月16日	滋賀県東近江市	甲虫 (S)	
<b>■昆虫研究室</b>		6月20日	滋賀県大津市志賀町	甲虫 (S)	
日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。		6月21日	滋賀県野洲市	甲虫 (S)	
4月6日	奈良県大和郡山市	ハチ類 (M)	6月24日	大阪狭山市	クビアカツヤカミキリ調査 (M)
4月10日	滋賀県彦根市	昆虫化石 (S)	6月26日	高槻市三島江・行事	昆虫全般 (M)
4月13日	河内長野市	昆虫全般 (M)	6月27日	福井県池田町冠山	昆虫全般 (M)
4月13日	滋賀県近江八幡市	昆虫一般 (S)	6月27日	滋賀県大津市和邇	甲虫 (S)
4月18日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)	6月29日	滋賀県大津市和邇	甲虫 (S)
4月22日	兵庫県たつの市	昆虫全般 (M)	7月1日	和歌山県由良町	ヒメハルゼミ (S)
4月23日	東岡山	ハチ類 (M)	7月2日	和歌山県新宮市	ヒメハルゼミ (S)
4月24日	高槻市三島江・行事	レンゲ畑の昆虫 (M)	7月2-3日	兵庫県猪名川市	昆虫全般 (M)
4月28日	大阪市舞洲	外来種 (M)	7月3日	和歌山県本宮	ヒメハルゼミ (S)
5月1日	奈良県大和郡山市・行事	ハチ類 (M)	7月4日	和歌山県すさみ町	ヒメハルゼミ (S)
5月2日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)	7月6日	奈良県天川村	昆虫全般 (M)
5月5日	八尾市高安山	ハルゼミ (S)	7月6・7・8日	兵庫県淡路島	ヒメハルゼミ (S)
5月7日	高槻市成合	食植性昆虫 (S)	7月10日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
5月10-12日	ベトナム国立自然博物館・タムダオ	移動昆虫 (K)	7月11・12日	兵庫県播磨地方	ヒメハルゼミ (S)
5月14日	大阪市舞洲・行事	外来種 (M)	7月16日	奈良市・桜井市長谷寺	ヒメハルゼミ (S)
5月14・22日	高槻市萩谷	オトシブミ (S)	7月17日	奈良市	ヒメハルゼミ (S)
5月15日	東大阪市枚岡公園・行事	昆虫全般 (M)	7月17-18日	長野県阿智村	昆虫全般 (M)
5月16日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)	7月19・20日	奈良県桜井市・和歌山県熊野・三重県大台町	ヒメハルゼミ (S)
5月20日	岸和田市神於山	ハルゼミ (S)	7月22・23日	和歌山県新宮市	ヒメハルゼミ (S)
5月21日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)	7月24日	兵庫県加古川市高御位山	ウスバカゲロウ類 (M)
5月22日	兵庫県宍粟市赤西溪谷	昆虫全般 (M)	7月24-25日	鳥取県大山	アサギマダラ (K)
5月23日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)	7月27日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
5月23日	大和葛城山	ハルゼミ	7月27日	岬町	ヒグラシ (S)
5月27日	和歌山県御坊市	甲虫 (S)	7月31日	兵庫県美方町	昆虫全般 (M)
5月28日	貝塚市蕎原	ハルゼミ (S)	8月1日	岸和田市牛滝	ヒグラシ (S)
5月31日	泉佐野市側川溪谷	ハルゼミ (S)	8月3-4日	福井県福井市	オンブバッタ・海浜性昆虫 (M)
5月31-6月3日	台湾陽明山公園・台北市立大学	移動昆虫 (K)	8月6日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)
6月3日	奈良県御所市大和葛城山	昆虫全般 (M)	8月10日	八尾市	ヒグラシ (S)
6月4日	兵庫県猪名川市	昆虫全般 (M)	8月13日	愛媛県今治市笠松山	ウスバカゲロウ類 (M)
6月4日	高知県室戸岬	甲虫 (S)	8月17日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)
			8月20・28日	金剛山	昆虫全般 (K)
			8月22日-9月3日	中華人民共和国四川省	昆虫全般 (M)
			8月26日	滋賀県金勝山	エゾゼミ (S)



8月31日	滋賀県比叡山	エゾゼミ (S)	6月13日	高槻市	植物一般 (Y)
9月1日	滋賀県信楽町	エゾゼミ (S)	6月16-17日	兵庫県新温泉町	植物一般 (Y)
9月4日	滋賀県彦根市	昆虫化石 (S)	6月19-22日	栃木県日光市	植物一般 (Y)
9月11日	大阪市靱公園	セミ調査 (M)	6月24日	大阪市内	植物一般 (H)
9月13日	奈良県奈良市	昆虫全般 (M)	6月30日-7月1日	熊本県阿蘇市・高森町	植物一般 (Y)
9月16日	奈良県天川村	昆虫全般 (M)	7月1日	東大阪市 枚岡公園	菌類資料収集 (S)
9月22・25日	富田林市汐ノ宮～滝谷	昆虫全般 (K)	7月5日	大阪市内	植物一般 (H)
9月24日	京都府八幡市	オンブバッタ調査 (M)	7月6日	福井県 水月湖	菌類資料収集 (S)
9月28日	奈良県奈良市	オンブバッタ調査 (M)	7月6-8日	青森県深浦町	エゾハナシノブ (Y)
9月30日	奈良県広陵町馬見丘陵	オンブバッタ調査 (M)	7月11日	大阪市内	植物一般 (H)
10月10日	藤井寺市石川河川敷・行事	バッタ (M)	7月19日	兵庫県淡路市・南あわじ市	海岸植物 (Y)
10月12日	大阪市舞洲	外来種 (M)	7月20日	大阪市内	植物一般 (H)
10月16-18日	広島県福山市～広島市	ウスバカゲロウ類 (M)	7月23日	大阪市内	植物一般 (H)
10月17日	和歌山県日の岬	アサギマダラ (K)	7月25-31日	北海道厚岸町	植物一般 (H)
10月21日	羽曳野市	外来昆虫 (S)	7月29日	京都府京都市東山	菌類資料収集 (S)
10月23日	大阪市舞洲・行事	外来種 (M)	8月5-8日	宮城県南三陸町	植物一般 (Y)
10月26日	和歌山県和歌山市	オンブバッタ調査 (M)	8月14-18日	熊本県阿蘇市・高森町	植物一般 (Y)
10月30日	奈良県橿原市	昆虫全般 (M)	8月24日	大阪市内	植物一般 (H)
11月12日	徳島県鳴門市	オンブバッタ調査 (M)	8月29-9月9日	屋久島	高地植物調査 (H)
11月12日	滋賀県大津市和邇	甲虫 (S)	8月30日-9月2日	大分県中津市	海岸植物 (Y)
12月25日	京都府福知山市	照葉樹林の昆虫 (S)	9月5日	岡山県西粟倉村	菌類資料収集 (S)
12月28日	滋賀県彦根市	昆虫化石 (S)	9月10-15日	熊本県阿蘇市	植物一般 (Y)
1月2日	愛媛県松山市中島	ウスバカゲロウ類 (M)	9月17-19日	大分県杵築市・日出町	植物一般 (Y)
1月4-9日	台湾高雄市茂林・義守大学・墾丁公園	移動昆虫 (K)	9月19日	滋賀県大津市瀬田龍谷の森	菌類資料 (S)
1月12日	奈良県明日香村甘檜の丘	越冬昆虫 (M)	9月20-22日	栃木県日光市	植物一般 (Y)
1月17日	三重県尾鷲市	照葉樹林の昆虫 (S)	9月22, 25日	富田林市	菌類資料 (S)
1月28日	奈良県天理市	照葉樹林の昆虫 (S)	9月22日, 10月3日	島本町 若山神社	菌類資料 (S)
2月12日	藤井寺市石川河川敷	昆虫全般 (M)	9月23, 28日	奈良県上北山村大台ヶ原	菌類資料 (S)
2月27日	大阪市北港ヨットハーバー	昆虫全般 (M)	9月29-10月7日	屋久島	高地植物調査 (H)
3月18日	奈良県東吉野村	水生昆虫 (M)	10月7日	岡山県浅口市	アッケシソウ (Y)
■植物研究室			10月10日	滋賀県多賀町	コゴメグサ (H)
4月5日	大阪市内	植物一般 (H)	10月16日	京都府大山崎町天王山	菌類資料収集 (S)
4月9日	大阪市内	植物一般 (H)	10月19日	東大阪市	植物一般 (Y)
4月9-10日	広島県北広島町	植物一般 (Y)	10月26-28日	岡山県北木島、香川県佐柳島	海岸植物、ハマビシ (H)
4月13日	高槻市	植物一般 (Y)	10月30日	愛媛県新居浜市	海岸植物 (Y)
4月15日	大阪市内	植物一般 (H)	10月30日	京都府立植物園	菌類資料収集 (S)
4月22日	大阪市内	植物一般 (H)	11月3日	阪南市	植物一般 (Y)
4月27日	兵庫県淡路市・南あわじ市	海岸植物 (Y)	11月9-11日	熊本県阿蘇市	植物一般 (Y)
5月1日	奈良県奈良市	植物一般 (Y)	11月15-16日	奈良県斑鳩町春日古墳	植物一般 (H)
5月13日	大阪市内	植物一般 (H)	11月22日	奈良県斑鳩町春日古墳	植物一般 (H)
5月18-20日	熊本県阿蘇市・高森町	植物一般 (Y)	2月7-8日	愛媛県今治市	海岸植物 (Y)
5月19日	大阪市内	植物一般 (H)	2月17-22日	沖縄県竹富町	植物一般 (Y)
5月23日	滋賀県大津市 幻住庵	菌類資料収集 (S)	3月23日	大阪市内	植物一般 (H)
5月25日	兵庫県淡路市・南あわじ市	海岸植物 (Y)	■地史研究室		
5月28-31日	宮城県南三陸町	植物一般 (Y)	担当学芸員は、川端…K、塚腰…T、林…Hと略記する。		
5月31日	大阪市内	植物一般 (H)	2016年		
6月1日	滋賀県多賀町	植物一般 (H)	5月2日	伊賀市	古琵琶湖層群産植物化石 (T)
6月12-17日	北海道厚岸町	植物一般 (H)	5月12日	彦根市	最終氷期植物化石 (T)
			5月13日・20日	大阪府岸和田市	

## 資料収集保管事業

		貝化石・植物化石 (H、T)	
5月27日	大阪府泉佐野市	貝化石・鉱物 (H)	
5月28日～30日	宮城県南三陸町・石巻市	中生代動物化石 (K)	
6月27日	岸和田市	大阪層群実験用試料 (K)	
7月19日	大阪府泉佐野市	貝化石・鉱物 (H)	
9月13日～14日	千葉県鴨川市、神奈川県横須賀市など	新生代岩石 (K)	
9月16日	愛媛県	久万層群産植物化石 (T)	
9月29日～10月1日	福岡県背振山	岩石・佐賀県肥前町 新生代植物化石 (T)	
10月17日	香川県さぬき市	貝化石・海生爬虫類化石 (H)	
12月5日	伊賀市	古琵琶湖層群産貝化石 (T)	
12月18日	伊賀市	古琵琶湖層群産貝化石 (T)	
2017年			
3月6日	大阪府泉佐野市	貝化石・鉱物 (H)	
<b>■第四紀研究室</b>			
担当学芸員は、石井…I、中条…Nと略記する。			
4月6～8日	広島県瀬戸内海沿岸	海浜砂 (N)	
5月12日	滋賀県彦根市	始良丹沢火山灰・はぎ取り標本 (N・塚腰)	
5月13・20日	岸和田市稲葉町	大阪層群貝化石、分析用試料 (I・塚腰)	
6月17～19日	大分県別府湾沿岸	海浜砂 (N)	
8月30日～9月1日	大分県国東半島沿岸	海浜砂 (N)	
9月9日	埼玉県所沢市、東京都野田市、稲城市、神奈川県横浜市港北区	上総層群火山灰試料、植物化石 (I)	
10月9日	徳島県徳島市、阿南市	河川砂・海砂利 (I)	
10月15日	和歌山県和歌山市	海浜砂 (N)	
11月14～15日	大分県豊後高田市	干潟はぎ取り標本・海浜砂 (N)	
1月24日	岸和田市稲葉町	大阪層群 貝化石 (I・N)	
1月29日	岸和田市稲葉町	大阪層群 火山灰試料、藍鉄鉱 (I)	

### Ⅲ. 現有資料数

#### ■動物研究室 (平成28年度末)

海綿動物	135点
刺胞動物・有櫛動物	709点
扁形・紐形動物	445点
触手動物	149点
環形動物	6,989点
甲殻類	16,229点
軟体動物	37,899点
棘皮動物	2,949点

原索動物	471点
その他無脊椎動物	1,034点
魚類	45,846点
両生類	22,043点
爬虫類	7,899点
鳥類	7,663点
哺乳類	3,183点

(計) 153,643点

#### ■昆虫研究室 (平成28年度末、未登録標本を含む)

標本総数 1,070,046点

#### 日本産昆虫

カワゲラ目	549
カゲロウ目	10,220
トンボ目	19,329
カマキリ目	659
直翅目	24,369
ナナフシ目	551
ハサミムシ目	577
ガロアムシ目	99
ゴキブリ目	643
シロアリ目	93
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類 (カメムシなど)	15,496
異翅類 (セミなど)	31,354
脈翅目	1,784
シリアゲムシ目	2,014
トビケラ目	2,368
蛾 (ガ)	66,302
蝶 (チョウ)	79,825
甲虫目	379,238
ハエ目	48,754
ハチ目	53,476
その他 (各目)	17,033
クモなど	16,943

(計) 772,096

#### 外国産昆虫

蝶 (チョウ)	83,916
蛾 (ガ)	7,777
ハチ目	5,518
ハエ目	4,138
甲虫	150,224

脈翅目	133
同翅類（セミなど）	6,430
異翅類（カメムシなど）	2,226
直翅型昆虫	6,548
トンボ目	1,412
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,192
クモなど	1,582
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
(計)	297,950

#### ■植物研究室（平成28年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	289,527
蘚類標本	36,900
苔類標本	23,940
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	18,300
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
(計)	386,214

#### ■地史研究室

古生代植物化石	185点
中生代植物化石	369点
第三紀植物化石	3,741点
岩石	1,275点
鉱物	3,035点
脊椎動物化石	1824点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
(計)	32,865点

#### ■第四紀研究室（平成28年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941（種）
現生シダ植物胞子	362（種）

無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1735（件）

(計) 36,719点（件・種）

## IV. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫および旧第3収蔵庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に答えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

平成28年度は図書整理のアルバイト要員を配置し、より精力的に登録作業を行った。登録を行なった単行本は、2,344部で、総計は17,908部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物は平成28年度に9,533冊で当年度末現在の累計207,839冊である。

### 1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

●**個人**：安藤清志、浦野信孝、岡本素治、岡野浩、海老原淳、岩崎常正、宮誠而、宮武頼夫、橋屋誠、橋本良延、金沢至、熊谷賢、黒田隆司、佐久間大輔、山本勝也、市川顕彦、初宿成彦、小俣軍平、松本堅一、松本吏樹郎、水野弘造、杉本一雄、西川喜朗、早瀬善正、多田弘一、大村敏朗、大塚主基子、谷田一三、池田良幸、長田芳和、通盛正樹、塚腰実、天野典英、藤井伸二、内田正吉、波戸岡清峰、馬場菊太郎、浜田信夫、綿末しのぶ、木村キワ、林靖彦、和田岳、和田恵次

●**民間団体、出版社、企業など**：PHP研究所、Springer-Verlag Berlin、オーム社、ソシオエンジニアリング株式会社、ひかりのくに、ミュゼ、河出書房新社、共立出版株式会社、昆虫文献六本脚、童夢、洋泉社

●**政府機関及び自治体及び関連団体、大学、研究所など**：Academia Roveretana Degli Agiati、AWF滋賀むしの会、Cooper Ornithological Society、Museo Civico di Storia Naturale di Morbegno、Museo Regionale di Scienze Naturali、National Institute of Biological Resurces、

Natural History Museum、NHK放送博物館、Pacific Coast Entomological Society、Raptor Research Foundation、Swedish Museum of Natural History、Ubersee-Museum Bremen、Universiti Kebangsaan、アサギマダラの会、いずみの国の自然館クラブ、ウボ湿地のビジターセンター、カメムシ研究会、かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会、きつつき21編集室、シニア自然大学校、だんじりを活かした地域共働事業実行委員会、なごや生物多様性センター、なごや生物多様性保全活動協議会、バードリサーチ、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、バルテノン多摩、ひがし大雪自然館、フィールドソサイエティー、ふじのくに地球環境史ミュージアム、みのかも文化の森、愛知県陶磁美術館、愛知大学、旭川市科学館、宇都宮大学教育学部、瓜生山学園京都造形芸術大学、横倉山自然の森博物館、岡山県自然保護センター、岡山市役所デジタルミュージアム開設準備室、沖縄県教育委員会、沖縄県立博物館・美術館、下関海洋科学アカデミー鯨類研究室、下関市立しものせき水族館「海響館」、海女振興協議会、貝塚市立自然遊学館、茅ヶ崎市教育委員会、茅野市尖石縄文考古館、環境再生保全機構、環境省近畿地方環境事務所、環境調査研究所、関西クモ研究会、関西トンボ談話会、関西菌類談話会、関西自然保護機構、岐阜県昆虫分布研究会、郷土日田の自然調査会、菌学教育研究会、近畿建設協会、近畿植物同好会、研究者国際交流センター、御船町恐竜博物館、広島県立美術館、国際自然保護連合日本委員会、国立科学博物館、国立国会図書館、国立新美術館、国連生物多様性の10年日本委員会事務局、今城塚古代歴史館、昆虫DNA研究会、佐渡市立佐渡博物館、阪神貝類談話会、堺野鳥の会、埼玉県立川の博物館、埼玉昆虫談話会、札幌市博物館活動センター、三重県総合博物館、三重昆虫談話会、三重動物学会、三内丸山遺跡保存活用推進室、山梨県立科学館、産業技術総合研究所地質調査総合センター、四国自然史科学研究センター、紙の博物館、滋賀自然環境研究会、滋賀大学環境総合研究センター、滋賀大学教育学部、自然環境研究センター、自然保護助成基金、住吉かかしプロジェクト、渋沢史料館、松原市文化情報振興事業団、寝屋川市自然を学ぶ会、新潟県立歴史博物館、森林総合研究所、森林総合研究所四国支所、神戸市環境局環境保全部自然環境共生課、須磨海浜水族園、吹田市教育委員会、水産庁、水産無脊椎動物研究所、水草研究会、瀬戸内海歴史民俗資料館、静岡県自然史博物館ネットワーク、石川むしの会、赤城姫を愛する集まり、千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター、泉北野鳥の会、全国美術館会議、双翅目談話会、早稲田大学演劇博物館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、総合地球環境学研究所、多賀町教育委員会、多摩六都科学館、大井沢自然博物館、大阪21世紀協会、大阪みどりのトラスト協会、大阪科学技術センター、大阪昆虫同好会、大阪市視聴覚ライブラリー、大阪市青少年活動協会、大阪市立住まいのミュー

ジウム、大阪市立大学理学部生物学科、大阪大学総合学術博物館、大阪府環境農林推進部みどり推進室みどり企画課、大阪府環境農林水産部水産課、大阪府都市整備部公園課、大阪府農林部水産室、大阪文化財センター、大東市立歴史民俗資料館、地球環境関西フォーラム、池田・人と自然の会、筑紫昆虫同好会、中海水鳥国際交流基金財団、長野県環境保全研究所、長野県立歴史館、長良川鶴飼文化の魅力発信事業実行委員会、津山市史編さん室、東レ科学振興会、東京大学大気海洋研究所、東京都、東京都美術館、苫小牧市美術博物館、奈良シダの会、奈良県橿原市教育委員会、奈良文化財研究所、那須野ヶ原博物館、南京地質産研究所、南大阪昆虫同好会、南方熊楠研究会準備委員会、南方熊楠顕彰会、日本チョウ類保全協会、日本ユネスコ協会連盟、日本家屋害虫学会、日本科学技術振興財団、日本財団、日本自然科学写真協会、日本植物園協会、日本生態学会東北地区会、日本大学法学部、日本地震学会、日本直翅類学会、日本半翅類学会、日本文化財保護協会、日本野鳥の会、日本野鳥の会京都支部、日本野鳥の会大阪、日本爬虫両棲類学会、入間市博物館、農林水産省神戸植物防疫所8、萩博物館、八ヶ岳総合博物館、八王子市、八幡市環境経済部環境保全課、発酵研究所、発明協会、美幌博物館、百万石蝶談話会、氷ノ山自然ふれあい館響の森、富山大学地域連携推進機構地域づくり・文化支援部門、武庫川女子大学トルコ文化研究センター、福井県立恐竜博物館、兵庫県植物誌研究会、兵庫県地学会、豊田ホタルの里ミュージアム、防府市青少年科学館ソラール、北海道博物館、北九州植物友の会、箕面自然観察会、箕面自然観察会、名古屋昆虫同好会、名古屋市科学館、名古屋大学博物館、面河山岳博物館、野尻湖昆虫グループ、有田市教育委員会、陸水生物研究会、立山カルデラ砂防博物館、龍谷大学広報室、千葉県立中央博物館分館海の博物館、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団、魚津水族博物館、京都市環境事業協会、京都大学生態学研究センター、京都大学総合博物館、京都大学理学部地質学鉱物学教室、京都服飾文化研究財団

## 2. 購入等によるもの

### ●図書購入費による購入（科研費によるものは除く）

平成28年度 39冊

### ●消耗品費による購入

6誌

海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、月刊むし。

### ●学会への加入による収集

10学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生物地理学会（Biogeography, 日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会 (The Japanese Journal of Phycology, 藻類)  
 日本陸水学会 (Limnology, 陸水学雑誌)  
 日本地学研究会 (地学研究)  
 日本博物館協会 (博物館研究)  
 全国科学博物館協議会 (全科協ニュース)  
 国際トンボ学会 (ODONATOLOGICA)  
 この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

### 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行 (当館編集) Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

#### ■研究報告など出版物の配布

平成28年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告70号	463ヶ所	472冊	386ヶ所	389冊
自然史研究 第3巻17号	357ヶ所	366冊	173ヶ所	176冊
収蔵資料目録 第48集	232ヶ所	240冊	51ヶ所	52冊
展示解説 第47回特別展解説書「氷河時代」				
ミニガイド No. 28「バタフライガーデン」	263ヶ所	268冊	0ヶ所	0冊
館報 41号	649ヶ所	663冊	11ヶ所	11冊

# 展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示として大阪の自然誌展示室（無料ゾーン）、ナガスクジラなどが展示される屋外展示、本館のナウマンホール及び第1～第5展示室（うち第4展示室はギャラリーとして回廊部に設置）、があり、ネイチャーホールで開催される「特別展示」や「企画展示」、本館2Fイベントスペースで開催される「テーマ展示」、小規模にコーナーで展示される「ミニ展示」などがある。近年、旧来は「特別陳列」とよんでいた臨時の展示を大小様々な形で実施していることから、上記のような形で呼称を整理している。

平成28年度の入館者数は、常設展244,587人（うち有料114,468人）、特別展133,483人（うち有料60,493）人であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、378,070人であった。常設展入館者は前年度比113.8%で29,765名増、総入館者数も前年度比48,043名増となった。

## I. 常設展示

常設展示は施設の老朽化を含め改修を要する場所が多い。小規模な改修を積み重ね、維持をはかっている。今年度は以下の修正・改良を行った。

- ・第2展示室前 特別展氷河時代に使用した山岳氷河の模型を移設。セミの抜け殻展示は靱公園の調査終了に伴い、ギャラリーから撤去した。
- ・第3展示室20.A. 旅をする蝶  
アサギマダラの移動記録を、日本列島と台湾など国外を移動した記録などを中心に最新の記録を盛り込み更新した。
- ・第5展示室 27.A, 38.Aなどの展示機器メンテナンス
- ・ナウマンホール プロジェクター更新、タッチPCの更新
- ・大阪の自然誌展示室 学習端末PCの更新
- ・多言語化パンフレット・ホームページに合わせ

## II. 特別展示

特別展には学芸員の研究を基礎として行う主催特別展（第〇回と表示）と、新聞社などと共催し、幾つかの博物館を巡回する巡回型特別展がある。今年度は各1件の特別展を実施した。

### （1）第47回特別展

#### 「氷河時代－化石でたどる日本の気候変動－」

近年、環境問題やエネルギー問題として、地球温暖化現象が市民の関心を集めているが、現在が氷河時代であることは広く知られていない。本特別展では地球46億年の気候変動史を、ここ数十年の研究成果を盛り込みながら化石や地質資料を用いて紹介した。特に、現在も含む新生代第四紀が氷河時代であり、氷期・間氷期が数十回繰り返したことを、大阪の地層やそこから見つかったさまざまな動物化石、植物化石を中心に紹介した。また、最終氷期の終わりから現在にかけての生物相や環境の変化についても扱った。この展示を通じて、地球温暖化現象を地球の気候変動史に位置づけて考えることを提案した。



図5. 展示風景（ナウマンゾウ頭蓋骨、マンモス全身骨格、オオツノジカ全身骨格）。

### ●内容（主な展示物）

**導入・氷河時代とは：**最終氷期に日本列島まで分布を広げたヘラジカはく製（現生）とその生息地域である高緯度地方の風景写真を入り口付近に配置した。

**気候変動が起きるとどうなるの？：**山岳氷河地形模型（氷期・間氷期）や植物化石、図解を用いて、気候変動が地形、植生、動物に及ぼす影響を解説した。

**昔の気候はどのようにしてわかるのか？：**化石（各種）、秋田スギ年輪、琵琶湖ボーリングコア、水月湖年縞ボーリングコア（図6）、氷河擦痕付き片麻岩、氷床コアレプリカなどを展示して、過去の気候変動の研究方法を解説した。

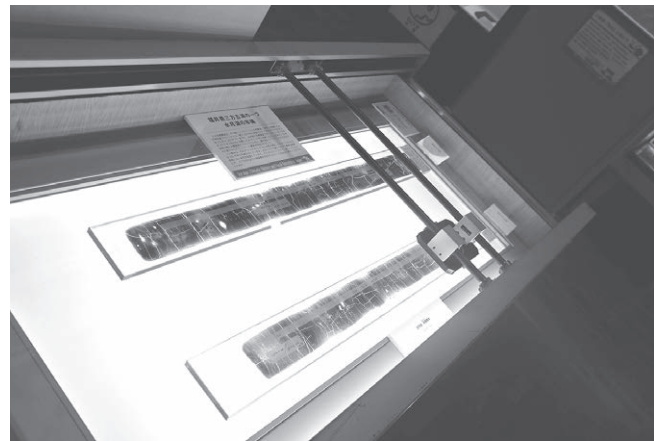


図6. 年縞プレパラート標本の展示。

**気候変動はなぜ起こる：**気候変動の原因となるさまざまな現象を、パネルを用いて簡単に説明した。

**地球46億年の気候変動：**先カンブリア時代に起きた全球凍結を縞状鉄鉱層の実物標本で、古生代の氷河時代を植物化石や石炭の標本を用いて説明した。温暖な中生代については、和泉層群産動物化石（モササウルス、アンモナイト類など）、ヴェロキラブトル（全身骨格、複製）、植物化石（キカデオイディア、アロウカリア等）など、化石を中心に紹介した。新生代の気候変動については、1600万年前の温暖期（ビカリア、マングローブシジミなど）、植物化石の全緑葉率から復元される過去3000万年間の気温の変化に加え、1000万年

前のシワリク層植物化石を用いて氷河時代へ移行する原因の一つであるヒマラヤ山脈の上昇を紹介した。

**現在も続く氷河時代—第四紀—**：新生代第四紀の氷河時代の特徴と環境変遷を、大阪群層の地質資料や大阪層群産の化石を用いて紹介した。主な展示品は、アズキ火山灰層剥ぎ取り標本、大手前ボーリングコアにみられる海成粘土層と非海成層（図7）、タカツキワニ、キシワダワニ、マチカネワニ、魚類化石、貝化石、氷期・間氷期の植物化石、ゾウ化石の変遷と陸橋の成立時期、栃木県塩原湖成層昆虫化石など。



図7. ボーリングコアの展示。

**最終氷期の日本列島**：最終氷期に入る直前の間氷期について、ボーリング資料、海成砂層剥ぎ取り標本、貝化石、復元画を用いて紹介した。約7万～1万2000年前の最終氷期については、凍結割れ目剥ぎ取り標本（北海道猿払村）、泥炭層剥ぎ取り標本および植物化石（滋賀県彦根市）、古植生図、植物化石と比較用現生さく葉標本、マンモス全身骨格及びオオツノジカ全身骨格（復元）、熊石洞産動物化石群（ナウマンゾウ、ヘラジカ、オオツノジカ等）、トラ化石等を中心に展示した。また、昆虫化石による最終氷期の近畿の昆虫相の復元や、氷河に覆われたヨーロッパと覆われなかった日本列島でシダ植物多様性の比較を、現生標本も用いて展示した。

**最終氷期から現在へ**：縄文海進期の大阪平野には海が入り込んでいたことを、クジラ類化石や貝化石で紹介した。現在の日本列島の生物相の成立の過程を、植物の遺伝タイプの違いから推定される生息域の変化、高山昆虫などで説明した。また、地形に残る氷期の痕跡を立山の氷河地形や氷河性堆積物で、氷期からの遺存種をライチョウやイワナを中心に紹介した。

**今後の気候変動**：近い将来の気候変動予測や、人為的な地球温暖化のために次の氷期が来ない可能性を紹介し、問題提起をした。

**ビデオブース**：国立極地研究所作成の番組2本、福井県作成の番組1本、熊石洞発掘調査の映像を上映した。

**期間限定展示**：8月11日（木祝）、13・14日（土・日）限定で、国立極地研究所提供の南極の氷を展示し、氷河の氷のでき方を紹介した。

●会 期：平成28年7月16日（土）～10月16日（日） 81日間

●主 催：大阪市立自然史博物館

●後 援：日本地質学会、日本第四紀学会、日本植生史学会、日本古生物学会、大阪市教育委員会、大阪府教育委員会

●協 力：宇宙航空研究開発機構（JAXA）、大阪大学学術総合博物館、大阪文化財研究所、きしわだ自然資料館、群馬県立自然史博物館、国立科学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立極地研究所、特定非営利活動法人大阪自然史センター、富山県立山カルデラ砂防博物館、奈良文化財研究所、福井県、福井県里山里海湖研究所

●観覧料：大人500円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下無料。本館（常設展）とのセット券は大人700円、高大生400円、障がい者手帳などお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。期間内フリーパス（大人1000円、高大生600円）は特別展会期中に限り、ネイチャーホールのみ何度でも入館可能。

●入場者：25394名。有料合計9215名、35.3%（大人7840名、高大生1015名、フリーパス大人225名、高大生1名、大人団体67名、キャンパスメンバーズ67名）。無料合計16179名、64.7%（中学生以下8125名、高齢者1371名、その他個人3692名、団体2991名）。

●キッズパネル、キッズマップ：小さな子どもに展示の見どころを楽しく易く伝えるために、キッズパネルを設置、キッズマップ（A4両面刷り）を配布した。展示が大人向けの内容であったため、イラストを多用し、平易な表現を心掛けた。大人にとっても展示内容を理解する手助けとして機能していた。

●展示見学ワークシート：中学生・高校生に課題意識を持った展示見学をしてもらうために、展示見学ワークシート（A3両面刷り）を作成し、中学校、高等学校に配布した。大学の授業での見学にも利用された。また、小学生向けのワークシート（A3両面刷り）も作成して遠足下見で配布した。

●展示解説書：「氷河時代—気候変動と大阪の自然—」というタイトルで作成し、展示終了後も気候変動史の参考書として長く読んでもらえるものを目指した。展示の流れに沿った内容であるが、展示パネルより詳しい説明を心掛けた。（46ページ参照）

●連携展示：大阪市内の図書館7館および府立図書館においてミニ展示を行った。（32ページ参照）

長居植物園内の地図に大阪の地層から化石で見つかる植物を記入した印刷物を作成し、展示室内で配布した。長居植物園内の「歴史の森」などの看板にも、案内パネルを設置した。また、氷期・間氷期を示す樹木（ヒメバラモミ、イスノキなど）に解説板を取り付けた。

●関連普及行事

・子どもワークショップ

特別展会場内ワークショップスペースにおいて、小学生以下を主な対象として3種類のワークショップを実施した。

「ひょうがじだいマップ」実施日：7月23日、24日、30日、31日、8月13日、14日。6日実施、307名参加

「しましま地層・ぐるぐる年輪」実施日：8月6日、7日、

## 展 覧 事 業

27日、28日。4日実施、92名参加

「ひょうき・したじき・かんぴょうき」実施日：8月20日、21日、9月3日、4日。4日実施、96名参加

### ・特展普及講演会

「暴れる時代と暴れない時代：人類は気候の激変期をどのように生きたか」

実施日：7月16日（土）、講師：中川 毅 氏（立命館大学古気候学センター センター長）、125名参加

「森の古文書：花粉化石に記録された氷期からの森の移り変わり」

実施日：8月20日（土）、講師：高原 光 氏（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科教授）、92名参加

「第四紀後期の日本の哺乳類の移り変わりー過去5万年の変化とそれからわかることー」

実施日：9月24日（土）、講師：河村 善也 氏（愛知教育大学 特任教授）、100名参加

・ギャラリートーク 毎週土曜日に展示を担当した学芸員によるギャラリートークを実施した。8月11日にも「南極の氷」展示に伴い実施した。

実施日：7月16日、23日、30日、8月6日、11日、13日、20日、27日、9月3日、10日、17日、24日、10月1日、8日（土）、15日  
参加人数：390名

### ・その他関連行事

「マチカネワニ化石の実物を見に行こう」実施日：7月30日（土）、場所：大阪大学総合学術博物館、77名申込み、35当選、27名参加

「アビナン・ミュージアムの見学」実施日：8月19日（金）、場所：大阪市立あびこ南中学校、45名申込み、45名当選、31名参加

「化石で見つかる動物の仲間を動物園で見よう」実施日：9月3日（土）、場所：天王寺動物園、73名申込み、25名参加

「大阪層群の時代にあった植物」実施日：9月4日（日）  
場所：大阪市立大学理学部附属植物園、34名申込み、34名当選、27名参加

●友の会会員の協力によって作成された山岳氷河地形模型は、特別展終了後、常設展示第二展示室導入部に移設して展示している。



図8. 氷河地形模型（間氷期）。もう一つ対になる、同じ場所に山岳氷河の発達した氷期の模型がある。

### （2）特別展「生命大躍進ー脊椎動物のたどった道ー」

生命は40億年という膨大な年月をかけて現在の姿を獲得してきた。その過程には、生命に飛躍的な進化をもたらした“いくつかの重要な出来事”があったと考えられる。それはたとえば「眼の獲得」「海からの上陸」「胎盤の獲得」などである。これらの生命進化の歴史は化石によって裏付けられる。

この特別展では、進化の歴史を振り返ることができるタイムカプセルと言える化石標本をわかりやすく展示することで、主題の理解を促す工夫をした。また展示についても、カンブリア紀の「バージェス頁岩（けつがん）動物群」やシルル紀の海の支配者「ウミサソリ」、進化の謎を解明した胎盤を持つ最古の哺乳類「ジュラマイア」、奇跡的に95%の骨格が残る霊長類化石「イーダ」など国内外から集めた貴重な標本の展示に加え、精巧な復元模型、4K映像などを活用し、その“出来事”を進化の背景にあるDNAについても触れながら分かりやすく解説した。

なお本展は、平成27年7月の東京会場（国立科学博物館）をスタートして、名古屋、松山、大阪、岡山の5会場で開催された巡回展である。

●会 期：平成28年4月16日～6月19日 57日間

●会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

●主 催：大阪市立自然史博物館、NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿

●後 援：文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪スポーツみどり財団（長居植物園）、大阪府公衆浴場業生活衛生同業組合

●協 賛：日本写真印刷、みずほ銀行

●特別協力：国立科学博物館

●観覧料：大人1,300円、高校生・大学生800円（前売り割引、30人以上団体割引あり）。中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方は無料。

●入場者：108,089人。有料51,278人（47.4%）、無料入場者56,811人であった。1日の最多入場者は6月19日（日曜、最終日）の4,578人であった。

### ●関連行事

3月19日（土）NHK公開セミナー「生命大躍進」

参加者 206人

3月26日（土）、27日（日）

ダイメトロドンを作ろう！模型制作ワークショップ（グランフロント大阪5階）

参加者 120人

4月16日（土）生命大落語

参加者 183人

展覧会紹介：川端清司、桂 吉弥

落 語 会：桂 吉弥、桂 米輝

4月17日（日）記念講演会「ヒトに至る、進化のドラマ」

参加者 200人

講師：山田 格（国立科学博物館 展覧会総合監修）

4月23日（土）NHKネットクラブ内覧会『ナイトミュージアム！もっと知りたい！生命大躍進！！』

参加者 107人

ゲスト ココリコ田中直樹（生命大躍進大阪展広報大使）

解 説 川端清司（大阪市立自然史博物館 学芸課長）



- 5月8日(日) デイメトロドンを作ろう! 模型制作ワークショップ 参加者 67人
- 5月22日(日) 記念講演会「世界一古い動物はどれかーカンブリア大爆発以前の動物たちー」 参加者 205人  
講師: 大野照文(三重県立総合博物館 館長)
- 5月22日(日) さわって学ぼう! 三葉虫化石ワークショップ 参加者 37人  
講師: 大野照文(三重県立総合博物館 館長)

また、NHK公開講演会として、学芸員が特別展の内容や見どころを中心に解説する講演会を3会場で実施した。

- 4月28日(木) 午後2時~3時30分  
(高槻市立生涯学習センター) 参加者 210人  
講師 川端清司
- 5月18日(水) 午後2時~3時30分  
(芦屋市、芦屋ルナ・ホール) 参加者 354人  
講師 林 昭次
- 5月19日(木) 午後2時~3時30分  
(豊中市、千里公民館) 参加者 120人  
講師 川端清司



図9. 特別展「生命大躍進」会場風景。

### Ⅲ. テーマ展示及びミニ展示

2016年度は実施事業はまだ名称の統一がされていないため、特別陳列などの名称が残っている。観覧者数は常設展示としてカウントされている。

■ミニ展示「マツボックリ化石にミキマツ (*Pinus mikii*) と命名一名前が無くなった化石に新たな名前を与えるー」

期 間: 平成28年3月1日(火)~6月19日(日)

場 所: 本館第2展示室「地球と生命の歴史」

オオミツバマツ(三葉松の化石種)の化石を研究した結果、学名が変更されることになった。その変更の過程で、よく見つかる化石であるにもかかわらず名前を失ったものが発生し、その化石に対し、新たな名前として「ミキマツ」と命名した。研究の元になったオオミツバマツおよびミキマツの化石(当館所蔵標本)を展示した。

■特別陳列「三木博士が研究したメタセコイアの化石」

期 間: 平成28年10月29日(土)~11月20日(日)

場 所: 本館2階 イベントスペース

開催期間の常設展入館者数参加者: 23,525人

主 催: 公益財団法人大阪市博物館協会、公立大学法人大阪市立大学

1941年に三木博士により、メタセコイアが化石で発見されて75年、1946年に中国での生存が論文発表されて70年の記念行事の一環として行われた。メタセコイアの発見の元になった標本、中国でのメタセコイアの発見と日本での普及の歴史を展示した。

■日本甲虫学会・大阪大会開催記念展示「関西甲虫研究史」

期 間: 平成28年11月26日(土)~平成29年1月31日(火)

場 所: 本館2階 イベントスペース

主 催: 大阪市立自然史博物館、日本甲虫学会

開催期間の常設展入館者数: 15,344人

関西には古くから町人文化が根付いており、甲虫の研究は今も昔も、主にアマチュア研究者らによって進められてきました。その一つである日本甲虫学会が自然史博物館で大阪大会を開催するのを機に、関西における甲虫研究の歴史を振り返る展示を行った。

関連行事に関しては36ページ参照。



図10. 城北昆虫館移管標本。1935年採集のマイマイカブリ。

■ジュニア自由研究・標本ギャラリー

期 間: 平成28年12月3日(土)~平成29年1月29日(日)

場 所: 本館1階 ナウマンホール

開催期間の常設展入館者数: 13,459人

小中高生が日頃から採集している標本や夏休みの自由研

## 展 覧 事 業

究を展示した。生き物や化石・岩石がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による手書きの講評を付けた。Nature Study10月号で募集をし、12名と1団体の小中生の作品が集まった（複数作品を出した人あり）。展示した作品の分野は、昆虫・クモが5点、植物が1点、貝類が1点、爬虫類が1点、魚類が2点、プランクトンが1点、岩石が2点、甲殻類・海岸生物が2点であった。

### ■ミニ展示「酉年展」

期 間：平成29年1月5日（木）～1月31日（火）

場 所：本館1階入口横 展示スペース

2017年の干支、酉年にちなんで様々なニワトリの展示を行った。よく見る茶色いニワトリ「ボリス・ブラウン」に加えて、地肌が真っ黒な「ウコッケイ」、頭頂部に長い羽根を持つ「ポーリッシュ」、「名古屋コーチン」など、いろいろな品種のニワトリのはく製を展示した。

### ■テーマ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う！？～時を越えて発芽する植物標本のタネ～」

期 間：平成29年3月4日（土）～4月9日（日）

場 所：本館2階 イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館、新潟大学教育学部

博物館の標本庫には100年以上前のものから近年のものまで、絶滅が危惧されている植物を含む数多くの植物の標本が収められている。標本にはタネ（種子）が残されているものも数多くあり、その中には休眠状態で今も生きているタネがあることが調査の結果分かってきた。これらのタネを集めて蒔くことによって、ある地域で絶滅してしまった植物や、減少してしまった遺伝的多様性を回復させることができる可能性がある。

上記のような標本を用いた植物の保全に関する最新の研究成果を紹介した。残されたタネの生存が確認された、大阪府では絶滅したと考えられているカワツルモやヒメヒゴダイの標本など、研究の重要な資料を展示した。

この展示には、文部科学省科学研究助成金（課題番号23701024、26350387）の支援を受けて行った研究成果の一部を使用した。

（うち6月17日～8月17日は小規模展示）

### ・関連行事

講演会「おおさかにいたゾウのはなし」

期 日：6月11日（土）

会 場：大阪市立中央図書館

担 当：林 昭次学芸員

### ■「イチ押し！瀬戸内海の自然トピックス」

JSPS科研費、基盤研究A 課題番号JP24240113「自然史系博物館等の広域連携による『瀬戸内海の自然探究』事業の実践と連携効果の実証」の事業の一環として以下の展示を行った。詳細は巻頭言参照。

#### ●倉敷市玉島市民交流センター（岡山県倉敷市）

共 催：倉敷市立自然史博物館・倉敷市立自然史博物館友の会

期 間：平成28年8月9日（火）～16日（火）

来場者数：3,189人

#### ●きしわだ自然資料館（大阪府岸和田市）

共 催：きしわだ自然資料館

会 期：平成28年11月3日（木・祝）～11月29日（火）

来場者数：1,300人

#### ●下関市立しものせき水族館「海響館」（山口県下関市）

共 催：下関市立しものせき水族館「海響館」

会 期：平成28年12月10日（土）～平成29年1月9日（月・祝）

来場者数：46,566人

#### ●瀬戸内海歴史民俗資料館（香川県高松市）

共 催：香川県立ミュージアム

会 期：平成29年1月14日（土）～2月5日（日）

来場者数：545人

#### ●大分マリンパレス水族館「うみたまご」（大分県大分市）

共 催：大分マリンパレス水族館「うみたまご」

会 期：平成29年2月17日（金）～3月20日（月・祝）

来場者数：56,575人

## Ⅳ. 館外での展示

### ■大阪府立中央図書館・大阪市立図書館での展示

特別展「氷河時代 -化石でたどる日本の気候変動-」の広報および連携事業の一環として、大阪府立中央図書館および大阪市立図書館において、「出張！自然史博物館 氷河時代展」を開催した。会場・日程は以下である。

大阪府立中央図書館 4月19日～5月9日

大阪市立住之江図書館 5月1日～5月31日

大阪市立生野図書館 6月1日～6月30日

大阪市立旭図書館 7月1日～7月20日

大阪市立東住吉図書館 7月22日～8月17日

大阪市立都島図書館 8月19日～9月14日

大阪市立北図書館 9月16日～10月19日

大阪市立中央図書館 6月3日～8月17日

## I. 各種普及教育活動

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることも重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招いている（\*\*印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ち、よりきめ細かい普及教育活動を行うために、普及行事にボランティアによる補助スタッフを導入している（\*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前学習や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴であり、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。特に2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪市自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

近年、自然観察や、標本作りをする人が減少していると言われている。若い世代の標本作りや自然観察への支援を強化するために、昆虫標本の作り方の行事を行っているほか、小中高校生による夏休み自由研究や標本を展示する「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」も引き続き行っている。今後も、若い世代の自然観察や標本作りを支援する普及行事や展示に力を入れて継続する予定である。

これら普及教育事業の開催は186回、参加者総数は30,335人（昨年度は26,537人）であった。以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか省略した。行事の詳細は展覧事業29ページからの各特別展関連事業の項を参照のこと。

### ■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然の面白さを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めている。

行事によっては外部講師の助けを借り、参加者定員を確保するよう努めている。また補助スタッフの導入により、安全性と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*** 高槻市		
4月24日	申込272名（当選272名）	参加181名
「海べのしぜん」*** 岬町長崎海岸		
5月22日	申込268名（当選268名）	参加187名
「はじめてのキノコ」*** 東大阪市枚岡公園		
7月3日	申込330名（当選182名）	参加106名

「ツバメのねぐら」* 奈良市		
7月30日	申込263名（当選263名）	参加157名
「バッタのオリンピック」*** 藤井寺市石川		
10月10日	申込173名（当選173名）	参加124名
「ドングリと秋の木の実」* 東大阪市枚岡公園		
11月6日	申込174名（当選174名）	参加110名
「化石さがし」泉佐野市		
12月11日	申込209名（当選147名）	参加115名
◆テーマ 7回実施	延べ参加者数980名	

### ■地域自然誌シリーズ

大阪周辺の地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。

「汐ノ宮」富田林市		
9月25日	申込101名（当選101名）	参加68名
◆テーマ 1回実施	延べ参加者数101名	

### ■プロジェクトA観察会

外来生物の市民調査企画「プロジェクトA」を行っており、その一環として観察会を開催している。この観察会は調査参加の呼びかけ・研修も兼ねている。

「埋立地の外来生物」大阪市		
5月14日	申込52名（当選52名）	参加28名
「水田の外来生物」高槻市		
6月26日	申込84名（当選45名）	参加28名
「埋立地の外来生物」大阪市		
10月23日	申込み61名（当選30名）	参加25名
◆テーマ 3回実施	延べ参加者数81名	

### ■テーマ別自然観察会

自然の中の諸現象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。他の博物館施設や図書館、研究団体との共催が増えている。

「氷期の昆虫と植物」彦根市		
4月23日	申込41名（当選41名）	参加24名
「はじめてのバードウォッチング 春の渡り鳥を見つけよう」長居植物園		
4月24日	申込70名（当選65名）	参加57名
(大阪府立中央図書館と共催)		
「はじめての鳥のさえずり」* 箕面市		
5月15日	申込46名（当選46名）	参加31名
「オトシブミ」* 高槻市		
5月22日	申込59名（当選30名）	参加20名
(あくあびあ芥川と共催)		
「岸和田市南部の地質」** 岸和田市		
5月29日	申込66名（当選45名）	参加34名
(きしわだ自然資料館、地学団体研究会大阪支部、日本地質学会近畿支部と共催)		
「高槻のカエル探し」*** 高槻市		
6月19日	申込131名（当選79名）	雨天中止

## 普及教育事業

(あくあびあ芥川と共催)

「アカハネオンブバッタ」\*\* 大阪市  
10月2日 申込21名(当選21名) 参加12名

「秋の社寺林のキノコ」\* 島本町  
10月2日 申込35名(当選35名) 参加26名

(あくあびあ芥川と共催)

「海岸の地形と堆積物」 和歌山市  
10月30日 申込42名(当選35名) 参加31名

「サルの行動観察」\*\* 京都市  
12月4日 申込66名(当選35名) 雨天中止

「恐竜化石産地の地層と化石を調べよう」\*\* 篠山市  
2月4日 申込76名(当選30名) 参加22名

◆テーマ 9回実施 延べ参加者数257名

### ■野外・室内実習

野外実習については、野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかなどを詳細に分析しながら、自然に対する理解をより深める行事。室内実習については、生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」  
4月2日 申込18名(当選18名) 参加14名

「顕微鏡で孢子や花粉、植物細胞を見てみよう」\*  
4月17日 申込35名(当選35名) 参加18名

「鳥の仮剥製づくり」\*\*\*  
7月10日 申込15名(当選15名) 参加12名

「昆虫標本の作り方」\*  
8月6日、7日 申込64名(当選64名) 参加59名  
(計4回分の合計)

「ホネの標本の作り方(子ども向け)」\*  
8月14日 申込41名(当選30名) 参加26名

「火山灰」  
10月1日 申込17名(当選17名) 参加13名

「ホネの標本の作り方(大人向け)」\*\*\*  
10月16日 申込18名(当選18名) 参加17名

「樹脂包埋標本の作製1」  
10月23日 申込17名(当選17名) 参加15名

「平野の地下の地層の調べ方」  
11月6日 申込12名(当選12名) 参加11名

「樹脂包埋標本の作製2」  
12月4日 申込17名(当選17名) 参加10名

「裸子植物」\*  
1月15日 申込22名(当選22名) 参加19名

「解剖で学ぶイカの体のつくり」\*  
2月19日 申込33名(当選15名) 参加13名

「魚のからだ」  
2月26日 申込16名(当選16名) 参加12名

◆テーマ 12回実施 延べ参加者数226名

### ■長居植物園案内

第4土曜日に長居植物園で行う植物研究室の学芸員の案内

による観察会。近年は参加者が多いため、補助スタッフによる観察の手引きが不可欠である。また、補助スタッフが自主的に学芸員による解説の記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。6、12、2月には、他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の植物園案内を行った。

4月23日\* 参加88名

5月28日\* 参加64名

6月25日「昆虫と植物」\* 参加61名

7月23日\* 参加66名

8月27日\* 参加60名

9月24日\* 参加93名

10月22日\* 参加55名

11月26日\* 参加64名

12月24日「球果スペシャル」\* 参加85名

1月28日\* 参加84名

2月25日「木の実と鳥」\* 参加91名

3月25日\* 参加83名

12回実施 延べ参加者数894名

### ■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。原則として毎月第1土曜日に開催している。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥の見つけ方」\*  
4月23日 参加60名

「鳥の繁殖をみつけよう」\*  
5月7日 参加56名

「バタフライガーデン」  
6月4日 参加50名

「大池の生き物」  
7月2日 参加37名

「はじめての鳥の羽根ひろい」\*  
9月3日 参加43名

「渡りの途中の小鳥さがし」\*  
10月1日 参加44名

「ダンゴムシ・ワラジムシ」\*  
11月5日 24名

「冬越しの虫さがし」  
12月3日 参加38名

「みじかな冬鳥を見つけよう」\*  
1月7日 参加49名

「冬の羽根ひろい」\*  
2月4日 参加43名

「花と鳥」\*  
3月4日 参加55名

11回実施 延べ参加者数499名

### ■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。原則として、毎月第三土曜日の午後1時～2

時30分に、当館集会室で開催。6月から10月は、特別展に関連するテーマで4回実施した。

「プロジェクトA中間報告」

5月21日 参加30名

「全地球史を通しての気候変動」

6月18日 参加53名

「暴れる時代と暴れない時代：人類は気候の激変期をどのように生きたか」\*\*

7月16日 参加125名

「森の古文書：花粉化石に記録された氷期からの森の移り変わり」\*\*

8月20日 参加92名

「第四紀後期の日本の哺乳類の移り変わり - 過去5万年の変化とそれからわかること -」\*\*

9月24日 参加100名

「新生代第四紀の気候変動と大阪の地層」

10月15日 参加52名

「三木茂博士によるメタセコイア化石の発見」

11月5日 参加87名

「ハナシノブ調査紀行」

12月17日 参加42名

「菌類講座2017 ナショナルとローカル：菌類ハーバリウム体系の理想を考え、現状を語る」\*\*

1月21日 参加60名

「魚類分類学 今・昔」

2月18日 参加47名

「アサギマダラ・セアカゴケグモの最新情報など」

3月18日 58名

11回実施 延べ参加者数746名

### ■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。9、10月については特別展「氷河時代」会場のネイチャーホールで実施した。普及行事のなかでは、初・中級向け。原則として第2土曜日の午後に行っている。

「氷期・間氷期の動物達」\*

4月9日 参加62名

「ミクロの化石」\*

5月14日 参加40名

「石ころ調べ」\*

6月11日 参加46名

「海の砂を見てみよう」\*

7月9日 参加39名

「縄文時代の巨大噴火の火山灰を探そう」\*

8月13日 参加28名

「270万年前のメタセコイア」\*

9月10日 参加38名

「昆虫化石からたどる気候と環境」\*

10月8日 参加27名

「メタセコイアの化石」\*

11月12日 参加20名

「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」\*

12月10日 参加19名

「はぎ取り標本から地層の観察」\*

1月14日 参加12名

「ステゴサウルス」\*

3月11日 参加79名

11回実施 延べ参加者数410名

### ■標本の名前を調べよう&達人による標本トーク\*\*

夏休みに採集して作成した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。生き物や化石・岩石の名前を調べることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探究心を育てることをねらいとしている。児童・生徒を想定しているが、大人の持ち込みも歓迎している。講師は学芸員だけでなく、館外から多数の専門家も招き、8月下旬に実施している。講師が自身の専門とする分野の標本作りや標本から分かることについて話をしてもらう「達人による標本トーク」を、当日ミュージアムサービスセンターで行った。

日 時：8月21日（日）

場 所：自然史博物館 集会室、実習室、会議室、ミュージアムサービスセンター

件 数：92件 参加者数：75名

### ■自然史博物館・大阪自然史センター活動報告会

博物館からは現在の運営状況などを報告した

日 時：4月29日

参 加：80名

### ■講演会・シンポジウム・実習（学会等と共催）

学会や図書館などと共催した講演会やシンポジウムなどを開催し、多数の市民や学生に聴講いただき、好評を得た。特別展普及講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

地球科学講演会「カンブリア大爆発のあとさき」

5月8日 参加170名

「生きている化石「メタセコイア」 - 化石発見75周年・生存発見70周年記念 記念講演会」

10月22日 参加119名

（主催：公益財団法人大阪市博物館協会・公立大学法人大阪市立大学）

「メタセコイア化石発見75年 現地化石見学会」

11月13日 申込36名（当選36名） 参加30名

「大阪市立大学植物園観察会」

11月27日 申込85名（当選85名） 参加44名

「著者によるブックトーク「びっくり！おどろき！動物まるごと大図鑑シリーズ」

12月10日 参加48名

「公開シンポジウム「生物学における動画・音声データのアーカイブ - その意義と課題」

3月5日 参加50名

関西自然保護機構「地域自然史と保全研究発表会」・シンポ

## 普及教育事業

ジウム「都市が里山に関わるということ - 森里川海と都市住民 -」

3月5日 参加140名

●関西甲虫研究史展に関連して以下のイベントを開催した。

「公開講演会「関西甲虫研究史」  
11月26日 参加149名

「甲虫限定 一般公開標本同定会」  
11月27日 参加113名

ギャラリートーク「関西甲虫研究史」展  
12月17日 参加20名

ギャラリートーク「関西甲虫研究史」展  
12月24日 参加23名

### ■大阪自然史フェスティバル2016

大阪市立自然史博物館、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、関西自然保護機構の3団体の主催で、2016年11月19～20日に開催された。

今回は、出展内容を自然史関連に制限しつつも、有料の販売ブースや協賛ブースを設定した。その他、フェスティバル開催のための寄付を募った結果、44名の方からの寄付を頂いた。

●出展者110、出展ブース110（団体一般ブース78、団体販売ブース13、企業協賛ブース9、個人販売ブース10）

●来場者数 合計19,100名

11月19日（土）：7,500名

11月20日（日）：11,600名

### ※主な関連イベントと参加者数

●シンポジウム「クモの世界の楽しみ」

日 時：11月20日（日） 13：00～15：30

主 催：一般財団法人環境事業協会

・「クモ：身近な隣人の知られざる生態」馬場友希氏（国立研究開発法人農研機構）

・「あなたもハエトリグモを探したくなる！」須黒達巳氏（慶應義塾幼稚舎）

・「クモをとりまく昆虫たち」松本吏樹郎（大阪市立自然史博物館）

参加者数：232名

●講演会「子を他人に預ける鳥、カッコウ類研究の最前線」

日 時：11月19日（土） 13：00～15：00

主 催：日本野鳥の会大阪支部

講 師：上田恵介氏（立教大学名誉教授）

参加者数：221名

●トークショー「野鳥の鳴き声の魅力と聞き分け方」

日 時：11月20日（日） 10：30～12：00

主 催：公益財団法人日本野鳥の会

講 師：松田道生氏（野鳥録音家）

参加者数：281名

●「谷口高司のタマゴ式鳥絵塾」

日 時：11月19日（土）

10：30～11：30、14：30～15：30

11月20日（日）

13：00～14：00、14：30～15：30

主 催：谷口高司鳥絵工房

講 師：谷口高司氏

参加者数：4回実施、のべ62名

●「叶内拓哉とバードウォッチング」

日 時：11月19日（土） 10：30～11：30

主 催：興和光学株式会社

講 師：叶内拓哉氏

参加者数：56名

●「叶内拓哉 野鳥の話 アレコレ」

日 時：11月19日（土） 12：30～14：00

主 催：興和光学株式会社

講 師：叶内拓哉氏

参加者数：44名

●「はじめての鳥みたい（隊）！」

日 時：11月20日（日）

10：30～12：00、13：30～15：00

主 催：日本野鳥の会大阪支部

参加者数：2回実施、のべ147名

●「ビオトープの生きものを探そう」

日 時：11月19日（土）

11：00～12：00、14：00～15：00

主 催：大阪市立自然誌博物館友の会

参加者数：2回実施、のべ73名

●「植物園の小さな秋を見つけよう」

日 時：11月19日（土）

11：00～12：00、14：00～15：00

主 催：大阪市立自然誌博物館友の会

参加者数：2回実施、のべ117名

### ■ホネホネサミット2017

大阪市立自然史博物館、ホネホネサミットの2団体の主催で、2017年2月11～12日に開催された。

なおこのイベントは、JSPS科研費（JP26350265）の成果発表と同時に調査活動の一環でもある。

●出展者55団体・個人（ブース発表49、ポスター発表6）

●来場者数 合計3,850名

2月11日（土・祝）：2,100名

2月12日（日）：1,750名

### ※主な関連イベントと参加者数

●招待講演会「海のホネ拾い」

日 時：2月11日（土・祝） 13：30～15：00

講 師：盛口 満氏（沖縄大学人文学部）

参加者数：332名

●ホネホネ☆発表会

日 時：2月12日（日） 13：00～14：30

・「今日からできる！かんたんプラスチック」安江泰治氏（樹脂会）

・「キレイな標本ができるまで - 失敗談30年分 -」平田泰紀氏（高石高校）

・「骨にするまで分からない」池田鈴菜氏

・「100年前の哺乳類標本～ラベルでホネホネ☆タイムトラベル～」下稲葉さやか氏（千葉県立中央博物館）

・「日本の博物館に眠る鳥の死体の未来：市民参加による博物館の標本作製を考える」和田 岳（大阪市立自然史博物館）

参加者数：140名

#### ●海洋堂フィギュア塗装ワークショップ

日 時：2月11日（土・祝） 10：30～14：30

2月12日（日） 10：30～12：30

主 催：海洋堂ホネ同盟

参加者数：のべ26名

#### ●バーチャル恐竜博物館

日 時：2月11日（土・祝） 11：00～16：30

2月12日（日） 11：00～16：30

主 催：Skeleton Crew Studio

参加者数：のべ115名

#### ■はくぶつかん・たんけん隊\*

実験室や収蔵庫などのバックヤードを中心とする館内見学行事。普段は見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味をそだてることをねらいとしている。2008年度からタイトルを変更し、対象を小学生から小中学生に広げた。参加者とは別枠で、参加者の家族（保護者や未就学児）を対象に、ガイダンスとバックヤードショートツアーを行った。

1月8日（日）・9日（月祝） 申込 94名 参加82名

#### ■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒に行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

#### ●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

#### ●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2017年3月31日現在の部員数は85名。

#### ●2016年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング」

4月1日 47名

「昆虫採集」

5月1日 26名

「藻川で川遊び」

6月5日 雨天中止

「磯観察」

7月18日 19名

「ミーティング 標本作り」

8月2日 17名

「キノコ狩り」

9月4日 13名

「昆虫館と羽根拾い」

10月30日 17名

「河原の石拾い」

11月6日 11名

「ミーティング・フェスティバルの準備」

11月13日 11名

「化石採集」

12月18日 18名

「河原で焼き芋」

1月5日 19名

「雪の冬鳥観察」

2月5日 雨天中止

「鉱物採集」

3月29日 18名

企画13回、実施11回、延べ参加者数216名

#### ■ビオトープ

バックヤードを利用してビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか継続的に調査している。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすのが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第3土曜日に実施した。

4月16日 参加75名

5月16日 参加123名

6月18日 参加51名

7月16日 参加36名

8月20日 参加36名

9月17日 参加39名

10月15日 参加46名

11月19日 参加73名

（大阪自然史フェスティバル友の会行事として実施、計2回）

12月17日 参加12名

2月18日 参加18名

10回実施 延べ参加者数509名

#### ■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。

2007年から、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名程度募集し研修を実施した上で、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員

## 普及教育事業

ワークショップスタッフと一緒にオリジナルプログラムを企画し、3月の「はくぶつかん 子どもまつり」で実施・運営してもらった。特別展関連行事として行ったワークショップについての詳細は、展覧事業29ページからの各特別展の関連行事を参照のこと。

「化石クリーニング」

4月16日・17日、12月3日・4日 参加183名

「クジラスタンプラリー」

5月3日・4日、6月11日・12日 参加1501名

「みつけ！ いろいろアンモナイト」

7月2日・3日、9月24日・25日 参加284名

「ふしぎキノコ」

10月22日・23日、11月12日・13日 参加195名

「りゅうぐうのつかい」

1月14日・15日、3月11日・12日 参加95名

「はくぶつかん こどもまつり」

3月25日・26日 参加179名

36日実施、延べ参加者数2932名（特別展関連含む）

## Ⅱ. 学校教育との連携

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

### 1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

### 2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

#### <児童・生徒向け事業>

##### ・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年各1種類、中学校2種類の合計4種類がある。

特別展「生命大躍進」「氷河時代」では、小学生向け及び中学生・高校生向けのワークシートを作成した。小学生向けは春と秋の遠足時の見学用に、中学生・高校生向けは春夏の課題として学校に案内した。

##### ・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行っている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、2016年度から先生に授業計画申込書を提出してもらうことにして、これを基に先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施することにした。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている（長居植物園は除く）。

2016年度は保育所・幼稚園 1件、小学校 10件、中学校 3件、高校 3件、大学 4件、専門学校 1件合計22件の授業を行った。

2016年度の授業例：「虫の体と生活」、「ドングリ・秋の植物」、「肉食動物と草食動物のホネの違い」、「ナガスケ（クジラはどんな生き物なのか?）」、「学芸員・博物館の仕事」など。

##### ・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2016年度は、大阪府内の中学校10件、大学1件（計15人）を受け入れた。

#### <先生向け事業>

##### ・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

春の下見集中時に合わせ、より深く博物館を利用していただけよう、「ミニ教員のための博物館の日」を4月8日に開催した。下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

##### ・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2016年度は、博物館の出版物等書籍19件、ビデオ・CD-ROM・DVD23件、紙芝居22件、標本キット59件の貸し出しを行った。



## 貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：ようこそ自然史博物館へ、大和川と生きものたちなど。

標本キット：国語で使える貸出キット「タンポポ」「虫の体」、川原の石ころ、ボーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

### ・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方を対象に研修を行っている。2016年度は4回開催した。これら以外に、各地の理科教育研究会等からの依頼教員研修を7件行った。

### ・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。123名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を3回発行した。

### <その他>

#### ・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月3日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市の研修の一つとして位置づけ、また、他館（あくあびあ芥川、大阪くらしの今昔、大阪市立科学館など）からもブース出展してもらい、121名の参加があった。

プログラム 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1：長居植物園で学ぶ学校の樹木、学芸員と一緒に歩く解説ツアー2：特別展「氷河時代」で学ぶ生き物と日本の気候変動、大阪歴史博物館の学芸員と一緒に歩く特別解説ツアー：海・川でとれた魚介類の流通と食、大阪市立科学館の学芸員による特別プログラム：偏光～見える見えないのふしぎ～、体験型プログラム1：学校の地下の地層～ボーリング標本の見方・楽しみ方、体験型プログラム2：水槽で見る流れる水の働きと地層のでき方、体験型プログラム3：レプリカってなあに？ など。

※教員のための博物館の日は平成28年度笹川科学研究助成をうけて実施し、参加者に向けての事後アンケートや、フォローアップ研修なども実施した。



図11. 体験型プログラム「学校の地下の地層～ボーリング標本の見方・楽しみ方」。

### ・大阪府内の高校との連携

大阪府高等学校生物教育研究会および地学教育研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2016年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。また、大阪府高等学校生物教育研究会の会員研究発表会を行った。（53ページ参照）

### ・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科・国語・家庭科・保健、中学校の社会科（地理・歴史）・理科・国語・家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

### ・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。「教科から見た展示」では、展示や貸出キット、ワークシートがどの単元に対応しているのを見られるようにしている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

### ・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本館1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・今年度はJSPS科研費（課題番号 16K01055）を受け、ボーリング標本を貸し出し教材として運用し、指導案の作成、教材の改良を行った。また、JSPS科研費（課題番号16K01208）の助成を受け、幼稚園・保育所の利用状況を調査するなど、幼稚園・保育所の子どもと教員向けのサポートの充実に向け、基礎調査を行った。

### Ⅲ. ボランティア事業

当館のボランティア事業は、自然史科学の普及や研究に積極的に参加するアマチュア養成の場として、普及事業に位置づけて行われている。各種普及行事において学芸員や講師の補助を行う補助スタッフ制度、大学生が学びながら子どもワークショップのサポートを行うサポートスタッフ制度が、当館の主なボランティア事業である。これに加え、アマチュア研究者に標本整理にもご協力いただいている。

#### 1. 補助スタッフ制度

1995年より、各種普及行事を学芸員や講師と協力して運営する補助スタッフを、当館の良き理解者である友の会会員から募集している。補助スタッフを対象に、行事实施に必要な知識や技術を身に付けるために、行事の内容に応じて学芸員による事前研修や勉強会、打合せ、事後研修を実施している。補助スタッフは、このような研修の場で自らの興味・関心に応じて学習を深め、その成果を普及行事の運営を通して社会に還元する意欲のある方々であり、当館の普及事業を支える重要な存在である。補助スタッフの協力を得て行われた行事は以下の通りであり（括弧内は行事当日とは別の日程で行われた事前研修の日付と人数）、補助スタッフとして活躍いただいた方は、延べ316名であった。

#### ■やさしい自然かんさつ会

「レンゲ畑のいきもの」 4月24日 8名

(4月13日 5名)

「海べのしぜん」 5月22日 15名

(5月21日 9名)

「はじめてのキノコ」 7月3日 4名

(7月1日 2名)

「ツバメのねぐら」 7月30日 5名

(7月24日 5名)

「バッタのオリンピック」 10月10日 8名

「ドングリと秋の木の实」 11月6日 7名

(10月19日 3名)

#### ■テーマ別自然観察会

「はじめての鳥のさえずり」 5月15日 1名

(5月8日 1名)

「オトシブミ」 5月22日 5名

(5月14日 4名)

「秋の社寺林のキノコ」 10月2日 3名

#### ■室内実習

「顕微鏡で胞子や花粉、植物細胞を見てみよう」

4月17日 5名

「鳥の仮剥製づくり」 7月10日 2名

「昆虫標本の作り方」 8月6日 6名、

8月7日 5名

「ホネの標本の作り方 (子ども向け)」

8月14日 6名

「ホネの標本の作り方 (大人向け)」

10月16日 1名

「裸子植物」 1月15日 3名

「解剖で学ぶイカの体のつくり」 2月19日 2名

(2月18日 2名)

#### ■植物園案内

4月23日 12名

5月28日 12名

6月25日 10名

7月23日 7名

8月27日 7名

9月24日 7名

10月22日 8名

11月26日 6名

12月24日 9名

1月28日 7名

2月25日 5名

3月25日 9名

#### ■植物園案内動物・昆虫編

「春の渡り鳥の見つけ方」 4月23日 2名

(4月16日 2名)

「鳥の繁殖をみつけよう」 5月7日 3名

(4月30日 3名)

「はじめての鳥の羽根ひろい」 9月3日 3名

(8月27日 3名)

「渡りの途中の小鳥さがし」 10月1日 3名

(9月22日 3名)

「ダンゴムシ・ワラジムシ」 11月5日 1名

「みぢかな冬鳥を見つめよう」 1月7日 2名

(12月24日 2名)

「冬の羽根ひろい」 2月4日 2名

(1月21日 2名)

「花と鳥」 3月4日 3名

(2月18日 3名)

#### ■ジオラボ

「氷期・間氷期の動物達」 4月9日 8名

「ミクロの化石」 5月14日 9名

「石ころ調べ」 6月11日 10名

「海の砂を見てみよう」 7月9日 10名

「縄文時代の巨大噴火の火山灰を探そう」

8月13日 7名

「270万年前のメタセコイア」 9月10日 8名

「昆虫化石からたどる気候と環境」 10月8日 8名

「メタセコイアの化石」 11月12日 7名

「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」

12月10日 8名

「はぎ取り標本から地層の観察」 1月14日 5名

「ステゴサウルス」 3月11日 8名

■はくぶつかん・たんけん隊 1月8日 6名、

1月9日 5名

(1月7日 6名)

#### ■ジュニア自然史クラブ

「ミーティング」 4月1日 2名

「昆虫採集」 5月1日 4名

「磯観察」 7月18日 1名  
 「ミーティング 標本作り」 8月2日 2名  
 「キノコ狩り」 9月4日 1名  
 「河原の石拾い」 11月6日 2名  
 「ミーティング・フェスティバルの準備」  
 11月13日 2名  
 「化石採集」 12月18日 1名  
 「河原で焼き芋」 1月5日 1名  
 「鉱物採集」 3月29日 2名

## 2. 子どもワークショップ サポートスタッフ

博物館で開催している「子どもワークショップ」の運営補佐をする学生ボランティア「子どもワークショップ・サポートスタッフ」を、年間登録制で募集している。対象は18歳以上の学生で、登録期間は4月～翌3月である。4月の初回研修を経て、12月までは各月のワークショップに補佐役として参加してもらう。その後、12月頃からサポートスタッフがチームを組んでプログラムを企画し、3月に開催するワークショップ「はくぶつかん こどもまつり」でそのプログラムを実施・運営し、1年間を締めくくるという流れで行っている。本事業は2007年度から継続して行っている。

2016年度の登録者数は18名（当年度の新規登録11名、前年度からの継続登録7名）であった。

## 3. 標本整理

当館の標本の多くはアマチュアを含めた多くの外部研究者の努力により収集されたものである。寄贈後も、こうした方々の標本利用・整理作業への協力が続けられ、質的な向上が図られている。これは、一般に言う「ボランティア活動」とは異なったものであるが、博物館活動へのボランティア協力でありより原初的なボランティア活動といえる。当館がこうした協力により支えられていることを示すため、この項目に感謝して示す。どの分野にも多くの協力者がいるが、特に現在、昆虫（甲虫および双翅目）・植物で定期的な活動がおこなわれている。昆虫（甲虫および双翅目）では今年度も継続的にのべ月に20人近い専門家がボランティアとして標本の整理・検討を行っており、その成果が当館の収蔵資料目録としてまとめられている。

植物標本の整理作業、マウント作業については、近畿植物同好会の方々に全面的にご協力いただいた。本年度は毎月1～2回の作業日を設け、主にシダ植物の標本整理を実施した。

## IV. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、2016年度は以下の23大学、39名の学生を受け入れた。

### 一般実習コース

夏 期：8月17日～21日 18名

奥野絵梨（甲南女子大学）、長田慧子・秋田耕佑（八洲学園大学）、岩本遼太（高知大学）、米田 武（広島大学）、寫田知帆（京都府立大学）、桑畑由衣（東京農業大学）、徳永里

花（追手門学院大学）、小林 誠（近畿大学）、中川もえ（近畿大学）、武藤岳人（北海道大学）、藤村由美子（法政大学）、金 陽姫（尾道市立大学）、川上 由（京都美術工芸大学）、西平幸生（滋賀県立大学）、寺田夏蓮（神戸大学）、山口祐未子（大阪大学）、小林由希（京都学園大学）

秋 期：10月5日～9日 18名

後藤 理・齋藤彩香（三重大学）、大喜のぞみ（名城大学）、山田晃平（京都橋大学）、中山 桂（鳥取大学）、金森あやめ（同志社女子大学）、矢野和佳・吉川琴子（高知大学）、石井友一朗・本間 徹（神戸大学）、北沢宗大・益田拓実（北海道大学）、山本麻由佳・市川義崇・吉田 瑛・服部圭二・譽田実希子（滋賀県立大学）、関本紫帆（龍谷大学）

### 普及教育専攻コース

冬 期：1月7日～9日、1月21日～22日 3名

伊藤知慧（北海道大学）、小田 奏・寺田みなみ（龍谷大学）

## V. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

2016年度には、博物館主催行事とは別に行事を39回実施し、延べ2535名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

### ■庶務報告

1. 2016年度の友の会会員数は、1,720名（一年会員1,375名、4月会員109名、半年会員128名、10月会員28名、賛助会員80名）であった。

※2016年度賛助会員（順不同、敬称略）

西尾秀雄、白川勝正、藤田美美、井上竜馬、松下宏幸、渡邊淳一、岡 美保、松浦宜弘、米澤里美、高田みちよ、佐竹敦司、中村 肇、豊島邦光、石田美禰子、石井久夫、西山まゆみ、猪野 守、井上洋子、茶岡雅子、乾 俊弥、宮城達雄、上北郁男、奥野アオイ、吉田晴彦、小山 栄、八木建之、麻野 浩、鍋島靖信、山西良平、大宮文彦、小郷一三、宮崎正章、野村典子、池上研二、高橋弘志、吉田芳子、中尾はな、丹波三千代、瀧川久子、乾 公正、柴田可奈子、寺田雅章、内貴章世、和田 岳、河越恵美、佐々木万里子、大塚ちか子、大岩 誠、向井 均、五月女草子、益田晴恵、西村静代、宮武頼夫、釋 知恵子、蒲田拓二、土屋慶丞、天野雅雄、丸山健一郎、高橋明子、一政幸里、呉 華璋、中井紗織、渡邊岳志、浦野動物病院、田村美美子、山下良寛、西川喜朗、佐藤興治、田代 貢、中井悦子、瀧端真理子、山崎敏雄、他匿名8名

2. 5回の定例評議員会を開催し、友の会事業や庶務について審議した。

## 普及教育事業

3. 事業ワーキンググループで9回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは、評議員からだけでなく一般会員からも募っている。

### ■事業報告

1. 印刷物の刊行：Nature Study誌62巻1号（通巻740号）～12号（通巻751号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
2. 行事を44回計画し、うち39回を実施した（実施しなかった5回は、雨天中止）。これらの行事には延べ2594名の参加があった。
  - (1) 友の会総会2016  
1月31日（日） 278名参加
  - (2) 月例ハイキング（11回計画、9回実施、791名参加）  
1月17日（日）冬の公園の鳥と虫 131名  
2月21日（日）石川の川原でサヌカイトを探そう 90名  
3月20日（日）三石山 63名  
4月17日（日）春の公園の花、鳥、虫 雨天中止  
5月15日（日）枚岡公園でイモムシ 58名  
6月19日（日）俎石山 雨天中止  
7月17日（日）夕方の奈良公園で仔ジカ観察 147名  
8月28日（日）金剛山でブナ林・アサギマダラ 66名  
9月24日（土）ウミホテルを見よう 108名  
11月13日（日）クズを楽しもう 52名  
12月18日（日）磯ノ浦でビーチコーミング 76名
  - (3) 友の会秋祭り 海藻を楽しもう  
10月11日（日） 107名参加
  - (4) 友の会限定！博物館裏側まるごとツアー  
2月11日（木祝） 63名  
2月14日（日） 43名
  - (5) 友の会の夕べ  
7月16日（土） 72名
  - (6) 友の会合宿  
7月2～3日（土・日）奥猪名 41名  
8月5～7日（金－日）南三陸 45名  
9月17～19日（土－月祝）別府湾 44名
  - (7) ビオトープの日（12回計画11回実施、546名参加）  
1月23日（土） 23名  
2月20日（土） 雨天中止  
3月19日（土） 15名  
4月16日（土） 75名  
5月21日（土） 123名  
6月18日（土） 51名  
7月16日（土） 36名  
8月20日（土） 36名  
9月17日（土） 39名  
10月15日（土） 46名  
11月19日（土） 73名

- |                              |      |
|------------------------------|------|
| 12月17日（土）                    | 29名  |
| (8) 鳥類フィールドセミナー（9回実施、268名参加） |      |
| 1月30日（土）                     | 19名  |
| 2月27日（土）                     | 30名  |
| 4月16日（土）                     | 51名  |
| 4月30日（土）                     | 46名  |
| 5月8日（日）                      | 19名  |
| 7月24日（日）                     | 25名  |
| 8月27日（土）                     | 21名  |
| 9月22日（木祝）                    | 28名  |
| 12月24日（土）                    | 29名  |
| (9) 春の磯で海藻を食べよう              |      |
| 3月21日（月祝）                    | 150名 |
| (10) 友の会観察会                  |      |
| 6月28日（日）霊仙山                  | 雨天中止 |
| (11) シカがいるかもナイトハイク           |      |
| 6月11日（土）～12日（日）              | 51名  |
| (12) 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム   |      |
| 7月23日（土）～24日（日）              | 95名  |
3. 大阪自然史フェスティバル2016（11月19日～20日）に出展し、評議員による観察会「ビオトープの生きもの探そう」「植物園の小さな秋を見つけよう」、バッジ作り、友の会の紹介、合宿や秋祭りのポスター展示、入会の案内を行った。
4. 友の会行事の「補助スタッフ」を会員から募り、指導や引率の補助をお願いした。

### ■2016年度役員

- 会長：鍋島靖信  
 副会長：田代 貢、谷田一三  
 評議員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、西川喜朗、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森 康貴、山崎俊哉、吉田晴彦、米澤里美  
 会計監査：加納康嗣、左木山祝一

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。平成28年度の取り組みとしては、外国人旅行者・外国人居住者向けの環境整備として、案内パンフレットとホームページの多言語（英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語）を実施した。

## <体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（4名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

## <広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。SNS（twitter、facebook、LINE）、ブロガー内覧会などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、その他大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへも特別展やミニ展示などの博物館の事業開催や、学芸員の研究成果を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。

	公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいと、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
	最寄り駅：特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している
大阪市経済戦略局文化部での広報	文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちよう並木、毎日新聞「満載イベント」編など
大阪市博物館協会内での共同広報	指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の5施設で共同広報を行っている。

## <広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。

## 広 報 事 業

大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生地質教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店街へは、ポスター等の掲示依頼などを行っている。

### <2016年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内157件、大阪府内191件、その他の府県376件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしいはくぶつかん春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（120,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、特別展「氷河時代」（ポスター B2 1,500枚、B3 5,000枚、チラシ 60,000枚）、大阪自然史フェスティバル（ポスター B2 1,370枚、チラシ 65,000枚）、毎月の催し物案内（1,700枚）
情報提供しているメディア関係	約200社（特別展関係約100社、行事情報約100社）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ18社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ7社、関西レジャー記者クラブ14社、大阪市内区役所広報24区
テレビ放送（特別展以外）	8/3 テレビ大阪「ニュースリアル」 教員のための博物館の日 8/10 NHKニュース 香川恐竜化石の寄贈 11/22 テレビ大阪「ニュースリアル」メタセコイア 12/13 J:COMデイリーニュース大阪 関西甲虫研究史展 など、8件

新聞報道（特別展以外）	4/14 朝日新聞「林学芸員 恐竜の骨の化石を切って発見？」 6/5 毎日新聞「大阪府の石」 8/10・11 朝日新聞他「香川恐竜化石の寄贈」 8/22 大阪日日新聞「自由研究」 9/25 朝日新聞「メタセコイア」 11/27 大阪日日新聞「大阪自然史フェスティバル2016」 12/22 朝日新聞「関西甲虫研究史展」 1/8 日本経済新聞「超大型恐竜 骨に秘密」 1/10 大阪日日新聞「新春ミニ展示『西年』展」 2/16 大阪日日新聞「ホネホネサミット2017」 3/7 日本経済新聞「『梅田迷宮』にアンモナイト!？」 3/31 毎日新聞「地学と防災教育」など、35件
-------------	---

### <2016年度のプレスリリース>

	日付	内容
1	5月10日	特別展「氷河時代 -化石でたどる日本の気候変動-」開催について
2	6月28日	「教員のための博物館の日2016」の開催について（合同プレスリリース）
3	8月4日	香川県初の恐竜化石の寄贈について
4	9月6日	日本甲虫学会・大阪大会 開催記念展示「関西甲虫研究史」開催について
5	9月20日	「大阪自然史フェスティバル2016」開催について
6	11月24日	「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」開催について
7	12月16日	新春ミニ展示「西年」展開催について
8	12月20日	「ホネホネサミット2017」開催について
9	12月27日	「メガ恐竜展2017」開催について
10	2月17日	テーマ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う!～時を越えて発芽する植物標本のタネ～」開催について
11	2月21日	特別展「石は地球のワンダー ～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」開催について

### <特別展の広報>

#### ■特別展「生命大躍進 -脊椎動物のたどった道-」

会 期：平成28年4月16日（土）～6月19日（日）  
※5月2日（月）は臨時開館

プレス発表：平成28年1月26日（火）

内 覧 会：平成28年4月15日（金）

- プレス内覧会：11社20名（NHK大阪、サンケイリビング新聞社、時事通信社、ラジオ関西など）
- 一般内覧会：約300名（大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）
- ブロガー内覧会：11件

■第47回特別展「氷河時代－化石でたどる日本の気候変動－」

- 会期：平成28年7月16日（土）～10月16日（日）
- プレス発表：平成28年5月10日（火）
- 内覧会：平成28年7月15日（金）
- プレス内覧会：5社7名（産経新聞開発、ラジオ関西、ベイ・コミュニケーションズなど）
- 一般内覧会：157名（大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）
- 広報媒体：43の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ3、ラジオ2。
- ブロガー内覧会：10件

■外国人旅行者・外国人居住者に向けた環境整備と発信

文化庁の平成28年度「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」において、大阪市博物館協会内に実行委員会を組織し、「大阪市博物館施設の国際発信強化事業」を申請、採択された。この事業は、各博物館の施設・展示を点検し、外国人来館者のための環境整備を行うとともに、ホームページなどを多言語化し、施設や展示内容を広く発信するものである。

当館では、懸案であった外国語案内パンフレット（英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語）を作成した。また、ホームページはこれまで英語のみであったが、日本語ホームページに対応させた4言語（英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語）のページを作成した。また、それらの内容をもとに、館内の表示を整備した。今後、これらを活用して来館者への情報提供をさらに充実させていきたい。

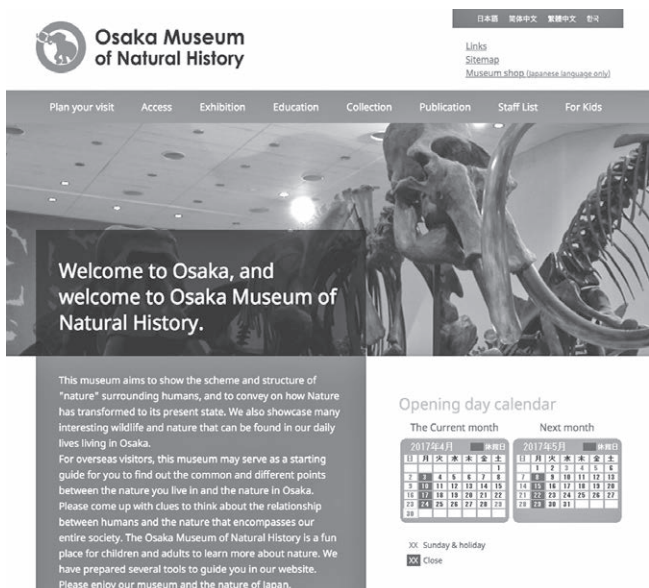


図12. 英語版ホームページ。

\*は館外研究者、[No.] は当館業績番号。

## ■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第71号、2017年3月31日発行、142ページ。

有山啓之：大阪湾南東部岩礁域で採集された“イソテッポウエビ”について。1-9。[No.454]

山本好和・高萩敏和・坂東 誠・川上寛子\*：大阪府地衣類資料Ⅰ。長居公園（大阪市）の地衣類相および日本新産種を含む興味深い4種について。11-16。[No.455]

樽野博幸・河村善也\*・石田 克\*・奥村 潔\*：岐阜県熊石洞産の後期更新世のヤベオオツノジカとヘラジカの化石（その2） 体骨。17-142。[No.456]

## ■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第17号、2017年1月31日発行、8ページ。

楠瀬雄三\*・長谷川匡弘・横川昌史・村上健太郎\*：大阪府の海浜および河口干潟における海岸植物の分布状況。293-300。[No. 453]

## ■常設展解説書

ミニガイドNo.29「裸子植物 イチョウ・ソテツ・球果をつける仲間」

一般市民向け、A5版、本文64ページ（総カラー）、2017年3月31日発行、500円。

著者：塚腰実（大阪市立自然史博物館 地史研究室）

## ■収蔵資料目録 (Special Publications from Osaka Museum of Natural History)

第48集、2017年3月3日発行、204ページ。

波戸岡清峰・花崎勝司：瀬戸内海産魚類標本目録

## ■大阪市立自然史博物館（編）（2016.7）第47回特別展「氷河時代—化石でたどる日本の気候変動—」解説書「氷河時代—気候変動と大阪の自然—」、58pp.

目次と執筆者

はじめに（石井）

### 第1章 気候変動とは（石井）

1 気候変動とは（中条）／2 氷河（石井）／3 氷河性海水準変動（石井）／4 気候変動の研究（石井）／コラム 氷河のでき方（石井・中条）

### 第2章 気候変動の起こる仕組み（中条）

1 地球の温度はどのようにして決まるのか（中条）／2 地球の動きと太陽から受ける熱の関係：ミランコビッチ・サイクル（中条）／3 大陸移動（中条）／4 海洋の循環（中条）／5 太陽活動の変化（中条）／6 破局的なイベントに伴う気候変動：火山噴火と隕石衝突（中条）

### 第3章 気候変動を探る方法（石井）

1 地形（中条）／2 地層（中条）／3 年縞（中川毅\*・石井）／4 化石（塚腰・川端）／5 樹木の年輪（石井）／6 酸素同位体層序（石井）／7 海や湖から得られたポー

リングコア（石井）／8 氷床コア（石井）

### 第4章 地球の歴史の中の気候変動（川端）

1 スノーボールアース（川端）／2 古生代後期の氷河時代（ Gondwana氷河時代）と大陸移動説（川端・塚腰）／3 超温暖化時代だった中生代（川端・林）／コラム 温暖化がもたらした恐竜の巨大化（林）／4 中新世：熱帯の海（塚腰）／5 新生代の大陸移動と気候変動（中条）

### 第5章 第四紀の気候変動と大阪

1 第四紀の気候変動・海水準変動（石井）／2 大阪層群と氷期・間氷期（石井）／3 大阪層群の化石と気候変動（1）植物化石（塚腰）、（2）動物化石（林）／コラム 陸橋と生物分布（樽野）／4 上町海（中条）

### 第6章 最終氷期（石井）

1 繰り返す寒冷化と温暖化（石井）／2 最終氷期の日本列島（石井）／3 最終氷期とその後の日本の哺乳類（林）／コラム ナウマンゾウと大阪（林）／4 最終氷期の日本の森林（佐久間）／コラム 気候変動に立ち向かってきた日本の森と樹木（林竜馬\*）／5 最終氷期の日本の昆虫相（初宿）／コラム 昆虫化石からの気候・環境推定（初宿）

### 第7章 最終氷期から現代へ

1 最終氷期からの気温の上昇（石井・趙哲済\*）／2 最終氷期以降の大阪平野の変遷（中条・趙\*）／3 大阪の人の暮らしと気候変動（趙\*）／コラム 大阪平野地下に眠る海の動物化石（1）地下に眠るクジラ化石（林・樽野\*）（2）貝化石からわかる過去の貝の分布と環境（石田）／4 暖温带林の拡大（佐久間）／5 現在も残る最終氷期の名残（1）地形（中条）（2）遺存種（初宿・佐久間）（3）草原や暖帯林の遺存種（佐久間）／コラム セッケイムシ（谷田）

### 第8章 現在と未来の気候変動（石井）

1 温暖化するとどうなるか（佐久間）／2 温暖化により変化する昆虫相（初宿）／3 未来の気候変動（石井）

口絵Ⅰ、Ⅱ 写真図版 口絵Ⅲ「大阪層群の総合層序図」（石井）口絵Ⅳ「大阪層群から算出する植物化石」（塚腰）口絵Ⅴ 最終氷期及び原生の植生図（佐久間他）口絵Ⅵ-1 長原・山ノ内遺跡を中心とした大阪市域の25万年以降の編年図（趙）口絵Ⅶ、Ⅷ 古地理図及び写真図版

## ■ウェブサイト・SNSの運営

館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として、特にWeb・SNSを利用した情報発信に積極的に取り組んでいる。ホームページ（HP）に関しては、タイムリーで内容豊富な情報の発信に努めており、平成28年度のHPアクセス数（トップページ）は約52.7万件であった。生命大躍進展、氷河時代点など来館者の多い時期とアクセス数のピークは一致している。新着情報は123件を発信（台風による臨時休館など一時的なものを除く）し、タイムリーな情報提供に努めている。

またHP掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「FaceBook」を通じて情報提供するなどしている。Twitterの2016年度の発信数は477件、フォロワー数は3/31時点で6088（前年比



1169人増)であり、広報媒体として良好に機能していることがうかがえる。FaceBookについては、情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数が、昨年度が33万人だったのに対し、今年度は約39万人と増加している。博物館FaceBookページ単体でのリーチ数は19万人程度であり、シェアなどにより拡散されていることが伺える。また2017年1月からは英語版FaceBookページ (<https://www.facebook.com/osakamuseumofnaturalhistory/>) を開設し、不定期ながら外国からの来館者向けの情報提供を試みている。さらに、特別展氷河時代では、学芸員によるギャラリートーク9番組を撮影し、Youtubeで公開した。各番組ともに100-300回再生され、少人数対象のギャラリートークをより多くの市民に楽しんでいただくことを可能とした。その他関西甲虫研究史展のギャラリートークも公開している。また、引き続き特別展の内覧会には、特別展を宣伝協力いただくプロガーを招待し、市民参加型の広報を実施した。

ホームページアクセス実績	
4月	68,188
5月	87,037
6月	66,134
7月	46,173
8月	57,026
9月	40,582
10月	32,823
11月	27,875
12月	21,299
1月	27,275
2月	22,766
3月	29,395
合計	526,573
(昨年)	405,168)

#### ■学術リポジトリの公開

当館は研究報告・自然史研究を国立情報学研究所のNiNELSを利用してCiNiなどに公開してきたが、同事業の停止に伴いJAIRO Cloudを利用したリポジトリシステムを新規に開設した。(<https://omnh.repo.nii.ac.jp/>) 3月末日現在は科研費関連の報告書などを掲載しているが、順次研究報告や自然史研究などの出版物も移設していく予定である。

# 連携(ネットワーク)

自然史博物館の連携事業は、博物館の様々な機能をより効果的に発揮し社会的役割を実現するためのものである。教育普及事業の延長と位置づけられるものから、自然史博物館を社会的にアピールする活動まで幅広く展開している。今後も博物館の使命に照らして様々なパートナーとの連携を展開したい。

## ■大阪市ミュージアムビジョン

大阪市から、今後の博物館をめぐる指針として大阪市ミュージアムビジョンが2016年秋に策定、公表された。

当館からも素案に対するインプットは行ってきた。この中では「都市のコアとなるミュージアム」というコンセプトの元、幅広い連携や市民参画の必要性が盛り込まれている。行政との連携、博物館の連携の意味からもこのビジョンの観点を取り入れて連携を推進する。

## ■大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供、ワークシートなど博物館を活用した教育用素材の提供、意見交換を行っている。SSHに関する指導や相談のほか、自然史フェスティバルや地域自然史と保全研究発表会なども高校生の研究発表・交流の場として活用されている。2016年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した他、2017年1月には会員（教員）による研究発表会も当館で開催した。

## ■大阪市立大学と大阪市博物館協会の包括連携協定

大阪市立大学と大阪市博物館協会の包括連携協定による事業は文化財分野などでも数多く展開されているが2016年は、メタセコイア化石発見から75周年、現生種の生存発見から70周年にあたり市立大学植物園と自然史博物館を中心に「生きている化石『メタセコイア』－化石発見75周年・生存発見70周年記念事業」として以下の事業を行った。

### ●記念講演会

開催日時：平成28年10月22日

開催場所：大阪市立大学文化交流センター

参加者：119名

メタセコイア発見の歴史、そして日本各地への普及、化石と現生種の特徴、現在の都市景観を作っているメタセコイアについて紹介した。

### 【演題・講演者】

「メタセコイアと大阪」 飯野盛利（大阪市大）

「三木茂博士によるメタセコイアの発見」 南木陸彦（流通科学大学）

「生きているメタセコイアの発見と普及」 塚腰実（自然史博物館）

「メタセコイアと文化創造：占領軍からの贈り物」 岡野浩（大阪市大）

●特別陳列「三木茂博士が研究したメタセコイア化石」31ページ参照

●自然史博物館オープンセミナー「三木茂博士によるメタ

## セコイア化石の発見

開催日時：2016年11月5日

開催場所：大阪市立自然史博物館 講堂

講師：塚腰実

講演終了後、特別陳列のギャラリートークを行なった。

このほか、現地化石見学会、大阪市立大学理学部附属植物園観察会を行った。（35ページ参照）

## ■認定特定非営利活動法人大阪自然史センターとの連携

大阪市立自然史博物館は（公財）大阪みどりのトラスト協会、（公財）大阪自然環境保全協会など、大阪の生物多様性をめぐる主要な団体とも専門的見地からの指導や協力を含め、多様な協力関係にある。この中において大阪自然史センターは大阪市立自然史博物館友の会を母体とした認定NPOを法人である。博物館を市民の学習のために活用することを目的とした同団体とは、連携協定に基づき大阪自然史フェスティバルの共催をはじめ、野外行事を始めとする各種行事での共催・協力、ミュージアムグッズの開発、東北大震災による被災地での自然史ワークショップ展開など多くの事業で協力関係にある。

近年では次項に示す保全ネットワークの事務局として大阪の生物多様性をめぐる官・学・民の連携の中核となるなど、博物館と他の組織の連携の要となることも多い。

## ■大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪生物多様性保全ネットワークは、大阪府・大阪市・堺市など行政機関と研究機関及び自然系NPOが連携して生物多様性課題に対処するために大阪自然史センターを事務局として設立された。2012年度より大阪府のレッドリストの改定に取り組み、2015年3月に公表、その後はさらに生物多様性保全のための普及啓発と事業展開を関連機関と協力して行っている。

- ・生物多様性普及啓発事業として国際生物多様性の日シンポジウム「街のなかから生き物たちにつながるために」を5月22日なんばパークスにて開催したほか、普及教育のためのシンポジウムなどを開催。生物多様性普及啓発キャンペーンのためのチラシやホームページ、のぼりなどを作成
- ・環境省助成事業「地域循環共生圏構築に向けた実証地域における活動助成」を受託。能勢町及び吹田市にてシンポジウムや学生のための体験ツアーなど、生物多様性を活かした地域づくりの事業展開を行った。自然史博物館ではシンポジウム「都市が里山に関わるということ－森里川海と都市住民－」を関西自然保護機構などと共済して3月5日に実施した。
- ・その他、大阪市や府の生物多様性関連事業に対し助言等を行っている。

## ■西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、

研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。当館も中核となる加盟館として連携し、事業に協力している。

2016年度は以下のような事業を行った。

- ・熊本地震の発生に際し、自然史系資料を有する周辺博物館施設の状況把握に努め、連携する文化遺産保全ネットワークに報告するなどの緊急対応を行うとともに、以下のような事業を行った。
- ・三重県博物館にて、展示評価ワークショップ
- ・国立科学博物館と共催にてGBIF標本情報発信の研究会開催
- ・「イチ押し！瀬戸内海の自然トピックス」の巡回（巻頭言参照）
- ・自然史レガシー継承事業と連携しての展示会「日本文化を育んだ自然 where culture meets nature」を京都花洛庵にて開催（次項参照）
- ・生物多様性協働フォーラム「生物多様性のためのソーシャルデザイン」の開催（2016年12月4日、大阪グランキューブ、参加者351名）
- ・小さいとこサミット「小規模ミュージアムのつどい」後援、タンポポ調査協力、100円ショップグッズ巡回展示協力、橿原市昆虫館虫まつり出展（2016.1.1～2016.12.31）

#### ■自然史レガシー継承・発信実行委員会

自然史系資料の重要性と価値を広く社会にアピールすることを目的として、文部科学省「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」により採択された事業である。

実行委員会は自然史系博物館8館（北海道博物館・栃木県立博物館・国立科学博物館・三重県総合博物館・大阪市立自然史博物館・橿原市昆虫館・北九州市立自然史・歴史博物館 事務局：兵庫県立人と自然の博物館）により構成され、西日本自然史系博物館ネットワークが基盤組織として参加した。

主な事業は以下の2点である。

- ・コレクションの重要性や魅力を伝え、さらに展示物として活用する公開型収蔵庫や収蔵展示、デジタル化などの内外の事例や課題を調査し、今後の「収蔵庫問題」の解決を図る事例提言集をまとめた。報告書は兵庫県立人と自然の博物館から発行されている。
- ・京町家野口家住宅花洛庵を会場に、協力館8館の収蔵資料を集めて自然と文化の関わりをテーマとした展示を行った。京町家で様々な自然史系資料を展示する試みはおそらく世界で初めてであり、ユニークベニューの一事例として、また自然史資料と文化の融合を試みた。当館からは京都で発見され京都を最後に絶滅した魚ミナミトミヨの標本を展示した他、ミュージアムショップを大阪自然史センターの協力で展開した。詳細は高野温子（2017）京町家を自然史博物館に～自然史レガシー継承・発信事業の試み～ <http://jcs.jp/wp-content/uploads/presentation/>

24case12.pdf を参照いただきたい。

#### ■ICOM京都に向けた4館会議

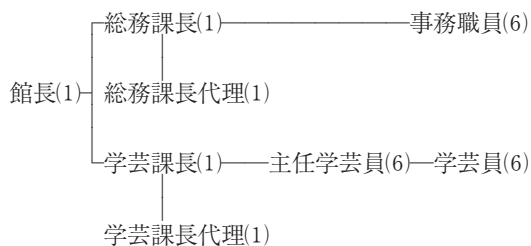
2019年9月に京都で開催されるICOM京都大会（国際博物館会議）では自然史系博物館の会議NATHISTも開催される。どのようにこの会議をホストするか、国立科学博物館・滋賀県立琵琶湖博物館・兵庫県立人と自然の博物館・大阪市立自然史博物館の4館で準備に向けた会議をもち、調整を行っている。海外からのゲストへのホスピタリティ、国内外の自然史系博物館学芸員・関係者の交流とともに、京都市民を始めとする社会への自然史系博物館のアピールも重要な要素となることなどを確認した。

## I. 沿革

- 昭和24年11月8日 - 自然科学博物館開設準備委員会設置  
 昭和25年4月1日 - 自然科学博物館費予算に計上  
 昭和25年11月10日 - 市立美術館2階廊下にて展示開設  
 昭和27年4月17日 - 博物館相当施設に指定  
 昭和27年6月2日 - 大阪市立自然科学博物館条例および規則制定  
 昭和27年7月10日 - 博物館法第10条により登録(第2号)  
 昭和27年10月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4 退任)  
 昭和32年6月7日 - 市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転  
 昭和33年1月13日 - 開館  
 昭和34年 - 新館建設について本市社会教育審議会の意見具申  
 昭和39年 - 日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)  
 昭和39年8月1日 - 筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託 - 40. 7. 31退任)  
 昭和40年8月1日 - 千地万造 館長に就任(58. 6. 1 退任)  
 昭和42年 - 大阪市総合計画局30年後の大阪の将来計画により長居公園内に新館敷地確定  
 昭和44年8月 - 新館建設のための基本構想審議委員会組織  
 昭和47年1月21日 - 自然史博物館建設工事着工  
 昭和48年3月31日 - 自然史博物館建設工事竣工  
 昭和48年7月 - 新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)  
 昭和49年4月1日 - 大阪市立自然史博物館条例公布  
 昭和49年4月26日 - 自然史博物館開館式挙行  
 昭和49年4月27日 - 開館  
 昭和51年8月19日 - 文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定  
 昭和58年7月1日 - 千地万造 館長に就任(非常勤嘱託 - 61. 3. 31退任)  
 昭和59年6月 - 常設展更新基本計画案策定  
 昭和60年3月 - 常設展更新計画書策定  
 昭和61年3月31日 - 常設展更新業務完成  
 昭和61年4月1日 - 新装開館  
 昭和61年4月1日 - 小川房人 館長に就任(兼務 - 2. 3. 31定年退職)  
 昭和61年4月1日 - 千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託 - 2. 3. 31退任)  
 平成2年4月1日 - 小川房人 館長に就任(非常勤嘱託 - 3. 3. 31退任)  
 平成2年度 - 文化施設整備構想調査  
 平成3年4月1日 - 小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託 - 5. 3. 31退任)  
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31定年退職)  
 平成3・4年度 - 自然史博物館整備構想調査事業  
 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査  
 平成4年4月1日 - 柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託 - 7. 3. 31定年退職)  
 平成7年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31定年退職)  
 平成7年度 - 自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置  
 平成8年度 - 展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討  
 平成9年4月1日 - 宮武頼夫 館長に就任(嘱託 - 10. 3. 31退職)  
 平成9年度 - 展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計  
 平成10年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31定年退職)  
 平成10年12月 - 花と緑と自然の情報センター建築工事着工  
 平成13年3月 - 花と緑と自然の情報センター竣工  
 平成13年4月1日 - 那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)  
 平成13年4月27日 - 花と緑と自然の情報センター開館式挙行  
 花と緑と自然の情報センター開館  
 平成17年4月1日 - 山西良平 館長に就任(27. 3. 31退任)  
 平成18年3月1日 - 本館エントランス及びポーチリニューアルオープン  
 平成18年4月1日 - (財)大阪市文化財協会が指定管理者となる  
 平成19年3月24日 - 第5展示室一部リニューアルオープン  
 平成20年4月26日 - 第5展示室全面リニューアルオープン  
 平成22年4月1日 - 財団統合により(財)大阪市博物館協会が指定管理者となる  
 平成24年3月 - 本館・大阪の自然誌コーナー・ネイチャーホールの展示照明等LED化  
 平成27年4月1日 - 谷田一三 館長に就任  
 平成27年10月10日 - 長居公園に移転してからの通算入場者数が1,000万人を突破

## Ⅱ. 組 織

■職員数（平成28年4月1日現在） 計23名



■職員名簿（平成28年4月1日現在） 計23名

職名	氏名	職種	氏名
館長	谷田 一三	学芸課長	川端 清司
総務課長	北野 昌紀	学芸課長代理	金沢 至
総務課長代理	大坪 秀行	主任学芸員	波戸岡清峰
施設管理担当課長代理	(森 健二)	〃	塚腰 実
事務職員	高橋 郁子	〃	初宿 成彦
〃	木野 美奈	〃	佐久間大輔
〃	(釋 知恵子)	〃	和田 岳
〃	樋口 祥子	〃	中条 武司
〃	松岡 由布	学芸員(四紀)	石井 陽子
〃	大江 彩佳	学芸員(昆虫)	松本 吏樹郎
〃	山上 香代	学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	長谷川 匡弘
		学芸員(植物)	横川 昌史
		学芸員(地史)	林 昭次

### ■人事異動

なし

## Ⅲ. 庶務日誌

■平成28年度 博物館関係者来訪

- 28. 4. 12 ハンブルグ大博物館  
展示視察
- 28. 7. 2 三重大学教育学部理科教育講座  
ホーチミン師範大学（ベトナム）の学生の引率
- 28. 10. 6-7 野尻湖ナウマンゾウ博物館  
展示視察及びヒアリング
- 28. 10. 7 北海道むかわ町役場穂別総合支所 地域振興課  
展示視察及びヒアリング
- 28. 11. 6 関西大学博物館  
展示視察及びヒアリング
- 28. 11. 6 釜山広域市海洋自然史博物館  
展示視察及びヒアリング
- 29. 1. 18 鹿児島県立博物館  
展示視察及びヒアリング
- 29. 1. 24 大阪府立大学大学院理学系研究科、京都大学  
生態学研究センター、韓国プサン国立大学

- 展示視察及びヒアリング
- 29. 2. 3 沖縄県立辺土名高等学校  
展示視察及びヒアリング
- 29. 3. 15 高槻市教育委員会 地域教育青少年課  
展示視察及びヒアリング

### ■館長受嘱委員

- 公益財団法人日本博物館協会参与  
平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 公益財団法人河川財団評議員  
平成27年4月9日～平成29年6月頃
- 一般財団法人大阪科学技術センター評議員  
平成27年4月2日～平成32年6月頃
- 公立大学法人大阪府立大学客員研究員  
平成28年4月1日～平成29年3月31日
- 一般財団法人水源地環境センター WEC応用生態研究助成審査委員  
平成27年4月30日～平成29年3月31日
- 一般財団法人水源地環境センター 水源地環境技術委員会委員  
平成27年5月22日～平成31年3月31日
- 一般財団法人水源地環境センター 理事  
平成27年6月25日～平成29年6月評議員会
- 豊かな環境づくり大阪府民会議 委員  
平成27年4月1日～平成29年3月31日
- 公益財団法人リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等検討委員会 委員  
平成28年5月16日～平成29年3月31日
- 公益財団法人リバーフロント研究所 河川水辺の国勢調査『河川版・ダム湖版』スクリーニング委員会 委員  
平成29年1月5日～平成29年3月31日
- 一般社団法人国際環境協会 環境研究企画委員会 自然共生型社会部会委員  
平成28年5月18日～平成29年3月31日
- 大阪府環境審議会専門委員（環境・みどり活動促進部会）  
平成27年6月18日～平成28年7月22日
- 国土交通省 社会資本整備審議会河川分科会 河川整備基本方針検討小委員会 委員  
平成28年3月8日～平成30年3月31日
- 環境省水・大気環境局 生物を用いた水環境の評価・管理手法に関する検討会 委員  
平成28年6月1日～平成29年3月31日
- 国立研究開発法人 国立環境研究所 客員研究員  
平成28年9月12日～平成29年3月31日

Ⅳ. 決 算

■平成26年度～平成28年度

(単位 千円)

区分	事 項	平成26年度	平成27年度	平成28年度
収	入 館 料 ほ か	26,163	22,819	38,607
	常 設 展 観 覧 料	13,767	16,151	19,466
	特 別 展 観 覧 料	11,852	6,286	18,737
	施 設 使 用 料	544	382	404
入	雑 収	2,667	2,300	3,103
	図 録 販 売 収 入 等	1,096	1,313	2,947
	そ の 他	1,571	987	156
	合 計	28,830	25,119	41,710
支 出	展 覧 事 業	22,302	9,140	21,588
	常 設 展 覧 事 業	2,912	1,474	2,240
	特 別 展 覧 事 業	19,390	7,666	19,348
	調 査 研 究 事 業	6,198	6,687	7,437
	資 料 収 集 保 管 事 業	1,890	1,820	2,555
	普 及 教 育 事 業	4,475	4,849	4,790
	充 実 活 性 化 事 業	930	949	986
	施 設 管 理 費	118,997	116,326	115,799
	一 般 維 持 管 理 費 等	195,402	203,813	201,179
	合 計	350,194	343,584	354,334

## V. 入館者数 (平成28年度)

## ■本館常設展入館者数

月	区分	有 料					無 料								計	開館 日数
		個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
		大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以下	優待・招 待・その他			
(28)	4	13,389	625	174	135	14,323	263	3,651	39	3	279	4,786	3,235	12,256	26,579	26
	5	28,517	1,770	700	97	31,084	1,406	12,432	1,249	239	1,194	7,444	4,929	28,893	59,977	27
	6	22,785	1,774	199	2	24,760	320	2,173	1,139	134	333	4,498	4,112	12,709	37,469	26
	7	4,620	273	143	65	5,101	563	63	196	26	100	4,111	1,716	6,775	11,876	27
	8	6,799	939	1,188	46	8,972	25	0	73	12	39	7,141	2,510	9,800	18,772	27
	9	7,179	202	244	273	7,898	129	1,139	79	21	125	3,929	1,322	6,744	14,642	26
	10	4,269	238	113	42	4,662	1,488	8,688	123	106	904	3,197	1,759	16,265	20,927	26
	11	2,630	143	330	0	3,103	966	2,480	1,244	119	403	2,015	14,515	21,742	24,845	26
	12	4,567	202	67	4	4,840	118	201	579	9	59	1,459	871	3,296	8,136	23
(29)	1	2,211	168	102	1	2,482	80	62	274	10	73	2,079	966	3,544	6,026	23
	2	468	26	15	1	510	56	0	114	22	14	398	186	790	1,300	5
	3	6,323	263	138	9	6,733	1,297	8	219	12	189	4,023	1,557	7,305	14,038	27
	計	103,757	6,623	3,413	675	114,468	6,711	30,897	5,328	713	3,712	45,080	37,678	130,119	244,587	289

※本館改修工事のため2/6～2/28休館

## ■無料団体観覧内訳

区分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	85	4,179	52	2,532	137	6,711
小 学 校	138	12,448	215	18,449	353	30,897
中 学 校	60	2,738	56	2,590	116	5,328
特別支援学校・他	11	201	13	234	24	435
福祉施設	20	182	6	96	26	278
団体引率者		1,743		1,969		3,712
計	314	21,491	342	25,870	656	47,361

# 庶務

## ■特別展入館者数（平成18年度～平成28年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他 無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生 以下無料				
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～ 3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4. 1～ 6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～ 9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12. 7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～ 5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7. 4～ 8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11. 3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～ 3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4. 1～ 5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10. 8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7. 2～ 8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～ 3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4. 1～ 6. 3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～ 3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197	9,401	21,561	217	69	13,705	70,589	4. 1～ 6. 2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366	5,616	5,216	26	46	3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきものいっぱい 大阪湾
	8,054	261	2,583	9,391	4	12	276	20,581	3.21～ 3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
26	28,452	863	12,521	31,113	7	78	16,846	89,880	4. 1～ 5.25	50	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
	3,330	509	3,919	3,528	27	48	1,914	13,275	7.19～10.13	73	ネコと見つける都市の自然
	6,783	255	2,199	7,457	4	19	248	16,965	3.21～ 3.31	11	スペイン 奇跡の恐竜たち
27	33,701	1,306	12,034	29,970	94	134	16,477	93,716	4. 1～ 5.31	55	スペイン 奇跡の恐竜たち
	5,414	600	4,035	5,956	129	41	5,314	21,489	7.18～10.18	80	たまごとたね
28	47,734	3,128	11,076	27,444	114	302	18,291	108,089	4.16～ 6.19	57	生命大躍進
	8,065	1,016	5,063	8,125	80	54	2,991	25,394	7.16～10.16	81	氷河時代

## VI. 貸室の利用状況

### ■講堂 平成28年度 7件

年月日	団体名	使用目的	人数
H28. 6. 17	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H28. 6. 22	NPO法人大阪府高齢者大学校	校外学習	52
H28. 7. 15	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H28. 9. 16	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H28. 10. 21	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H28. 11. 18	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマとした講演会と会議	110
H29. 1. 25	NPO法人大阪府高齢者大学校	校外学習	50

### ■特別展示室（ネイチャーホール） 平成28年度 2件

年月日	団体名	使用目的	人数
H28. 12. 2～ 4	万葉押し花倶楽部	押し花を利用して製作した作品展示	300
H28. 12. 9～11	一般社団法人日本書道技術師認定協会	第4回日本書道展	1000



## Ⅶ. 施 設

### 自然史博物館本館

■所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造  
地下1階、地上3階

### ■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
旧第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
旧第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m(平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
1階部屋	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	
応接室	29.54㎡	2.70m	
休憩室	16.85㎡	2.55m	
警備員室	17.64㎡	2.70m	
会議室	47.56㎡	2.70m	

機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
旧自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

### ■階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

### ■各室定員

講堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階……………	3人		

### ■工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

### ■総事業費 10億1,000万円

(建設工事費) 7億9,500万円

・本体工事(株竹中工務店) 4億9,200万円

・付帯工事 3億0,300万円

(設計監督委託料) 2,700万円

(その他) 3,800万円

事務費、移転費、公園樹木移設工事費

ネットフェンス設置工事費等

(内部設備費) 1億5,000万円

・第1展示室ディスプレイ(株日展) 2,200万円

・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社) 2,500万円

・第3展示室ディスプレイ(株丹青社) 2,100万円

・オリエンテーションホールディスプレイ(株電電広告) 600万円

・展示品購入費 3,200万円

・庁用器具、調査、研究用機器、資料保管用物品等

4,400万円

### ■国庫補助金・起債

・国庫補助金 3,000万円(47. 10. 13付交付決定)

・起債 3億8,762万円(47. 8. 25付交付決定)

## 庶務

### 花と緑と自然の情報センター

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構造 鉄骨鉄筋コンクリート造  
地下1階、地上2階塔屋付建物

### ■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌	638.82㎡		4.20m
ネイチャーホール	764.95㎡		7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)	47.99㎡		4.00m
準備室兼置場(2)	68.34㎡		4.00m
冷蔵庫室	21.99㎡		5.00m
資料前処理室	20.14㎡		4.00m
一般収蔵庫	748.34㎡		5.00m
特別収蔵庫	688.22㎡		5.00m
液浸収蔵庫	323.48㎡		5.00m
前室(1)	36.80㎡		4.00m
前室(2)	16.20㎡		4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター	111.11㎡		5.00m
ミュージアムサービス	39.22㎡		5.00m
実習室	105.75㎡		3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター	32.78㎡		5.60m
空調機械室	116.93㎡		6.50m
機械室	722.99㎡		5.60m
E V 機械室	49.08㎡		5.60m
技術スタッフ室	15.58㎡		3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下	28.74㎡		3.00m
1階廊下	48.30㎡		3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡		3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡		3.00m
プロムナード	28.00㎡		5.00m
2階便所	57.02㎡		2.50m
E V 室	47.52㎡		2.90m
トラックヤード	88.13㎡		
階段	103.18㎡		
	総計	5,000.00㎡	

### ■階数別面積

地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	0,993.04㎡
3階……	0,049.08㎡

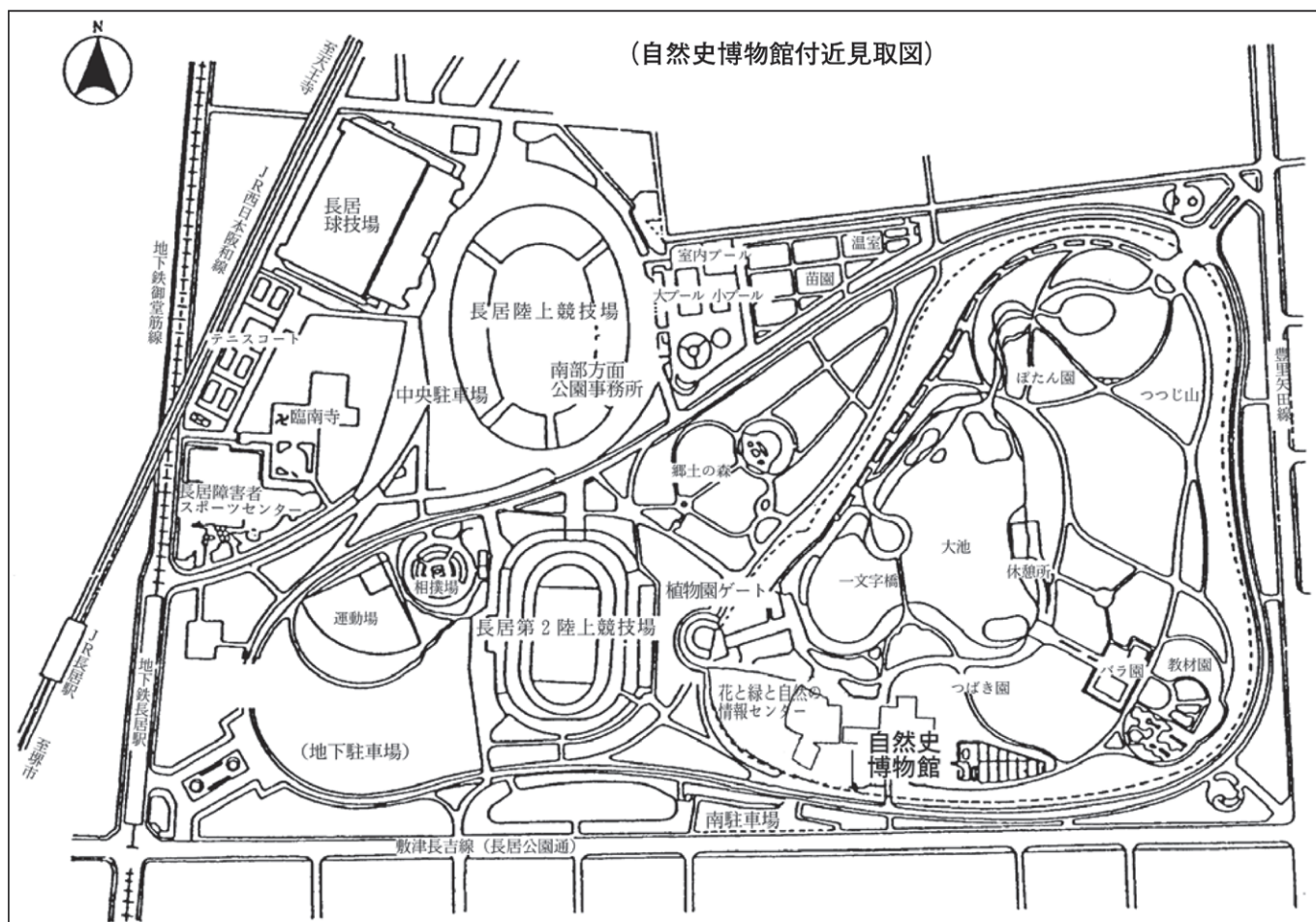
■工期 平成10年12月～平成13年3月

■総事業費 41億6,665万円  
(建設工事費) 24億4,558万円

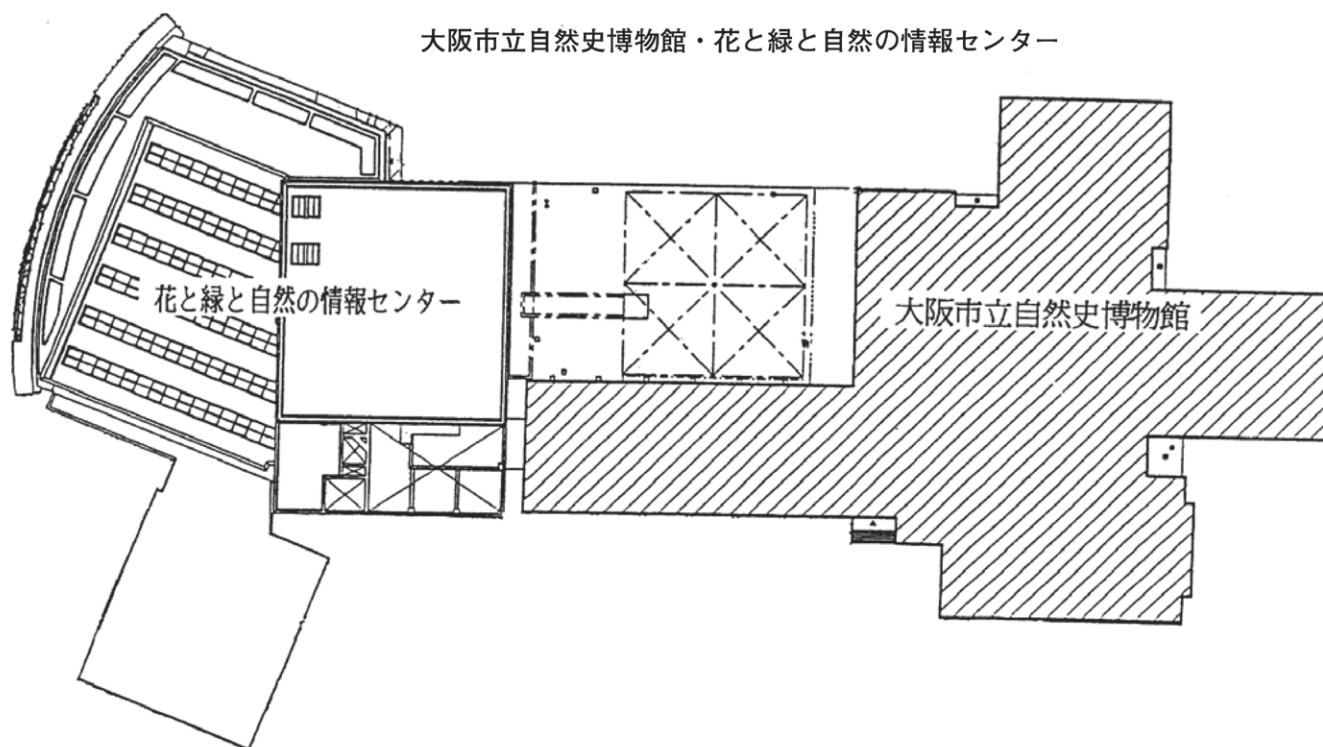
(設備工事費) 11億9,650万円  
(設計監督委託料) 5,751万円  
(外溝工事費他) 4億6,706万円

### ■起債等

・起債 34億7,477万3千円  
・雑収(宝くじ協会) 3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

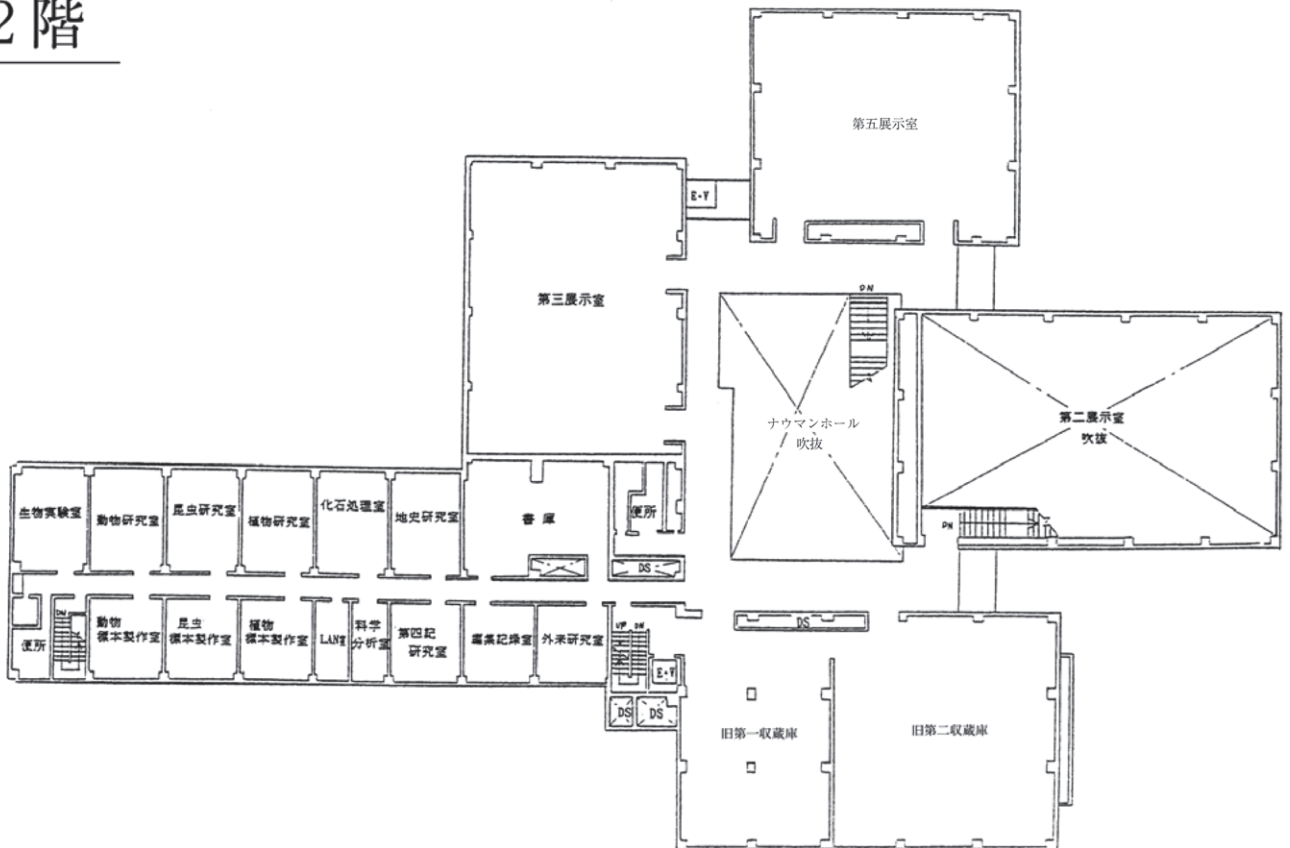


# 1階

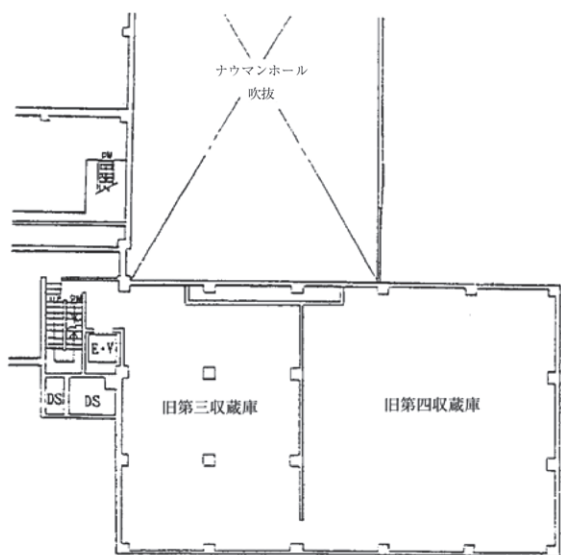
(自然史博物館本館)



# 2階



### 3階

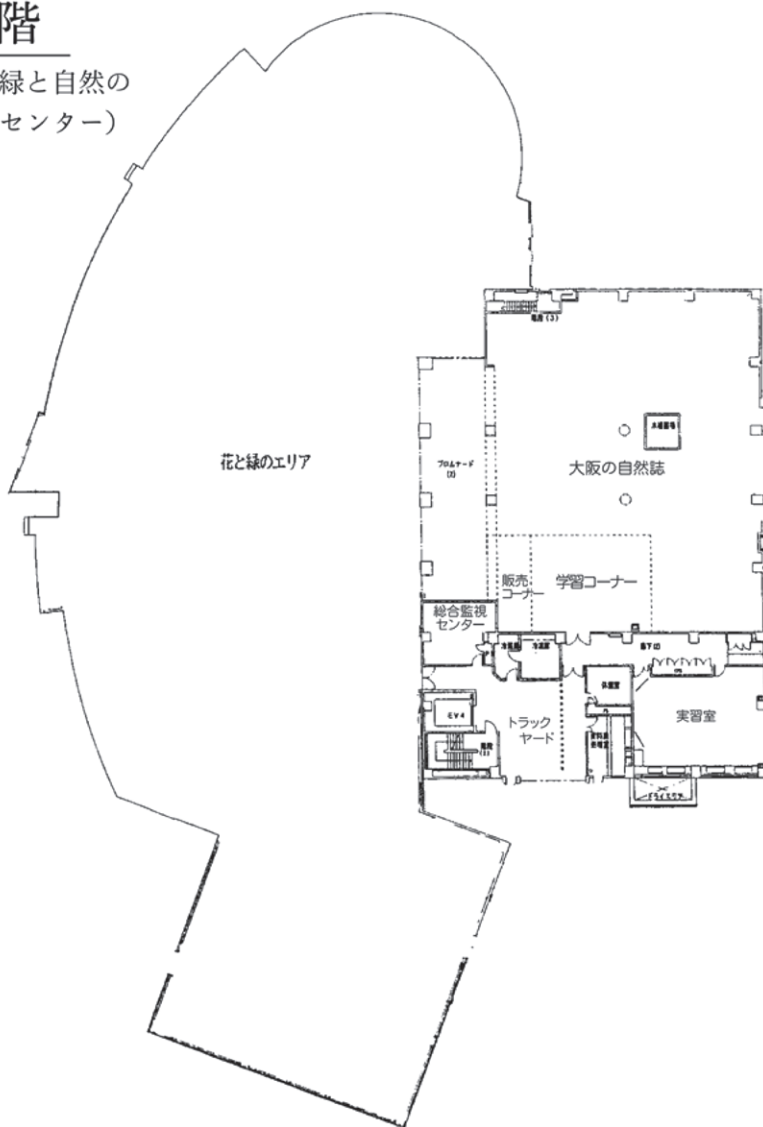


### 地下



### 1階

(花と緑と自然の  
情報センター)







## ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2016

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN

Issued : June 1, 2017.